

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症								
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	経済産業	生態系被害	繁殖	気候	人間	経済産業	利用	付着混入																
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候																										
29	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①②③④		クマネズミ	<i>Rattus rattus</i>	I、II、III			○	-	◎	-	○	○	◎	◎	◎	-	-														人獣共通感染症を含む病原体の媒介(E型肝炎、リンパ球性脈絡膜膜炎、Q熱、鼠咬症、レプトスピラ症、広東住血線虫症等)							
30	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①②③④	特定外来生物	ヌートリア	<i>Myocastor coypus</i>	I			-	-	○	-	○	○	○	-	◎	○	-														ヌートリア異線虫症							
31	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①		アナウサギ(カイウサギ)	<i>Oryctolagus cuniculus</i>	I、II、III			○	-	○	-	○	○	○	-	○	◎	-														家畜伝染病予防法による検疫対象動物	野兔病、ウイルス性出血熱						
32	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①②	特定外来生物	ハリネズミ属(アムールハリネズミ、マンシュウハリネズミなど)	<i>Erinaceus spp.</i>	I			-	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-														サルモネラ症							
33	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①②③		イエネコ	<i>Felis catus</i>	I、II			○	○	◎	-	○	○	-	◎	-	◎	-														トキソプラズマ症、レプトスピラ症、リステリア症、カンピロバクター症、ハスツレラ症、皮膚糸状菌症、ネコ回虫症、猫ひっかき病、Q熱、SFTS、狂犬病							
34	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①②③④		ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>	I、III			○	-	◎	-	○	○	◎	◎	◎	◎	-															重症急性呼吸器症候群(SARS)、トキソプラズマ症、サルモネラ症、エールシア症、疥癬ほか						
35	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①②③④	特定外来生物	フイリマングース	<i>Urva europunctata (Herpestes europunctatus)</i>	I、II			○	-	◎	-	○	○	◎	-	◎	-	-														レプトスピラ症							
36	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①②③		イヌ	<i>Canis familiaris</i>	I			-	-	◎	-	○	○	-	◎	-	◎	-														狂犬病、レプトスピラ症、ハスツレラ症、カブノサイトファーガ・カニモルサス感染症、コロナバクテリウム・ウルセランス感染症、ブルセラ症、リステリア症、サルモネラ症、カンピロバクター症、エルシニア・エンテロコロリチの感染症、仮性結核、皮膚糸状菌症、トキソプラズマ症、回虫幼虫移行症、Q熱、エキノコックス症、SFTS							

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散																
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入															
37	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①②③④	特定外来生物	ミンク(アメリカミンク)	<i>Neovison vison</i> (<i>Mustela vison</i>)	I、II、III					○	-	◎	-	○	○	◎	-	◎	○	-	北米原産。ヨーロッパ、ロシア、中国に外来分布。	北海道、宮城、福島、群馬、長野。	河川、湖沼周辺の森林、草地。	かつて、毛皮を目的として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しない。	世界自然遺産地域の知床等に定着している。サンショウウオ類や鳥類、小型哺乳類の捕食が懸念される。また在来のイタチ類に競合による影響を及ぼす可能性がある。	①特定外来、③GISD、④各県：北海道、福島、茨城、栃木、群馬、長野、大分、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	北海道におけるアメリカミンク防除実施計画書 https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/1/2/4/8/3/4/2/2/_/%E5%8C%97%E6%B5%B7%E9%81%93%E3%81%AB%E3%81%9A%E3%81%91%E3%82%AB%E3%82%A2%E3%83%A1%E3%83%AA%E3%82%AB%E3%83%9F%E3%83%B3%E3%82%AF%E9%8B%2E%E9%99%A4%E5%AE%9F%E6%96%BD%E8%A8%8E%E7%94%B5%E6%98%B8,%E6%9C%AC%E6%96%87.v2.pdf 【URL取得日：2026年1月8日】	-	感染症法の輸入届出対象動物 鳥獣保護管理法の狩猟鳥獣	新型コロナウイルス感染症	
38	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①②③④	特定外来生物	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	I、II、III					○	-	◎	-	-	○	◎	◎	◎	○	-	北中米原産。ヨーロッパや西インド諸島等に外来分布。	北海道、本州、四国、九州。	市街地、農地、草地、河川敷、森林。	ペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が動物園等で飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しない。	世界自然遺産地域の知床等に定着している。北海道ではニホンザリガニやエゾサンショウウオの食害、サギ類のコロニーの消失等の生態系影響を生じている。本州でも二枚貝の捕食を通じたタナゴ類への影響や、ニホンシギタシ、サンショウウオ類、カエル類の捕食等が見られている。	①特定外来、②W100：日本、④各県：北海道、青森、福島、茨城、栃木、群馬、千葉、東京、長野、岐阜、静岡県、愛知、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、香川、高知、福岡、佐賀、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	山口ほか(2024)市町村ができる特定外来生物アライグマの捕獲強化対策－北海道新十津川町の事例 https://www.jstage.jst.go.jp/article/hozen/29/1/29_2310/_pdf/-char/ja 【URL取得日：2026年1月7日】 農林水産省：野生鳥獣被害防止マニュアル－アライグマ、ヌートリア、キョン、マングース、タイワンリス(特定外来生物編) https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/manyuaru/6_old_manual.html#o8 【URL取得日：2026年1月7日】	環境省：アライグマ防除の手引き https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/araiguma_tebiki_kansei.pdf 【URL取得日：2026年1月7日】 北海道：北海道アライグマ捕獲プログラム https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/alien/araiguma/araiguma_top.html 【URL取得日：2026年1月7日】	狂犬病予防法の検疫対象動物 鳥獣保護管理法の狩猟鳥獣	狂犬病、ジステンパー、アライグマ裏線虫 Strongyloides procyonis、アライグマ蛭虫 Baylisascaris procyonis、インフルエンザ、日本脳炎、レプトスピラ、紅斑熱群リブチア、サルモネラ、SFTS等	
39	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①④		ブタ(イノブタを含む。)	<i>Sus domestica</i>	I					-	-	◎	-	○	○	-	◎	-	◎	-	北米、オーストラリア等、世界に広く外来分布。	北海道足寄町、沖縄県西表島で家畜が野生化した個体が分布。	草地、農地、森林等。	家畜として多数飼育されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しない。	原種のイノシシはユーラシア原産。小笠原諸島の弟島ではアオウミガメの卵の採食や、昆虫類の減少を引き起こしていた。小笠原諸島弟島では根絶に成功した。	②W100：IUCN・日本、③GISD、④各県：北海道、栃木、群馬、静岡県、愛知、滋賀、京都、兵庫、福岡、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	弟島におけるノブタの根絶の達成 https://ogasawara-info.jp/pdf/science/h21_04.shiryous_1.pdf 【URL取得日：2026年1月8日】	-	家畜伝染病予防法による検疫対象動物(イノシシ、イノブタのみ)	日本脳炎、SFTS、狂犬病、E型肝炎、豚インフルエンザ、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、寄生虫病である回虫症、旋毛虫症、猪オンコセルカ症、顎口虫症、肺吸虫症、有鉤条虫症、クリプトスポリジウム症	
40	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①②④	特定外来生物	キョン	<i>Muntiacus reevesi</i>	I、II、III					○	-	○	-	○	○	○	-	◎	○	-	中国、台湾原産。イギリスに外来分布。	千葉、茨城、伊豆大島。	市街地、公園、農地、草地、森林等。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、複数の動物園で飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しない。	房総半島と伊豆大島の観光施設から逸出して定着した。それぞれ千葉県、東京都が防除を実施している。2017年に個体が確認された茨城県では、生息情報の収集を行っている。	①特定外来、④各県：茨城、栃木、群馬、千葉、東京、長野、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	千葉県：第2次千葉県キョン防除実施計画 https://www.pref.chiba.lg.jp/shizen/choujuu/kyon/documents/2nd_kyon.pdf 【URL取得日：2026年1月7日】	野生鳥獣被害防止マニュアル－アライグマ、ヌートリア、キョン、マングース、タイワンリス(特定外来生物編)－平成22年3月版 https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/manyuaru/6_old_manual.html#o8 【URL取得日：2026年1月7日】	家畜伝染病予防法による検疫対象動物	-	
41	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①②③④		ヤギ	<i>Capra hircus</i>	I、II					-	-	◎	○	○	○	◎	◎	○	◎	-	西アジア原産。世界に広く外来分布。	小笠原諸島父島、八丈島、八丈小島及び、奄美大島、西表島等南西諸島の各地で家畜が野生化した個体が分布。	農地、草地、森林等。	家畜として多数が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しない。	小笠原諸島翌島、兄島等では根絶に成功した。小笠原諸島の島では食害による植生破壊と土壌の流出が発生した。	②W100：IUCN・日本、③GISD、④各県：群馬、東京、山口、佐賀、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	東京都：東京都の取組－外来種対策－ノヤギ排除 https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/07ogasawara/nature/heritage/grapple_chichijima 【URL取得日：2026年1月7日】 沖縄県外来種対策行動計画に基づくノヤギ防除計画 https://www.pref.okinawa.jp/res/projects/default_project/_page/_001/004/820/noyagi_plan.pdf 【URL取得日：2026年2月19日】	-	家畜伝染病予防法による検疫対象動物	ブルセラ症、炭疽、トキソプラズマ症、	

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト改定案 <動物(鳥類)>
【国外由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入)
① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。
② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。
③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。
④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

選定理由
Ⅰ. 生態系被害が大きいもの。
Ⅱ. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。
Ⅲ. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。
Ⅳ. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※掲載の順番は、分類の並びとし、原則日本鳥学会（2024）日本鳥類目録改訂第8版、日本鳥学会、東京、471pp.及び財団法人山陽鳥類研究所（1979）ドバト害防除に関する基礎的研究に基づいた。

※ 特定外来生物で指定時から学名に変更があったものについては、原則現学名の後に指定時の学名を括弧書きで記述した。

※ 飼養等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2026.3.27時点

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症		
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散																	
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候			人体	経済産業	利用	付着混入														
侵入・定着防止外来種(未定着)																																			
定着防止外来種(侵入事例はあるが定着していない種)																																			
1	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	カナダガン	Branta canadensis	I	○	-	○	◎	○	-	◎	○	-	-	○	○	-	北米原産。ヨーロッパ、ニュージーランド、オーストラリアに外来分布。	-	湖沼、河川等。	現在は、特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されている。展示目的で許可を受けた個体が動物園等で飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	2015年12月4日茨城県に野外分布していた2個体の捕獲が実施された結果、国内に生息していた野外個体はすべて捕獲されて根絶が完了した。国内に生息していた個体は亜種オオカナダガンBranta canadensis mollittiとされる。かつてカナダガンが増加した国内地域において、草地の過食、水害への被害、水際の土壌流出等が問題となった。日本に冬鳥として飛来する種シジュウカラガンB. hutchinsiiとの交雑リスクが強く懸念される。シジュウカラガンは、2004年に分類が見直されるまでは、カナダガンの1亜種と分類されていた近縁な種である。	①特定外来、③GISD、④各県：福島、茨城、千葉、神奈川、長野、静岡県、長崎、沖縄	加藤(2010)、栗山・加藤ほか(2020)	特定外来生物カナダガンの国内根絶について(環境省報道発表:20151208) https://www.env.go.jp/press/101789.html【URL取得日:2026年1月7日】	特定外来生物カナダガンの生態系からの除去の活動記録 http://kume.life.coccan.jp/goose/42hayama.pdf【URL取得日:2026年1月7日】	-	-			
2	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	シリアカヒヨドリ	Pyononotus cafer	I	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-	○	-	インド、パキスタン、ネパール、中国南部、バングラデシュ、ブータン、ミャンマー、タイ北部原産。東アラブ、太平洋諸島等に外来分布。	-	都市、農耕地、森林等。	かつてはペットとして飼養されていた可能性がある。現在は、特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されている。	-	神奈川県での確認事例がある。フジでは、生息地(敷)が隣接する在来鳥類を追い出してしまふ他、果樹や菜園に対する深刻な害鳥として考えられおり、トマトやナス、キャベツ類、ササゲ等の豆類に大きな被害を与えたことが確認されている。	①特定外来、②W100:IUCN、③GISD、④各県：茨城、長崎、沖縄	Lever, C. (1987), del Hoyo, J., Elliott, A., & Christie, D. A. (Eds.), (2005), 自然環境研究センター(編著)(2019)、川上ほか(2012)	-	-	-	-				
3	未定着	定着防止外来種			外国産メジロ	Zosterops sp.	I	○	○	○	◎	-	-	-	○	-	-	-	○	-	アフリカ〜インド、中国、東南アジア、オーストラリア原産。	-	都市、農耕地、森林等。	ペット、鳴き合わせ等の愛がん目的で飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	日本産メジロの別亜種のヒメメジロZosterops japonicus simplex、チヨウセンメジロZ. erythropleurus、ハイバラメジロZ. palpebrosus等中国や東南アジア産の種の輸入は減少した(中国・禁輸政策、東南アジア・鳥インフルエンザの流行)ものの、アフリカ産の近縁種(キクメジロ(アフリカヤマメジロ)、キヨメジロの名前で流通。キクメジロの方がやや高価)が輸入されるようになった。メジロZ. japonicusとハイバラメジロZ. palpebrosusの飼育下での交雑事例が報告されている他、亜種間交雑の事例も複数確認されている。知見の集積が必要。	④各県：茨城、滋賀、京都、長崎	McCarthy, E. M. (2006)	-	-	-	-			
総合対策外来種(定着)																																			
防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きいもの)																																			
4	分布拡大期〜まん延期	防除推進外来種	②④		コウライキジ	Phasianus colochicus karpowi	I, II, III				-	◎	-	-	◎	◎	○	-	◎	○	-	中国北東部、朝鮮半島原産。北米に外来分布。	北海道、千葉、神奈川、静岡、愛知、三重、奈良、愛媛、福岡、長崎(対馬)、宮崎、鹿児島(大隅諸島)、奄美諸島、沖縄(沖縄島、伊是名島、宮古島、石垣島)。	草原、農耕地。	かつては狩猟や害虫駆除目的で放鳥された。	新たな放鳥はしないこと。	北海道では本種の生息数が減少している。2013年、石垣市では農作物被害が拡大(新聞記事)。沖縄県ではやんばる地域への分布拡大が懸念されている他、伊是名島及び石垣島、宮古島では農業被害が問題となっている。 種タイリクキジの中国北東部、朝鮮半島に生息する亜種。なお、在来種のキジは種タイリクキジの1亜種とされていたが、最新の分類において別種(キジ:Phasianus versicolor)として整理された。 在来のキジP. versicolorと容易に交雑し、その交雑個体も繁殖能を持つことが知られている。	②W100:日本、④各県：北海道、茨城、千葉、静岡、山口、香川、高知、長崎、沖縄、⑤検討委員	日本生態学会(編)(2002)、川上ほか(2012)	沖縄県：沖縄県外来種対策行動計画に基づくコウライキジ防除計画 https://www.pref.okinawa.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_001/004/820/05-04kouraikiji.pdf【URL取得日:2026年1月7日】	-	-	-	-	
5	分布拡大期〜まん延期	防除推進外来種	②④		インドクジャク	Pavo cristatus	I, II, III				-	-	◎	-	◎	◎	◎	-	◎	○	-	インド、スリランカ、パキスタン、バングラデシュ等原産。	福島、埼玉、三重、滋賀、香川(小豆島)、愛媛、鹿児島(硫黄島)、沖縄(宮古島、伊良部島、石垣島、小浜島、黒島、新城島、西表島、与那国島)。	森林、草原、農耕地。	各地の動物園等で観賞用に飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	先島諸島では駆除が行われている。新城島(上地島)では、絶滅危惧種のキンシロウエノカゲの他、アサギマダラやオオコマダラといったチョウ類等の減少が確認されており、本種の捕食による在来生物群集への影響が懸念されている。石垣島では、平成26年度にバニアップルやハイバヤ、サトウキビに対して約50万円の農作物被害が報告されている。	③GISD、④各県：茨城、栃木、千葉、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、川上ほか(2012)、田中・高原(2003)、石垣市(2015)	沖縄県：沖縄県外来種対策行動計画に基づくインドクジャク 防除計画 https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page_001/004/820/05-05indokujaku.pdf【URL取得日:2026年1月7日】	-	-	-	-	
6	分布拡大期〜まん延期	防除推進外来種	①	特定外来生物	ソウシチョウ	Leiothrix lutea	I				◎	-	-	-	◎	○	○	-	-	○	-	ヒマラヤ西部〜ミャンマー南部及び北東部、インドアッサム州〜ベトナム北東部、中国中部〜南東部原産。	山形、茨城、栃木、群馬、埼玉、東京、神奈川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、岡山、広島、島根、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島。	森林(主に竹林、笹藪)。	かつてはペットとして飼養されていた可能性がある。現在は、特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	分布拡大中。高密度で営巣することで、同所的に営巣するウグイスに対しても捕食者による偶発的な捕食の増加を引き起こし、ウグイスの繁殖成功率の低下を引き起こしている。	①特定外来、②W100:日本、③GISD、④各県：福島、茨城、群馬、長野、岐阜、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、山口、徳島、香川、高知、福岡、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	江口・天野(2008)	-	京都府：京都府外来生物対策マニュアル https://www.pref.kyoto.jp/gairai/manual/documents/manual.pdf【URL取得日:2026年1月7日】	-	-	-	-

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症	
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	経済産業	逸出・拡散															
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候					人体	利用													付着混入
7	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①	特定外来生物	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	I			◎	-	-	-	◎	◎	-	-	-	○	-		中国中部～西南部、ラオス北部、台湾原産。ハワイに外来分布。	宮城、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、東京、神奈川、山梨、静岡、長野、愛知、大阪、兵庫、鳥取、島根、山口、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎。	丘陵地、平野の森林。	かつてはペットとして飼養されていた可能性がある。現在は、特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、許可を受けた個体が愛がん目的で飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	分布拡大中。ハワイでは、在来鳥類の生息密度に影響を与えている。	①特定外来、②W100：日本、④各県：福島、茨城、群馬、千葉、東京、神奈川、長野、岐阜、静岡県、愛知、滋賀、山口、高知、福岡、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	
8	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①	特定外来生物	ヒゲガビチョウ	<i>Lanthocincla cineracea (Garrulax cineraceus)</i>	IV			-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-		インド北東部、ミャンマー西部、ミャンマー北東部～中国東部と中南部にかけた地域原産。	香川、愛媛、高。	森林。	かつてはペットとして飼養されていた可能性がある。現在は、特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されている。	-	ガビチョウの近縁種であり、個体数が増加すれば、餌や営巣場所等を巡る競争により生態の類似する在来種に影響を与えるおそれがある。最新の分類において、属名が <i>Garrulax</i> より <i>lanthocincla</i> に変更された。属名変更に伴い種小名も <i>cineraceus</i> より <i>cineracea</i> に修正された。なお、外来法上は旧学名が表記されている。国内に生息する個体は名義タイプ亜種 <i>lanthocincla cineracea cineracea</i> とされる。	①特定外来、④各県：茨城、徳島、香川、高知、長崎	濱田ほか(2006)、自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	
9	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①	特定外来生物	カオジロガビチョウ	<i>Pterorhinus sannio (Garrulax sannio)</i>	I			◎	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-		インド北東部、中国南部、東南アジア原産。	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉。	森林、住宅地、公園等。	かつてはペットとして飼養されていた可能性がある。現在は、特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されている。	-	ガビチョウの近縁種であり、個体数が増加すれば、餌や営巣場所等を巡る競争により生態の類似する在来種に影響を与えるおそれがある。最新の分類において、属名が <i>Garrulax</i> より <i>Pterorhinus</i> に変更された。なお、外来法上は旧学名が表記されている。	①特定外来、④各県：茨城、群馬、千葉、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	
10	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①	特定外来生物	カオグロガビチョウ	<i>Pterorhinus perspicillatus (Garrulax perspicillatus)</i>	I			◎	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-		中国中南部、ベトナム原産。	岩手、群馬、埼玉、東京、神奈川。	森林、農耕地。	かつてはペットとして飼養されていた可能性がある。現在は、特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されている。	-	ガビチョウの近縁種であり、個体数が増加すれば、餌や営巣場所等を巡る競争により生態の類似する在来種に影響を与えるおそれがある。最新の分類において、属名が <i>Garrulax</i> より <i>Pterorhinus</i> に変更された。なお、外来法上は旧学名が表記されている。	①特定外来、④各県：茨城、群馬、千葉、長野、長崎、沖縄	中村・室伏ほか(1993)、自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	
防除検討外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)																																		
11	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			コブハクチョウ	<i>Cygnus olor</i>	I			○	-	○	-	○	○	○	-	○	○	-		ユーラシア原産。北米、ニュージーランド、オーストラリア、南アフリカ等に外来分布。	北海道(ウトナイ湖)、青森、秋田、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、富山、石川、山梨、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島。	湿地、干潟、水田。	愛がん目的で屋外で飼養されることが多い。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。むやみな餌やり等を行わないようにする必要がある。	千葉県手賀沼周辺の水田にて農業被害が発生している。2020年度は我孫子市の560アール、柏市の488アール等6市で計1078アールで、被害総額は1245万円に上り、面積、被害額とも前年度の1.5倍となっている(東京新聞 2022年6月13日)。なわばり意識が強く、特に繁殖期には果やヒナに近付くものを攻撃する。外敵に対しては嘴だけでなくハト類のように翼で叩いて攻撃するが、体が大きく力が強いので攻撃を受ければ危険である。国内では本種に攻撃されたことが原因でヒナが骨折した事故の例があり、海外では攻撃を受けて幼児や大人が死亡した例も報告されている。	③GISD、④各県：北海道、青森、福島、茨城、群馬、千葉、神奈川、静岡、愛知、滋賀、京都、和歌山、鳥取、島根、山口、徳島、香川、福岡、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄	Lever, C. (1987)、自然環境研究センター(編著)(2019)、愛知県環境部自然環境課(2012)	-	-	-	-	
12	定着初期／限定分布	防除検討外来種			バリケン	<i>Cairina moschata var. domestica</i>	IV			○	○	-	-	○	○	-	-	-	○	-		ヨーロッパ、中国を経て日本に持ち込まれた。	山口、沖縄。	ため池、池沼、河川、水田、湿地、水路、クリーク。	愛がん目的や食材目的として屋外で飼養されることが多い。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	ノバリケン <i>Cairina moschata</i> を家畜化したもの。原種であるノバリケン <i>C. moschata</i> は、メキシコからペルー東部、ブラジル、ウルグアイ原産。生態系被害については不明である。大型のカモの仲間では水生植物の摂食や在来カモ類と餌が競合する可能性が懸念される。沖縄県の首里城にある龍潭池に野生化した個体が定着し繁殖している他、各地で野生化した個体が確認されている。	③GISD、⑤検討委員	川上ほか(2012)	-	-	-	-	
13	定着初期／限定分布	防除検討外来種			アヒル	<i>Anas platyrhynchos var. domestica</i>	IV			○	○	-	-	○	○	-	◎	-	○	-		少なくとも鎌倉時代に中国から輸入。	兵庫、山口、福岡、沖縄。	ため池、池沼、河川、水田、湿地、水路、クリーク。	愛がん目的や食材目的として屋外で飼養されることが多い。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	アヒルはマガモ <i>Anas platyrhynchos</i> を家畜化したもの。原種であるマガモ <i>A. platyrhynchos</i> は、北極圏から中国中部までのユーラシア大陸、極北の一部を除く北アメリカの大部分で繁殖。北アフリカ、中国南部までのユーラシア大陸、アメリカ南部及びアメリカ大陸中部で越冬。福岡県の外来種リストでは、マガモ <i>A. platyrhynchos</i> やカルガモ <i>A. anser</i> 等との交雑の懸念の他、水生植物の摂食や在来カモ類と餌が競合する可能性があるとして要対策外来種に選定している。兵庫県の外来生物リストではマガモ <i>A. platyrhynchos</i> との交雑の可能性があるととして、注意種に選定している。原種となるマガモ <i>A. platyrhynchos</i> は鳥インフルエンザウイルスに罹患しても症状を出さない不顕性感染となることが多い。また、ウイルスの排出量も多くウイルスを拡散する可能性が高いと考えられている。そのためマガモ由来となる本種についても注意が必要である。	④各県：茨城、千葉、滋賀、京都、兵庫、山口、福岡、⑤検討委員	Lever, C. (1987)、川上ほか(2012)	-	-	-	-	高病原性鳥インフルエンザウイルスの媒介者となる可能性がある。海外では高病原性鳥インフルエンザウイルスの人への感染事例が報告されており、死亡例も報告されている。

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散																
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入															
21	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			ハツカチヨウ	<i>Acridotheres cristatellus</i>	Ⅳ							◎	◎	-	-	-	-	-	中国中南部、台湾、ミャンマー、ベトナム、ラオス原産。アルゼンチン、ボリビア、マレーシア、フィリピン、インドネシアに外来分布。	山形、福島、栃木、埼玉、千葉、東京、神奈川県、新潟、静岡県、三重、滋賀、京都、奈良、和歌山、岡山、広島、山口、香川、愛媛、高知、長崎鹿児島。	林のある住宅地、ヨシ原、河川敷、草原、農地。	愛がん目的で飼養されている可能性がある。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	生態系被害については不明であるが、確実に定着しており、特に西日本で分布域を拡大している。 東日本では、1970年代～1980年代には東京都や埼玉県でも繁殖していたが、その後、分布域は縮小し、現在は神奈川県でのみ定着が確認されている。 西日本では分布は拡大傾向で、1980年代に兵庫県、1990年代に香川県、2000年代に大阪府、2010年代に岡山県、京都府、2020年代には奈良県に定着した。 静岡県と愛媛県でも繁殖が確認されており、すでに定着している可能性がある。 国内に生息する個体は名義タイプ重種 <i>Acridotheres cristatellus cristatellus</i> とされる。	③GISD、④各県：千葉、滋賀、京都、兵庫、山口、徳島、香川、⑤検討委員	谷岡(2020)	-	-	-	-			
22	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			インドハツカ	<i>Acridotheres tristis</i>	Ⅱ、Ⅳ							◎	◎	○	-	○	-	-	インド、中国南部、タイ、インドネシア、マレーシア原産。南アフリカ、中東、アメリカ、オーストラリア、太平洋諸島等に外来分布。	埼玉、千葉、神奈川県、熊本、沖縄。	農耕地、住宅地。	愛がん目的で飼養されている可能性がある。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	海外では在来鳥類の卵の破壊、在来鳥類と営巣場所を巡る競合、農業被害の報告がある。 八重山諸島に生息している個体は、台湾に導入され逸出し、定着した個体が飛来していると考えられている。 石垣島では2005年頃から見られるようになり、2009年に島内での繁殖が確認されたとされる。 国内に生息する個体は名義タイプ重種 <i>Acridotheres tristis tristis</i> とされる。	②W100、IUCN、③GISD、④各県：山口、⑤環境省	Sol. D et al.(1998)、Peacock, D. S et al.(2007)、Garrock, K et al.(2012)、	-	-	-	-			

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散																
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入															
22	分布拡大期～まん延期(小笠原・南西諸島で特に注意)	防除検討外来種			ホオグロヤモリ	<i>Hemidactylus frenatus</i>	Ⅳ			◎	-	○	-	-	○	○	-	-	○	○	アジア原産と考えられる。台湾、インドシナ、インド、東アフリカ、メキシコ等に広く分布。	宝島、喜界島及び奄美大島以南の南西諸島のほとんどの島、小笠原諸島。	民家、人工林、海岸等。	ペットとして飼養されるほか、アロワナ等の餌用に販売されることがある。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	国内では南西諸島及び小笠原諸島に分布。近年、奄美大島・喜界島・宝島でも確認され。奄美大島と喜界島では定着している。しばしば他種のヤモリに対して攻撃的で排除する傾向にあり、在来ヤモリ類との競合が懸念される。海外では寄生虫や細菌等の媒介による在来種への影響も懸念されている。	③GISD、④各県・鹿児島	日本爬虫両棲類学会編(2021)、Hoskin(2011)、Kurita(2013)	-	-	-				
23	定着初期／限定分布(小笠原・南西諸島で特に注意)	防除検討外来種			グリーンイグアナ	<i>Iguana iguana</i>	Ⅳ			-	-	○	-	-	○	○	-	○	◎	-	中南米、西インド諸島原産。フロリダ半島、ハワイ、台湾に外来分布。	石垣島。	森林等。	ペットとして飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	かつては捕獲がなされていたが現在は事業としての防除は行われていない。最新の生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。	③GISD、④各県・長崎、沖縄	第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、Lever(2003)、自然環境研究センター(編著)(2019)、阿部(2009)、Kraus(2009)、Lee et al.(2019)、GISD	2013年頃から環境省による生態調査や捕獲が実施されていた。 https://kyushu.env.go.jp/okinawa/pre_2013/0227a.html 【URL取得日:2025年12月2日】	-	-	-			
24	定着初期／限定分布	防除検討外来種			チュウゴクスッポン	<i>Pelodiscus sinensis</i>	Ⅳ			○	○	○	-	-	○	-	-	-	○	-	ベトナム南部～中国大陸沿岸部原産。	沖縄(沖縄島、久米島、伊平屋島、南大東島、石垣島、西表島、与那国島)。	河川の中・下流域や池、湖沼等。	生きた個体の国内における利用状況は不明。台湾などでは養殖されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	ニホンスッポンとの交雑が生じている可能性がある。生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。沖縄県以外にも持ち込まれている可能性があり、日本国内のチュウゴクスッポンの正確な分布状況は不明であるため知見の集積が必要。ただし、養殖用の遺棄、逃亡等により全国に広まっている可能性がある。ニホンスッポンとは重複関係にあったが、2023年それぞれ独立の種として分類に変更があった。	④各県、北海道、福島、茨城、東京、兵庫、長崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(2019)、日本爬虫両棲類学会編(2021)	-	-	-				
25	定着初期／限定分布	防除検討外来種			ミナミシシガメ	<i>Mauremys mutica mutica</i>	Ⅳ			○	○	○	-	-	○	○	-	-	○	-	中国、台湾、ベトナム原産。	滋賀、京都、大阪。	水田、ため池、湿地等。	ペットとして飼養されることがある。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	国内では滋賀、京都、大阪に定着。八重山諸島に亜種ヤエヤマシシガメ <i>M. m. kami</i> が分布。本亜種の属するシシガメ科は属間交雑のおそれもあるため、特に注意が必要。	④各県、千葉、東京、滋賀、京都、長崎、沖縄	自然環境研究センター(2019)、日本爬虫両棲類学会編(2021)、小林・長谷川(2005)	-	-	-				

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		経済産業	利用	付着混入														
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業																	
13	分布拡大期～まん延期(小笠原・南西諸島で特に注意)	防除推進外来種	①②③	特定外来生物	オオヒキガエル	<i>Rhinella marina (Bufo marinus)</i>	I, II, III				○	-	◎	-	◎	○	◎	○	-	○	◎	アメリカのテキサス州最南部～中米、アマゾン川流域原産。ブエルトリコ、ハワイ、フィリピン、ニューギニア、オーストラリア等に外来分布。	小笠原諸島父島、母島、大東諸島、石垣島。	サトウキビ畑等、人里近くの開けた環境。	戦前から1980年代にかけて害虫駆除のために導入された。2023年、2024年には特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	2011年に沖縄島で定着が確認されたが根絶された。2023年、2024年には沖縄島で混入と思われる個体が見つかっている。耳腺からの毒液により、カエルの捕食者が死亡することがある。	①特定外来、③GISD、④各県：栃木、長崎、沖縄	自然環境研究センター(2019)、日本爬虫両棲類学会編(2021)	沖縄県：オオヒキガエル防除計画 https://www.pref.okinawa.jp/res/projects/default_project_page/001/004/820/05-09oohikigaeru.pdf 【URL取得日：2025年12月2日】	-	-	-	広東住血線虫の宿主になり得るとの報告がある。	
14	分布拡大期～まん延期(小笠原・南西諸島で特に注意)	防除推進外来種	①②③	特定外来生物	シロアゴガエル	<i>Polypedates leucomystax</i>	I, II				○	-	◎	-	◎	○	○	-	-	◎	南アジア～東南アジア原産。	徳之島、与論島、沖縄諸島、宮古諸島、石垣島、北大東島。	森林、農耕地、住宅地等。	かつてペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。学術研究の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	本種から外来種の寄生虫(寄生性蠕虫類)が報告されている。在来種の両生類への感染は確認されていないものの、留意すべきとされている。	①特定外来、③GISD、④各県：長崎、鹿児島、沖縄	Haswgawa et al.(2018)、自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-			
15	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①③	特定外来生物	ウシガエル	<i>Lithobates catesbeianus (Rana catesbeiana)</i>	I				○	-	◎	-	◎	○	-	-	-	○	-	北米原産。メキシコ、アンティル諸島、ヨーロッパ、東南アジア、中国、台湾等に外来分布。	北海道南部以南のほぼ全国。	池沼等。	1918年以降に食用に輸入され、養殖されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。教育等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	さまざまな小動物を広く捕食する他、カエルツボカビ症・ラナウイルス症病原体を媒介すると指摘されている。小笠原諸島では根絶された。	①特定外来、③GISD、④各県：北海道、青森、福島、茨城、群馬、千葉、東京、神奈川、石川、長野、岐阜、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、岡山、山口、徳島、香川、高知、福岡、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		
防除検討外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)																																			
16	定着初期／限定分布	防除検討外来種			アフリカツメガエル	<i>Xenopus laevis</i>	I				○	-	◎	-	◎	○	-	-	○	◎	-	アフリカ中南部原産。イギリス、アメリカのカリフォルニア州、チリ、メキシコ、ジャワ島、アセンション島等に外来分布。	千葉、静岡、和歌山、兵庫。	池沼や池等の止水域。	日本で最も多く利用されているカエルのひとつ。実験動物、ペット、アロワナ等肉食性観賞魚の餌として利用されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	カエルツボカビ症・ラナウイルス症病原体を媒介すると指摘されている。	③GISD、④各県：北海道、東京、岐阜、静岡、兵庫、和歌山、長崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(2019)、日本爬虫両棲類学会編(2021)、宇井ほか(2025)	和歌山県では継続的な防除が実施されている。 https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032600/gairai/afurikatumegaeru.html 【URL取得日：2025年12月2日】	鹿児島県(2024)アフリカツメガエル防除マニュアル https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashikankyo/gairai/documents/72338_2020051115158-1.pdf 【URL取得日：2025年12月2日】	-	-		

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト改定案 ＜動物(両生類)＞
【国内由来の外来種】

対策優先度の要件（※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入）
① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。
② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。
③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。
④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

選定理由
Ⅰ．生態系被害が大きいもの。
Ⅱ．生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。
Ⅲ．生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。
Ⅳ．知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※ 掲載の順番は、分類の並びとし、原則Frost, D.R. et al. 2008. The amphibian tree of life. Bulletin of the American Museum of Natural History 297: 1-970.に従った。
※ 特定外来生物で推定時から学名に変更があったものについては、原則漢学名の後に指定時の学名を括弧書きで記述した。
※ 調査等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2026.3.27時点

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																自然分布	問題となっている地域	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性		生態系被害					分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散																
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	利用			付着混入																
総合対策外来種（定着）																																			
防除推進外来種（生態系等へ及ぼす影響が大きなもの）																																			
1	国内由来の外来種	防除推進外来種	①②		北海道、伊豆諸島及び佐渡島のアズマヒキガエル	<i>Bufo formosus</i>	I																	本州東北部（近畿まで）原産。	北海道、佐渡島、伊豆諸島。	森林、農耕地、草原、公園等。	ペットとして飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	ハ丈島、北海道で継続的な駆除が行われ、成果が報告されている。	④各県：北海道、東京、長崎	八谷（2024）、後藤（2021）	北海道生物の多様性の保全等に関する条例に基づく「指定外来種」に指定され防除が実施されている。 https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/shit-eigairaishu/boujo.html 【URL取得日：2025年12月2日】	-	-	-
2	国内由来の外来種	防除推進外来種	①		関東以北、長崎県島嶼部（平戸島を除く。）及び種子島のヌマガエル	<i>Fejervarya kawamurai</i>	IV																本州中部以西、四国、九州、奄美群島、沖縄諸島、台湾、中国原産。	関東、長崎県島嶼部（ただし平戸島は在来）、種子島。	水田、河川敷等。	ペットとして飼養されることがある。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	日本在来のカエル類の中で近年の導入が最も顕著に生じている種であり、その貪欲な食性により他種に影響を与える可能性が示唆されているため注意を要する。生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。	④各県：関東各県、長崎（島嶼部）、鹿児島（種子島）	土居（2012）	-	-	-	-	

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト改定案 ＜動物（魚類）＞
【国外由来の外来種】

対策優先度の要件（※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入）
① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。
② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。
③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。
④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

選定理由
Ⅰ．生態系被害が大きいもの。
Ⅱ．生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。
Ⅲ．生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。
Ⅳ．知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※ 掲載の順番は、分類の並びとし、原則、科（亜科）レベルの配列をNelson(2016)に、科レベル以下の配列は細谷(2019)に従った。細谷(2019)に掲載されていないものは学名のアルファベット順とした。

※ 斜線で示されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2026.3.27時点

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目															原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出機関等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症	
								定着可能性		生態系被害					分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散															
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	人体		経済産業	利用	付着混入															
侵入・定着防止外来種(未定着)																																			
侵入予防外来種(まだ侵入していない種)																																			
1	未定着	侵入予防外来種			エールワイフ	<i>Alosa pseudoharengus</i>	I	○	-	-	-	◎	-	-	○	-	-	○	-	-	○	-	カナダのラブラドル州レッド湾～アメリカのサウスカロライナ州の大西洋岸原産。アメリカの非自然分布域にも外来分布。	-	湖、河川から河口付近の沿岸域、随時型と両側海進型がいる。河川を遡上して湖や河川の緩流域で産卵する。	利用に関する情報は得られなかった。	-	五大湖では稚魚等の捕食により漁業対象種を含む在来種の減少を引き起こした。この他、海外では、在来の底生動物群集に影響を及ぼした事例がある。	③GISD	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=625	-	-	-	-	
2	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	ブラウンプルヘッド	<i>Ameiurus nebulosus</i>	I,IV	○	-	-	-	◎	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	アメリカ東部原産。アメリカの非自然分布域の他、ヨーロッパ各国、ニュージーランド、プエルトリコ等に外来分布。	-	河川緩流域の底質が柔らかい場所、湖沼。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	アメリカでは導入された湖で在来種のゲウオを駆逐した例がある。	①特定外来、③GISD、④各県：長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		
3	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	フラットヘッドキャットフィッシュ	<i>Pylodictis olivaris</i>	I,IV	○	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	アメリカ東部、中部原産。アメリカの非自然分布域とカナダに外来分布。	-	倒木や枯れ枝が沈んでいる池の斜面が緩やかな場所を好む。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。愛がん目的で許可を受けた個体が飼養されている。	-	アメリカでは本種が導入された水域で、同科の在来ナマズ類やザリガニ類等の減少が見られている。	①特定外来、③GISD、④各県：長崎、沖縄	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=331	-	-	-	-		
4	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	ラッフ	<i>Gymnocephalus cernuus</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	○	-	-	-	イギリス～ロシア、中国のユーラシア大陸原産。ヨーロッパ各国の非自然分布域の他、アメリカ、カナダに外来分布。	-	低地から高地までの河川、富栄養湖。大河川の河口や汽水湖に多い。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	イギリスや北米のいくつかの地域で、捕食や競合によって在来種の減少等の悪影響を及ぼした事例がある。最長10年生きる。	①特定外来、③GISD、④各県：長崎、沖縄	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=544	-	-	-	-		
5	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	ホワイトパーチ	<i>Morone americana</i>	I,IV	○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	-	アメリカ北東部の沿岸地域原産。カナダに外来分布。	-	中・大規模河川の止水部分や池。主に汽水域に生息するが、淡水域にも生息。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐する可能性がある。アメリカの各地で本種が在来種の卵を捕食することによる影響が報告されている。塩分耐性が強く、海を遊泳して水系を超えた移動が可能。	①特定外来、③GISD、④各県：長崎、沖縄	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=989	-	-	-	-		
6	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	ラウンドゴビー	<i>Neogobius melanostomus</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	アゾフ海、黒海、カスピ海流域原産。ヨーロッパ各国やアメリカ、カナダに外来分布。	-	大河川の汽水域や湖沼、湾等の底質が砂や岩のある浅瀬を好む。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	アメリカの五大湖等で、産卵環境や餌の競合、卵の食害等によって、在来種の減少を引き起こしている。	①特定外来、③GISD、④各県：長崎、沖縄	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/speciesname/Neogobius+melanostomus	-	-	-	-		
定着防止外来種(侵入事例はあるが定着していない種)																																			
7	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ガー科(ガーバイク、アリゲーターガー、スポッテッドガー、ロングノーズガーなど)	<i>Lepisosteidae Gen. spp.</i>	I,IV	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	◎	-	中米～北米、カナダ原産。ショートノーズガーがアメリカの非自然分布域に外来分布。	公園や城の堀等で放流されたと思われる個体が確認されることがある。	河川(汽水・淡水域)、湖沼。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	国内で放流された大型個体の捕獲が相次ぎ、長期間生存できることは明らかであり、将来、繁殖に成功した場合、急速に増加し、捕食により在来生物相に影響を及ぼすおそれがある。複数個体が同じ水域で確認されたこともあり、定着の危険性が高まっている。ガー科全種が肉食性で、どの種も全長1~2mと非常に大型になるため、捕食による影響は大きいと考えられる。生態系被害について、知見の集積が必要。	①特定外来、④各県：北海道、福島、茨城、東京、長野、岐阜、滋賀、京都、大阪、和歌山、岡山、山口、徳島、香川、高知、佐賀、長崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	公園の池や城のお堀等で発見された個体が捕獲されて取り除かれることがある。	農林省特定外来生物対策ハンドブック https://kankyojoho.pref.aichi.jp/Download/Download/3.5E6%9C%A0%E6%96%87.pdf 【URL取得日:2025年11月27日】	-	-	-	-
8	未定着	定着防止外来種			レッドホースミノー	<i>Cyprinella lutrensis</i>	I	○	◎	◎	-	○	-	-	◎	-	-	-	◎	-	-	アメリカ中央南部～中央北部原産。アメリカの非自然分布域とメキシコに外来分布。	-	中小河川や水路の淵や平瀬等。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと(特に本州中部以南)。	海外では近縁種と交雑することや競合することによって、希少種を含む在来種の減少を引き起こしている。ただし、日本に同属種はいない。	③GISD、④各県：東京、長崎、沖縄	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=1148	-	-	-	-		
9	未定着	定着防止外来種			トンキンダナゴ	<i>Acheilognathus tonkinensis</i>	I,IV	○	◎	○	○	-	-	-	○	○	-	-	○	○	-	中国南部～東南アジア北部原産。	-	河川の淡水域。生きた二枚貝に産卵。	観賞魚として利用され、ネット販売もされている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	国内の野外で確認されたことがある。同属のオオタナゴが競争や交雑による被害の可能性が高いとして特定外来生物に指定されている。タナゴ類は比較的容易に異種間で交雑することが知られている。在来タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらへの被害のおそれがある。	④各県：東京、⑥観賞魚として流通。国内に近縁の絶滅危惧種が存在。国内での確認記録あり。	FishBase: https://www.fishbase.org/summary/SpeciesSummary.php?id=54709&lang=English	-	-	-	-		
10	未定着	定着防止外来種			タイワンタナゴ	<i>Tanakia himantegus (Paratanakia himantegus)</i>	I,IV	○	◎	-	○	-	-	-	○	○	-	-	○	○	-	台湾原産。	野外での確認事例があるとされるが不明。	低標高地の河川や湖及び貯水池。生きた二枚貝に産卵。	観賞魚として利用され、ネット販売もされている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	国内の野外で確認されたことがある。タナゴ類は比較的容易に異種間で交雑することが知られる。在来タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらへの被害のおそれがある。	④各県：東京、⑥観賞魚として流通。国内に近縁の絶滅危惧種が存在。国内での確認記録あり。	FishBase: https://www.fishbase.org/summary/SpeciesSummary.php?id=17290&lang=English	-	-	-	-		

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	定着理由	評価項目																原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	経済産業	逸出・拡散	付着混入															
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候																				
11	未定着	定着防止外来種			外国産タナゴ亜科(トンキンタナゴ、オオタナゴ、カラゼニタナゴ、タイリクバラタナゴ、タイリクシロフタタナゴ及びタイワンタナゴを除く。)	Acheilognathinae Gen. spp.	I、IV	○	◎	○	○	-	-	-	○	○	-	-	○	○	中国や朝鮮半島を原産とする種が多いが、ヨーロッパを原産とする種も一部ある。	未定着の種が岡山で確認されている。	淡水域。	観賞魚として利用され、ネット販売もされている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	タナゴ類は比較的容易に異種間で交雑することが知られる。在来タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらの生息地における被害のおそれがある。	⑤検討委員	伊藤ほか(2023)、谷口ほか(2025)	-	-	-	-			
12	未定着	定着防止外来種			ファットヘッドミノー	Pimephales promelas	I、IV	○	◎	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	○	-	カナダ〜メキシコ北部。原産。ドイツ、フランス、イギリス、ベルギー、プエルトリコ、イランに外来分布。	東京と神奈川のたため池等で2011年ごろから確認されている。	淡水域。泥底の池や水路、小河川に生息。湧りや低酸素等に強く、他の多くの魚が生息できない環境にも生息。	毒性試験に用いられる実験動物や観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	実験動物や観賞魚として利用されている。高水温や低酸素に極めて強く、野外に放流された場合に容易に定着する可能性が高いと考えられる。	④各県：東京、⑥国内の一部に定着済みの外来種	細谷(編・監修)(2019)	-	-	-	-			
13	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)	定着防止外来種			オリノコセイルフィンキャットフィッシュ	Pterygoplichthys multiradiatus	I	○	○	◎	-	○	-	-	○	-	-	○	○	-	オリノコ川流域原産。台湾、ハワイ、プエルトリコに外来分布。	-	河川、湖沼の泥底で水草が生える水域。	セイルフィンプレコ等の名前で複数種が利用されている可能性があり、本種がこれに含まれる可能性がある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと(特に、小笠原・南西諸島や、温泉水が流れ込んでいる等水温の高い川)。	インドやプエルトリコでは本種が在来種の減少を引き起こした例が知られている。	③GISD、④各県：東京、長崎、沖縄	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=1656	-	-	-	-			
14	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)	定着防止外来種			マダラロリカリア属(スノープレコ、マダラロリカリア、オリノコセイルフィンキャットフィッシュ及びアマゾンセイルフィンキャットフィッシュを除く。)	Pterygoplichthys spp.	I、IV	○	◎	○	-	○	-	-	○	-	-	○	○	-	オリノコ川、アマゾン川、マグダレナ川水系、マラカイボ川水系、パラナ川水系、サンフランシスコ川水系原産。トルコ、インド〜東南アジア、台湾、アメリカ、中米に外来分布。	-	河川。	〜プレコの名称で多くの種が観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと(特に、小笠原・南西諸島や、温泉水が流れ込んでいる等水温の高い川)。	沖縄県の複数の河川に定着し、海外で生態系に影響を及ぼしているマダラロリカリアを含む属、捕食や摂食行動により水生植物帯を減少させ、そこに生息する水生昆虫等に影響を及ぼす可能性や、堤に穴を開けることで経済被害を起さず可能性が指摘されている。	④各県：東京、⑤検討委員	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/speciesname/Pterygoplichthys*spp.	-	-	-	-			
15	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ヨーロッパナマズ(ヨーロッパオオナマズ)	Silurus glanis	I	○	-	○	○	◎	-	-	◎	-	-	-	◎	-	中央・東ヨーロッパ原産。ヨーロッパの非自然分布域とシリア、中国に外来分布。	-	大きな湖や河川。汽水域に入ることもある。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	ヨーロッパの導入地では在来種の減少を引き起こしたとされている。在来の同属種との交雑も懸念されている。在来の同属種と交雑のおそれがあるため、これらの生息域では特に放流に注意が必要。	①特定外来、④各県：岐阜、東京、滋賀、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-			
16	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)	定着防止外来種			アフリカンクララ	Clarias gariepinus	I	○	◎	◎	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	アフリカ全域〜中東原産。アフリカの非自然分布域、インド〜東南アジア、ヨーロッパ、ブラジル、アルゼンチンに外来分布。	-	淡水の湖や河川、沼等。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	インドでは本種を含むいくつかの外来種との競合によって絶滅危惧種への影響が懸念されている。南アフリカ共和国での在来種の小型のコイ科魚類であるレッドフィンの減少は本種の導入によるとされている。	③GISD	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=1900	-	-	-	-			
17	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ノーザンバイク	Esox lucius	I	○	-	◎	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	アメリカ北部、カナダ、ヨーロッパ、アジア北部原産。モロッコ、ウガンダ、エチオピア、アルジェリア、チュニジア、スペイン、ポルトガル等に外来分布。	-	河川緩流域や湖沼。水草の多い場所を好む。冷水性。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	アメリカのデービス湖では捕食や競争により在来魚種に影響を与えた事例がある。長寿命であり、最長24年生きた例がある。	①特定外来、③GISD、④各県：佐賀、沖縄	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/speciesname/Esox+lucius	-	-	-	-			
18	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	マスキーパーイク	Esox masquinongy	I	○	-	◎	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	アメリカ北東部とカナダ南東部原産。アメリカの非自然分布域に外来分布。	-	河川緩流域や湖沼。水草の多い場所を好む。冷水性。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	ウィスコンシン州の湖では同所的に生息するオオクチバスを駆逐する等の被害が確認されている。長寿命であり、最長30年生きた例がある。	①特定外来、④各県：佐賀、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-			
19	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	バイク科(ノーザンバイク及びマスキーパーイクを除く。)(カワカマス科)	Esocidae Gen. spp.	I	○	-	◎	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	アメリカ大陸とユーラシア大陸の北部原産。アメリカとカナダの非自然分布域に外来分布。一部は人工水路を伝っての侵入。	-	河川緩流域や湖沼。水草の多い場所を好む。	かつては観賞魚として利用されていた種もある。現在は輸入等が規制されている。	-	マスキーパーイクやノーザンバイクと同じ科に属し、生態が似ているためにこれらの種と同様に、捕食や競合により在来魚種を駆逐する等の影響を及ぼす可能性が高いと考えられる。	①未判定、④各県：北海道、栃木、佐賀、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-			
20	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)	定着防止外来種			スポットテッドティラピア	Tilapia mariae	I、IV	○	-	◎	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	アフリカ大陸西部のギニア湾沿岸諸国原産。アメリカとオーストラリアに外来分布。	-	沿岸域の沼や河川下流域。	利用に関する情報は得られなかった。	-	餌や産卵基質を巡る競争により在来種に悪影響を及ぼしている。巣で親魚が卵と仔魚を保護するため初期の生存率が低い。国内での定着可能性について、知見の集積が必要。	③GISD、④各県：東京、長崎、沖縄	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=1430	-	-	-	-			
21	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)	定着防止外来種			カワスズメ属(ブルーティラピア、カワスズメ及びナイルティラピアを除く。)	Oreochromis spp.	I	○	◎	◎	-	◎	-	○	○	-	-	-	○	-	アフリカ大陸と中東地域原産。ロングフィンティラピア、O. spilurus、O. urolepis等がアフリカや中東、フィジー、アメリカ等に外来分布。	沖縄島で確認。	河川や湖沼。淡水から汽水まで。	食用又は観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	世界の熱帯・亜熱帯の河川や湖沼では競争により在来種を駆逐したり、付着藻類、デトリタス、底生動物等を食べて食物網の基盤を改変するおそれがある。	③GISD、④各県：東京	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/speciesname/Oreochromis	-	-	-	-			
22	未定着	定着防止外来種			タイワンドジョウ属(カムルチー、コウタイ及びタイワンドジョウを除く。)	Channa spp.	I、IV	○	◎	○	-	○	-	○	○	-	-	-	◎	-	アジア地域原産。レッドスネークヘッドとコブラスネークヘッドがアメリカに外来分布。	-	淡水域。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	本属には国内で既に定着している3種の他、海外においても外来種として定着しているものが数種含まれる。ブラチドンO. striata、コブラスネークヘッドO. maruliusでは競争により在来種を駆逐する可能性があると考えられている。空気呼吸が可能で干出や低酸素に強く、卵や稚魚を保護するため、他種との競争で有利になり得る。観賞魚として様々な種が多く利用されている。	⑤検討委員	FishBase: https://www.fishbase.org/NameList.php?syntax=Channa&syns=&title=Scientific+Names+where+Genus+Equals+%3C%3EChanna%3C%2F%3E&crit2=CONTAINS&crit1=EQUAL	-	-	-	-			
23	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ガンブスィア・ホルブローキ(タツブミノー、モスキートフィッシュ)	Gambusia holbrooki	I、IV	○	-	◎	-	◎	-	○	◎	-	-	-	-	-	アメリカ東部の沿岸地域原産。ヨーロッパ南部、アフリカの一部、中東、インド、マダガスカル、プエルトリコ、シンガポール等に外来分布。	-	主に水田地帯等の流れの無い用水路に生息するが、河川本流や湖沼にも生息。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されている。	-	オーストラリアでは希少種を含む在来魚の卵や稚魚の捕食、攻撃が確認されており、これらの減少につながっている。胎生。	①特定外来、③GISD、④各県：長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-			

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散															
								生物	導入	競合	交雑	捕食 摂食	生態系改変	繁殖	気候			人体	経済産業	利用	付着混入												
24	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)	定着防止外来種		特定外来生物	ナイルパーチ	<i>Lates niloticus</i>	I	○	-	-	-	◎	-	-	○	-	-	◎	-	西アフリカ～ナイル川流域原産。ヴィクトリア湖の他、コンゴに外来分布。	-	湖、河川緩流域、水路等。湖では沿岸部に分布。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示用等で許可を受けた少数が利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐する可能性がある。アフリカの湖で在来種のシクリッド200種以上が絶滅した事例がある。	①特定外来、②IUCN、③GISD、④各県：長崎、沖縄	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=89	-	-	-	-		
25	未定着	定着防止外来種			マーレーコッド	<i>Maccullochella peelii</i>	I、IV	○	◎	○	-	○	-	-	◎	-	-	○	-	オーストラリア東南部のマーレー・ダーリング水系原産。	-	主に河川緩流域、湖、貯水池等。流木や水生植物等の物陰を好む。急流の岩場でも見られる。	観賞魚として利用されている。また、管理釣り場での釣魚としての利用も始まっている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	在来種に対する競争圧・捕食圧が生じる可能性がある。管理釣り場での利用が始まっており、今後逸出等によって野外へ定着するおそれが高まっている。今後の分布拡大等について知見の集積が必要。旧要注意外来生物。	⑤委員	自然環境研究センター(編著)(2008)	-	-	-	-		
26	未定着	定着防止外来種			ゴールデンパーチ	<i>Macquaria ambigua</i>	I、IV	○	◎	○	-	○	-	-	◎	-	-	○	-	オーストラリア東南部のマーレー・ダーリング水系、ドーン川等原産。	-	河川緩流域、湖、貯水池等。流木や水生植物等の物陰を好む。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	在来種に対する競争圧・捕食圧が生じる可能性がある。今後の分布拡大等について知見の集積が必要。旧要注意外来生物。	⑤委員	自然環境研究センター(編著)(2008)	-	-	-	-		
27	未定着	定着防止外来種		未判定外来生物	ペルキクティス科(狭義)(マーレーコッド及びゴールデンパーチを除く。)	Percichthyidae Gen. spp.	I、IV	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	○	-	オーストラリアと南米原産。	-	淡水域。	観賞魚として利用されていた。現在は未判定外来生物に指定され、輸入は規制されている。展示用等で少数が利用されている可能性がある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	在来種に対する競争圧・捕食圧が生じる可能性があると考えられる種を含み、同様の生態を持つ種が多いと思われるため生態系への悪影響が危惧される。科全体としての影響の程度について知見の集積が必要。	⑤検討委員	FishBase: https://fishbase.mnhn.fr/summary/familysummary.php?ID=288	-	-	-	-		
28	未定着	定着防止外来種			オヤニラミ属(コウライオヤニラミ及びオヤニラミを除く。)	<i>Coreoperca</i> spp.	I、IV	○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	海南島を含む中国南部～ベトナム北部原産。	-	淡水域から汽水域。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	宮崎県大淀川水系でナンエツオヤニラミ <i>C. whiteheadi</i> の確認事例がある。当該水系では同属の近縁種であるコウライオヤニラミが定着して、捕食や競合により生態系被害を及ぼしており、ナンエツオヤニラミの確認事例に鑑みると、同様の生態をもつものと考えられる同属他種の導入や、それに伴う生態系被害の可能性もある。生態系被害について、知見の集積が必要。	⑥国内での確認情報のある外来種	FishBase. https://www.fishbase.de/summary/Coreoperca-whiteheadi.html	-	-	-	-		
29	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ケツギョ	<i>Siniperca chuatsi</i>	I	○	-	○	-	◎	-	-	◎	-	-	○	-	アムール川水系、中国原産。	-	河川緩流域や湖沼。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	原産地の気候が日本と近いため、日本の湖沼や河川に導入すれば広く定着し、捕食や競争により在来生物に影響を及ぼすおそれがある。中国では養殖池に紛れ込んだ場合に他種を捕食する事例が知られ、害魚とされている。	①特定外来、④各県：栃木、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		
30	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	コウライケツギョ	<i>Siniperca scherzeri</i>	I	○	-	○	-	◎	-	-	◎	-	-	○	-	中国、朝鮮半島、ベトナム原産。	-	河川や湖沼。ケツギョよりも流れのある場所を好む。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	原産地の気候が日本と近いため、日本の湖沼や河川に導入すれば広く定着し、捕食や競争により在来生物に影響を及ぼすおそれがある。	①特定外来、④各県：栃木、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		
31	未定着	定着防止外来種		未判定外来生物	ケツギョ科(オヤニラミ属、ケツギョ及びコウライケツギョを除く。)	Sinipercoidea Gen. spp.	I、IV	○	◎	○	-	◎	-	-	○	-	-	○	-	中国、ベトナム、朝鮮半島、原産。	-	淡水域。	観賞魚として利用されている。ケツギョ属は現在未判定外来生物に指定され、輸入は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	ケツギョやコウライケツギョが含まれる科であり、同様の生態を持つ種が多いと思われるため生態系への悪影響が危惧される。科全体としての影響の程度について知見の集積が必要。	⑤検討委員	FishBase: https://www.fishbase.se/search.php	-	-	-	-		
32	未定着	定着防止外来種		未判定外来生物	ブルーギル属(パンパキンシードサンフィッシュ、ブルーギル及びロングイヤースンフィッシュを除く。)	<i>Lepomis</i> spp.	I、IV	○	-	◎	-	◎	-	○	○	-	-	○	-	北米東部～メキシコ北部原産。レッドフレストサンフィッシュ <i>L. auritus</i> やグリーンサンフィッシュ <i>L. cyanellus</i> 等がヨーロッパや韓国、南米、オーストラリア等の他、アメリカ合衆国の非分布地域に外来分布。	-	淡水の湖や河川、沼等。	未判定外来生物に指定される以前は観賞魚として利用されていた種もある。そのため、指定前から繁殖され、維持されていた個体がいる可能性がある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	海外では本属に含まれるいくつかの種で捕食や競争によって生態系に悪影響を及ぼした事例が知られている。卵の保護を行うため初期の生存率が高い。	⑤検討委員	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/	-	-	-	-		
33	未定着	定着防止外来種		未判定外来生物	サンフィッシュ科(ブルーギル属、コクチバス及びオオクチバスを除く。)	Centrarchidae Gen. spp.	I、IV	○	-	◎	-	◎	-	○	○	-	-	○	-	北米東部～メキシコ北部原産。レッドアイバス <i>Micropterus coosae</i> やスポッテッドバス <i>M. punctulatus</i> 、ロッキバス <i>Ambloplites rupestris</i> 等が中南米やヨーロッパ、アフリカに外来分布。	-	淡水の湖や河川、沼等。	一部の種が観賞用や釣魚として利用されていた。現在は特定外来生物や未判定外来生物に指定され、利用は指定以前に比べて限られる。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	オオクチバスやブルーギルが含まれる科であり、同様の生態を持つ種が多いと思われるため生態系への悪影響が危惧される。科全体としての影響の程度について知見の集積が必要。卵の保護を行うため初期の生存率が高い。	⑤検討委員	Boschung and Mayden(2004)	-	-	-	-		
34	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ヨーロッパアンバーチ	<i>Perca fluviatilis</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	○	-	ヨーロッパとアジア北部原産。オーストラリアとニュージーランド、ヨーロッパ南部、アフリカ、キプロス、中国等に外来分布。	-	河川緩流域、湖沼等。木の根が張り出したり水草が豊富な場所を好む。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	オーストラリアで競合によって在来種の希少種を絶滅させた事例がある。スペインのダム湖でも外来種を含む魚類を減少させた例がある。長寿命であり、最長10年生きた例がある。	①特定外来、③GISD、④各県：茨城、長崎、沖縄	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=548	-	-	-	-		
35	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	バイクパーチ	<i>Sander lucioperca</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	○	-	ヨーロッパ中央部～西アジア原産。ヨーロッパ西部及び南部、モロッコ、中国等に外来分布。	-	河川緩流域や湖沼。深みのある静穏な水域を好み、汽水域にも生息。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	トルコでは本種の導入後に在来種が見られなくなった例がある。デンマークやスペイン等のヨーロッパ諸国で在来種のバイク科魚類等の減少を引き起こしていると考えられる。最長16年生きる。	①特定外来、④各県：茨城、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		
36	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ホワイトバス	<i>Morone chrysops</i>	I	○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	アメリカ東部とカナダのセントローレンス川流域原産。モロッコとトルコに外来分布。	-	河川緩流域や湖沼。深みのある静穏な水域に河川を遡上。	本種そのものの利用に関する情報は得られなかった。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐するため、カリフォルニア州のカウエア湖とその下流では駆除対象となっている。	①特定外来、④各県：茨城、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症	
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散																
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候																			
37	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	サンシャインバス	<i>Morone chrysops</i> <i>x Morone saxatilis</i>	I	○	○	○	-	○	-	○	-	-	-	○	-	作出個体のための原産地はなし。アメリカの非自然分布域に外来分布。	霞ヶ浦(茨城)と東京湾で記録がある。	-	特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されている。一部の管理釣り場で利用されているストライパーと呼ばれるものに、本交雑個体が含まれている可能性がある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	両方の親種も特定外来生物に指定されている。親種よりも成長が早く環境悪化に耐性があるとされる。	①特定外来、④各県:茨城、東京、長崎	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-				
38	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ストライプトバス	<i>Morone saxatilis</i>	I	○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	○	-	アメリカ大西洋岸とカナダのセントローレンス川流域原産。エクアドル、メキシコ、南アフリカ共和国、トルコ、ロシア等に外来分布。	内湾や河口域。産卵のために河川を遡上。	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐するため、カリフォルニア州のペービス湖では駆除対象となっている。	①特定外来、④各県:千葉、東京、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-					
総合対策外来種(定着)																																		
防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きなもの)																																		
39	定着初期／限定分布	防除推進外来種	③	特定外来生物	オオタナゴ	<i>Achellognathus macropterus</i>	I				◎	○	-	-	-	◎	-	-	○	○	中国、朝鮮半島、アムール川原産。	霞ヶ浦(茨城)、北浦(茨城)、利根川水系の千葉、埼玉、栃木(産良瀬)でも確認。	湖、水路の沿岸から沖合まで。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	霞ヶ浦(茨城)、北浦(茨城)に導入されている。タナゴ類は比較的容易に異種間で交雑することが知られている。在来タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらへの被害のおそれがある。知見の集積が必要。淡水真珠養殖用のヒレイケチョウガイへの卵、仔魚の混入の可能性はある。タナゴの繁殖期には、産卵母魚となるイシガイ科二枚貝の移植を控える等の配慮が必要。	①特定外来、④各県:茨城、千葉、東京、滋賀、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	霞ヶ浦で駆除が行われたことがある。また、霞ヶ浦で他の外来魚とあわせて釣魚を回収したイベントの際に本種も対象となっていた。https://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukanryo/kantai/kasumigaura/lake/kasumi-tsurisakana.html【URL取得日:2025年11月27日】	-	-	-		
40	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①②③		カラゼニタナゴ(ロデウス・ノタータス)	<i>Rhodeus notatus</i>	I、II				○	◎	-	-	○	◎	◎	-	-	○	○	中国、韓国原産。	岡山。	河川の淡水域。国内では主に農業用水路や小河川に生息している。生きた二枚貝の殻に産卵する。	観賞魚として利用され、ネット通販等でも販売されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	タナゴ類は比較的容易に異種間で交雑することが知られている。在来タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらへの被害のおそれがある。本種の分布する場所では交雑によってスイゲンゼニタナゴを駆逐している。在来タナゴ類との競合も懸念されている。在来種であるイシゲゼニタナゴに比べて産卵数が非常に多く、繁殖力が強い可能性がある。	④各県:東京、⑤検討委員	環境省中国四国地方環境事務所:https://chushikokuenv.go.jp/procure/aileen.html	岡山県では環境省中国四国地方環境事務所が専門家の協力の下、防除を実施している。	公表されているものは無い	-	-	
41	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①②③		タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>	I、II				○	◎	-	-	-	◎	◎	-	-	◎	○	中国、朝鮮半島、台湾原産。フィジーに外来分布。	北海道、本州、四国、九州。	河川下流域、湖沼、水路。	一般的な観賞魚として大量に利用されている。また、釣魚でもある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	タナゴ類は比較的容易に異種間で交雑することが知られている。在来タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらへの被害のおそれがある。特にニッポンバラタナゴとの交雑が進行しているため、これらの生息範囲では本種の導入に特に注意が必要。淡水真珠養殖用のヒレイケチョウガイへの卵、仔魚の混入の可能性はある。タナゴの繁殖期には、産卵母魚となるイシガイ科二枚貝の移植を控える等の配慮が必要。	②日本、④各県:北海道、青森、福島、茨城、群馬、千葉、東京、長野、岐阜、静岡、愛知、滋賀、京都、兵庫、鳥取、奈良、和歌山、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄、⑤検討委員	自然環境研究センター(編著)(2019)	ニッポンバラタナゴ生息地では交雑や競争を防ぐために池干し等の手法で防除が行われている。	福岡県侵略的外来種防除マニュアル2021https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/169206.pdf【URL取得日:2025年11月27日】	-	「たなご」として一部地域で漁業法の漁業種魚種となっている可能性がある。	
42	定着初期／限定分布	防除推進外来種	③	特定外来生物	コウライギギ	<i>Tachysurus fulvidrao</i> (<i>Tachysurus sinensis</i>)	IV				○	-	○	-	-	◎	-	-	○	-	-	東アジア(アムール川〜韓国、中国南部)原産。	霞ヶ浦(茨城)。	原産地では湖沼や河川、氾濫地の止水にも生息している。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	生態系への影響や漁業被害に関する知見の集積が必要。特定外来生物に指定されているチャネルキャットフィッシュと食性等が似ているため、在来生態系に被害を及ぼす可能性が高い。また、分布が拡大した際に、在来のギギ科魚類との競合、交雑が起こることが懸念される。今後の動向に注意する必要がある。生態系影響について、知見の集積が必要。	①特定外来、④各県:茨城、群馬、千葉、東京、岐阜、滋賀、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	NPO法人 水元ネイチャープロジェクトが、水元公園での防除について、外来生物法に基づく認定を受けている。	-	-	-	
43	分布拡大期〜まん延期	防除推進外来種	①②③	特定外来生物	チャネルキャットフィッシュ(アメリカナマス)	<i>Ictalurus punctatus</i>	I				○	-	◎	-	-	◎	-	-	○	○	-	アメリカ、カナダ南部、メキシコ原産。アメリカの非自然分布域の他、中南米とヨーロッパの一部、ロシア、フィリピン、ハワイ等に外来分布。	福島、霞ヶ浦(茨城)、北浦(茨城)、利根川水系(茨城、栃木、埼玉、千葉、東京)、岐阜、愛知、琵琶湖(滋賀)、島根。	河川下流、湖沼等の流れが緩やかな場所。	現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されているが、茨城県霞ヶ浦や岐阜県下小島ダムで許可を受けて養殖され、地域の名物として食用に利用されている。この他、展示目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。また、養殖池から自然水域に逸出させないこと。	霞ヶ浦(茨城)ではイサザアミやハゼ類等の水産利用種を捕食し、これらの漁獲高を減少させている。これに似る鋭い棘で漁業者がけがをする被害がある。	①特定外来、④各県:福島、茨城、群馬、千葉、東京、岐阜、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	茨城県の霞ヶ浦、滋賀県の琵琶湖、福島県の阿武隈川等で防除が実施されたことがある。https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5463989.pdf【URL取得日:2025年1月14日】https://www.pref.shiga.lg.jp/ppan/shigotosa-ngyou/suisan/18681.html【URL取得日:2025年1月14日】	水産庁 だれでもできる外来魚駆除2:https://www.jfa.maff.go.jp/j/enoki/attach/pdf/nausimeninfo-12.pdf【URL取得日:2025年11月27日】福島県 阿武隈川におけるチャネルキャットフィッシュの駆除方法:https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/261592.pdf【URL取得日:2025年11月27日】愛知県特定外来生物対策ハンドブックhttps://kankyocho.pref.aichi.jp/Download/Download/3%E6%9C%AC%E6%96%87.pdf【URL取得日:2025年11月27日】	-	-	-
44	分布拡大期〜まん延期	防除推進外来種	①③	特定外来生物	カダヤシ(タッピンノー、モスキートフィッシュ)	<i>Gambusia affinis</i>	I				◎	-	◎	-	○	◎	-	-	-	○	-	アメリカ南東部原産。世界中に広く外来分布。	福島以南の本州、小笠原、四国、九州、沖縄。	主に水田地帯等の流れの無い用水路、河川本流や湖沼にも生息。	観賞魚や蚊の駆除用として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	メダカが生息地に本種が導入された場合、メダカが減少し、カダヤシに置き換わってしまうケースがある。	①特定外来、②日本、IUCN、③GISD、④各県:福島、茨城、千葉、東京、長野、岐阜、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、岡山、山口、徳島、香川、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	他の外来魚の防除の際に同時に駆除されることがある。	愛知県特定外来生物対策ハンドブックhttps://kankyocho.pref.aichi.jp/Download/Download/3%E6%9C%AC%E6%96%87.pdf【URL取得日:2025年11月27日】横須賀市:https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/5555/bustres/documents/gb_17.pdf【URL取得日:2025年1月14日】	-	-	-
45	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①③		コウライオヤニラミ	<i>Coreoperca herzi</i>	I				◎	-	◎	-	-	◎	-	-	-	-	-	朝鮮半島原産。	宮崎県大淀川水系萩原川に定着。	川の上流域の石や礫が多い環境。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	環境DNAを用いた調査で、捕食や競合によって在来生態系に大きな影響を及ぼしていることが示された。	④各県:東京、岐阜、宮崎、⑤検討委員	細谷(編・監修)(2019)	大淀川水系では漁協による防除が行われている。	-	-	-	
46	定着初期/限定分布	防除推進外来種	①③	未判定外来生物	バンブキンシードサンフィッシュ(バンブキンシード)	<i>Lepomis gibbosus</i>	I				○	-	◎	-	○	◎	-	-	-	○	-	アメリカ東部の大西洋岸と五大湖周辺原産。ヨーロッパの多くの国と南米の数か国、オーストラリアに外来分布。	石川。	砂礫底の池や水路から河川まで、水中植物の繁茂する場所を好む。	観賞魚として利用されていた。現在は未判定外来生物に指定され、輸入は規制されている。国内で繁殖したと思われる個体が少数流通することがある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	石川のため池で確認された。定着の可能性が高いとされている。北米大陸の本来の生息域外の他、ヨーロッパの多くの国に水産利用目的で導入されている。生態系への影響については明かになっていないが、固有の軟体動物への捕食が確認されているほか、多様性の低下や在来種への攻撃性が指摘されている。卵の保護を行うため初期の生存率が低い。	⑥国内での確認	藤田(2025) Boschung and Mayden(2004)	-	-	-		

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト改定案 ＜動物（魚類）＞
【国内由来の外来種】

対策優先度の要件（※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入）
① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。
② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。
③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。
④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

選定理由
Ⅰ．生態系被害が大きいもの。
Ⅱ．生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。
Ⅲ．生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。
Ⅳ．知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※ 掲載の順番は、分類の並びとし、原則、科（亜科）レベルの配列をNelson(2016)に、科レベル以下の配列は細谷(2019)に従った。細谷(2019)に掲載されていないものは学名のアルファベット順とした。

※ 掲載等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2026.3.27時点

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														自然分布	問題となっている地域	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候				人体	経済産業	利用													付着混入																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
総合対策外来種（定着）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
防除推進外来種（生態系等へ及ぼす影響が大きなもの）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
1	国内由来の外来種	防除推進外来種	③		東北地方、東海・北陸地方以東及び九州北西部のギギ	<i>Tachysurus nudiceps</i>	I																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														自然分布	問題となっている地域	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散															
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候																		
12	国内由来の外来種	防除検討対象外来種			琵琶湖、淀川水系及び三方湖以外のハス	<i>Opsarichthys uniostris uniostris</i>	I			-	○	◎	-	-	○	○	-	-	○	○	琵琶湖淀川水系、福井県三方湖。	関東、北陸地方、濃尾平野、中国地方、九州。	ダム湖等大きな遊水池、湖沼、湖沼と結合した河川、大型河川。	琵琶湖では少量が漁獲されているが、一般にはあまり出回らない。釣魚でもある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	魚食性のため、捕食による在来魚類への影響が懸念される。	③各県：福島、茨城、群馬、千葉、東京、長野、静岡、愛知、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、愛媛、高知、福岡、長崎、宮崎、鹿児島	細谷（編・監修）（2019）	-	-	-	-	
13	国内由来の外来種	防除検討対象外来種			東北地方、四国南部、九州南部以南などのオイカワ	<i>Opsarichthys platypus</i>	I、IV			○	○	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	関東以西の本州、四国の瀬戸内海側、九州の北部。国外では朝鮮半島西岸を含むアジア大陸東北部。	東北地方、四国太平洋側、隠岐諸島島後、五島列島、中通島、種子島、徳之島、沖縄島。特に沖縄島では絶滅危惧種の卵の食害が心配される。	平野部を流れる河川の中・下流域とそれに続く水路、きれいな湖沼。	釣魚として利用されている。観賞魚としても利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	ウグイと競合し、負の影響を与える。自然環境下でカワムツ、ヌマムツ、オイカワの種間交雑が確認されている。最近沖縄島で確認された。沖縄島北部に分布しており、絶滅危惧種の卵の食害等の影響が懸念されるため、今後の分布拡大や生態系被害についての知見の集積が必要。	④各県：北海道、青森、福島、和歌山、徳島、高知、宮崎、鹿児島、⑤検討委員	細谷（編・監修）（2019）、金尾（2025）	-	-	一部地域で漁業法の漁業権魚種となっている。	-	
14	国内由来の外来種	防除検討対象外来種			関東地方のタカハヤ	<i>Rhynchocypris oxycephalus</i>	I			○	◎	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	神奈川県西部及び新潟県境川水系以西の本州、四国、九州、対馬、五島列島。	関東地方。	河川上中流部。	観賞魚として利用されている。一部の地域ではウナギ釣りの餌として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	多摩川では交雑によりアブラハヤと置き換わっている。	④各県：東京、⑥現行リスト作成時の検討種	細谷（編・監修）（2019）	-	-	-	-	
15	国内由来の外来種	防除検討対象外来種			北海道、東北地方などのモツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	I、II			◎	◎	-	-	-	○	◎	-	-	○	-	関東地方以西の本州、四国、九州。	北海道、東北地方、四国、九州、長野、沖縄。	湖、池沼、それに続く細流、河川下流域、泥底の淀み。	観賞魚の飼育等として利用されている。川魚の佃煮として食用にされている。釣魚でもある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	シナイモツゴ生息地に導入後、シナイモツゴを駆逐して優占種となっている。交雑個体は繁殖能がなく、遺伝的かく乱はないものの、繁殖に関する競合により正常な繁殖が阻害されることで影響を及ぼしている。	③各県：北海道、青森、福島、長野、鹿児島、沖縄	細谷（編・監修）（2019）	シナイモツゴの生息するため池で水抜きによる防除が行われている。	一部地域で漁業法の漁業権魚種となっている。	-		
16	国内由来の外来種	防除検討対象外来種			東北地方、関東地方及び九州のタモロコ	<i>Gnathopogon elongatus</i>	I			○	◎	-	○	-	○	-	-	-	○	○	東海地方以西の本州、四国。	東北地方や九州。	河川中・下流域や湖沼、農業水路、ため池等の流れの緩やかな水域、水田地帯の農業水路に多い。	観賞魚として利用されている他、川魚の佃煮として食用にされている。釣魚でもある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	競合による影響が懸念されている。	④各県：北海道、青森、福島、茨城、群馬、千葉、鹿児島	細谷（編・監修）（2019）	-	-	「もろこ」として一部地域で漁業法の漁業権魚種となっている可能性がある。	-	
17	国内由来の外来種	防除検討対象外来種			琵琶湖以外のホンモロコ	<i>Gnathopogon caeruleus</i>	I			◎	◎	-	-	-	○	-	-	-	○	○	琵琶湖。	琵琶湖以外の地域。	湖沼。	観賞魚として利用されている他、休閒田等で食用に養殖されていることがある。釣魚でもある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	奥多摩湖、山中湖、河口湖、諏訪湖、湯原湖に外来分布。スワモロコの絶滅はホンモロコの移殖による交雑又は競合が原因とされている。タモロコの生息地で交雑する可能性がある。	④各県：茨城、千葉、東京、愛知、奈良、和歌山、山口、愛媛、宮崎	細谷（編・監修）（2019）	-	-	「もろこ」として一部地域で漁業法の漁業権魚種となっている可能性がある。	-	
18	国内由来の外来種	防除検討対象外来種			関東地方以北及び九州などのぜぜラ	<i>Bivia zozera</i>	I、IV			-	○	-	-	-	○	-	-	-	○	○	関東地方、新潟県、濃尾平野（琵琶湖由来）、九州（琵琶湖由来）。特に九州では分布が拡大している。	主に湖沼や河川中・下流域の流れの緩やかな砂泥底から砂底。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	霞ヶ浦では1960年代に初認。九州北西部では在来の同種集団と交雑。その他の影響は不明。九州では分布を拡大しており、さらなる分布の拡大やそれに伴う生態系影響についての知見の集積が必要。	④各県：青森、茨城、千葉、東京、和歌山、山口、⑤検討委員	細谷（編・監修）（2019）	-	-	-	-		
19	国内由来の外来種	防除検討対象外来種			琵琶湖以外のスゴモロコ	<i>Squalidus chankaensis biwa</i>	I、IV			-	○	-	-	-	○	-	-	-	○	○	濃尾平野、淀川、山陽地方、九州北部。	琵琶湖では水深10m前後の砂底や砂泥底に群れで生息する。	観賞魚として利用されている。川魚の佃煮として食用にされている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	関東地方や紀伊半島、四国に外来分布している。広島県での確認記録もあり、コウライモロコへの遺伝的かく乱が懸念される。	④各県：茨城、群馬、東京、鹿児島、⑤検討委員	細谷（編・監修）（2019）	-	-	「もろこ」として一部地域で漁業法の漁業権魚種となっている可能性がある。	-		
20	国内由来の外来種	防除検討対象外来種			東日本、九州などのコウライモロコ	<i>Squalidus chankaensis tsuchigae</i>	IV			-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	濃尾平野、和歌山県紀ノ川～広島県芦田川の比較的大きな河川に不連続に分布。国外では朝鮮半島西部。	九州。	河川の中・下流域とそれに続く水路。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	生態系影響は不明。九州では分布を拡大しており、さらなる分布の拡大やそれに伴う生態系影響についての知見の集積が必要。	④各県：千葉、東京、鳥取、高知	細谷（編・監修）（2019）	-	-	「もろこ」として一部地域で漁業法の漁業権魚種となっている可能性がある。	-	
21	国内由来の外来種	防除検討対象外来種			奄美群島以南のドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	I、IV			-	○	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	日本全国に分布するが、自然分布域の詳細は不明。国外ではアムール川水系～インドシナ半島。	沖縄島。	水田や農業水路、湿地帯等の流れのない泥底。	観賞魚や食用として大量に利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	沖縄県北部のヒョウモンドジョウ生息地に近接する地域に本州や中国由来のドジョウが確認されており、ヒョウモンドジョウに対する遺伝的かく乱が懸念されている。	③GISD、④各県：北海道、奈良、鹿児島	細谷（編・監修）（2019）	-	-	-	-	
22	国内由来の外来種	防除検討対象外来種			石狩低地より南西の北海道及び本州以南のフクドジョウ	<i>Nemacheilus barbatulus toni</i>	I、IV			○	-	○	-	-	○	-	-	-	○	○	北海道石狩川より南西部、福島、神奈川県、宮崎。	北海道石狩川より南西部、福島、神奈川県、宮崎。	河川上流部から下流部の礫底。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	水生昆虫への捕食や同所的に生息する底生魚類への競合が懸念されている。本州で分布拡大が顕著であり、今後の分布拡大や生態系被害についての知見の集積が必要。	④各県：福島、茨城、東京	細谷（編・監修）（2019）	-	-	-	-	
23	国内由来の外来種	防除検討対象外来種			青森県及び秋田県から兵庫県までの日本海側のミナメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	I			-	◎	-	-	-	○	-	-	-	◎	-	京都府以西の日本海側と岩手県以西の本州、四国、九州、琉球列島、隠岐や奄岐、対馬等の島嶼。	青森及び秋田から兵庫までの日本海側。	平野部の河川、池沼、水田、農業水路等の流れが緩やかな場所。	観賞魚や肉食魚の餌等として大量に利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	北海道、関東地方、奈良県を含む全国（詳細不明）に外来分布。各地で放流による遺伝的かく乱が問題となっている。	④各県：北海道、福島、千葉、滋賀、和歌山、徳島、鹿児島、⑤地方自治体	細谷（編・監修）（2019）	-	-	-	-	

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																自然分布	問題となっている地域	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散																
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入															
24	国内由来の外來種	防除検討外来種			滋賀県、大阪府、和歌山県 以東及び九州南部の オヤニラミ	<i>Coreoperca kawamobari</i>	Ⅳ			○	-	○	-	-	○	○	-	-	○	-	保津川・由良川以西の本州、四国北東部、九州北部。国外では朝鮮半島南部。	東京、神奈川、愛知、滋賀、宮崎。	水の澄んだ河川の緩流部、水路。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	導入年代は不明。滋賀県と愛知県では条例で放流を規制しており、岐阜県美濃加茂市では自治体が研究者と協力して駆除を行っている。東海地方や東京都の外來分布地は絶滅危惧種の生息地にもなっており、影響が懸念されている。近畿地方でも由良川水系、桂川水系以西には自然分布している。生態系影響についての知見の集積が必要。	③各県：東京、愛知、滋賀、奈良、和歌山、徳島、愛媛、宮崎 細谷（編・監修）（2019）	岐阜県において電気ショックとタモ網を用いた防除が実施されたことがある。	-	-	-				

【国内に自然分布域を持つ国外由来の外來種】

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地	問題となっている地域	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症	
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散															
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入														

総合対策外来種（定着）

防除検討外来種（被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの）

1	定着初期／限定分布	防除検討外来種			外国産ギンブナ（ギベリオブナ）	<i>Carassius</i> sp.	Ⅰ			-	㊟	-	-	-	○	-	-	-	-	-		国内では全国に分布しているが自然分布との区別は困難。国外では朝鮮半島と中国大陸。	琉球列島。	河川の溪流域を除くほとんどの環境。	海外では食用として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	国内に同種が存在する。在来種についても自然分布域は不明。琉球列島に中国や台湾産の個体が導入され、琉球列島固有のフナへの遺伝的かく乱や個体群の減少が確認されている。	④各県：東京、 ⑤検討委員	高田ほか（2010） 立原私信	-	-	-	-
2	定着初期／限定分布	防除検討外来種			外国産ツチフキ	<i>Abbottina rivularis</i>	Ⅳ			-	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-		国内では遠尾平野、近畿地方、山陰地方、九州北部、九州北部。国外では朝鮮半島から中国東部。	九州。	平野部の池沼や農業用水路の池底を好む。	国内産の個体と思われるものは観賞用として利用されている。中国産の個体はフナの導入に伴って入ったと推測されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	九州に中国由来のツチフキが外来分布しており、在来個体との交雑による遺伝的かく乱が懸念されている。	④各県：茨城、群馬、東京、 ⑤検討委員	Jang-Liaw et al（2019）	-	-	-	-
3	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			外国産ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	Ⅰ			-	㊟	-	-	-	○	-	-	-	○	-		国内では全国に分布するが、自然分布域の詳細は不明。国外ではアムール川水系～インドシナ半島。	全国。	主に水田や水路、湿地等の流れの無い泥底。	食用や観賞魚の餌等として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	全国各地に定着している。特に関東北部、大阪平野等では多くが外国産ドジョウが在来種との交雑集団に置き換わっている。	④各県：東京、愛媛、鹿児島、 ⑤地方自治体	中島（2020）	-	鹿児島県：奄美群島にお住まいの方向けドジョウ、カラドジョウ防除マニュアル https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/gairai/documents/72338_20231017092923-1.pdf【URL取得日：2025年11月27日】	一部地域で漁業法の漁業権魚種となっている。	-

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト改定案 <動物(昆虫)>
【国外由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入)
① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。
② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。
③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。
④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

選定理由
Ⅰ. 生態系被害が大きいもの。
Ⅱ. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。
Ⅲ. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。
Ⅳ. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※ 掲載の順番は、分類の並びとし、原則日本昆虫目録に従った。なお、日本昆虫目録に掲載されていないものについては準ずるWebサイト(日本列島昆虫全種目録、Antwiki)を参考とした。

※ 斜線等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2026.3.27時点

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症	
								定着可能性	生態系被害				分布拡大	重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散																	
									生物	導入	競合	交雑			捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	人体	経済産業	利用													付着混入
侵入・定着防止外来種(未定着)																																		
侵入予防外来種(まだ侵入していない種)																																		
1	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物(要緊急対処特定外来生物)	ヒアリ類4種群及びその交雑個体(ヒアリ、アカカミアリ及びホクベヒアリを除く。)	<i>Solenopsis</i> spp. (<i>Solenopsis geminata</i> species group、 <i>Solenopsis saevissima</i> species group、 <i>Solenopsis tridens</i> species group、 <i>Solenopsis virulens</i> species group)	I、III	○	○	◎	-	◎	-	-	○	-	◎	◎	-	○	北米～南米原産。	-	亜熱帯～暖温帯の草地等比較的開けた環境。	利用に関する情報は得られなかった。	-	これまでに我が国での確認事例はないものの、確認事例の多いヒアリ・アカカミアリ同様、貨物等に伴い侵入する可能性があることから注意が必要。 節足動物の他、爬虫類、小型哺乳類をも集団で攻撃、捕食することが知られ家畜への被害を起こしている種群もある。フランス領ギアナでは、 <i>S. saevissima</i> が元々は河岸の森林や牧草地にのみ分布していたが、熱帯雨林の地域が人為的に破壊されるにつれ、裸地となった地域に素早く分布を広げており、生態系への影響が懸念されている。刺された場合、深刻なアナフィラキシーショックを引き起こした例も知られている。	①特定外来(要緊急対処)④各県:長崎	東ほか(2008)、寺山(2018)、橋本(編)(2020)、環境省HP(ヒアリ)	環境省:要緊急対処特定外来生物ヒアリに関する情報(ヒアリの全国確認情報) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outint/e/attention/hiari.html 【URL取得日:2025年11月27日】	環境省:要緊急対処特定外来生物ヒアリに関する情報(ヒアリの防除に関する基本的考え方) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outint/e/attention/file/hiariboujo.pdf 【URL取得日:2025年11月27日】	植物防疫法(アリ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-		
2	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物(要緊急対処特定外来生物)	アフリカミツバチ及びアフリカ化ミツバチ	<i>Apis mellifera scutellata</i>	III	○	○	○	-	-	-	-	○	-	◎	-	○	-	アフリカ東部～南部原産。 オーストラリア、北米南部～中南米、西インド諸島等に外来分布。	-	森林、農耕地、住宅地等。	利用に関する情報は得られなかった。	-	南米等においては養蜂で用いられている。アフリカ化ミツバチは、セイヨウミツバチの亜種アフリカミツバチとヨーロッパ産亜種が交雑したもの。形態による識別は困難。アフリカ化ミツバチは攻撃性が高く、海外では集団で人や家畜を長時間襲い、死に至らしめる事例がある。 検査が必要な物(指定検疫物等): https://www.maff.go.jp/aqs/hou/37.html 監視伝染病(家畜伝染病): https://www.maff.go.jp/aqs/hou/41.html 監視伝染病(届出伝染病): https://www.maff.go.jp/aqs/hou/42.html	③GISD、④各県:長崎、沖縄、⑥その他	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	家畜伝染病予防法(蜜蜂として、指定検疫物)	腐蛆病(蜜蜂として監視伝染病(家畜伝染病)) バロア症、チョーク病、アカリダニ症、ノゼマ症(蜜蜂として監視伝染病(届出伝染病))			
定着防止外来種(侵入事例はあるが定着していない種)																																		
3	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	外国産クワガタムシ(特定外来生物を除く。)	Lucanidae Gen spp.	I	○	◎	○	◎	-	-	-	○	○	-	-	◎	-	世界に広く分布。	-	森林や農耕地、里山、都市部等多様な環境に生息。	ペットとして多様な種が輸入されている。 標本でも多様な種が販売されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	野外での外国産のオオクワガタ属と日本産の同属種ヒラタクワガタとの交雑個体の確認例があり、遺伝的かく乱をもたらすおそれが指摘されている。	④各県:群馬、東京、兵庫⑥その他	荒谷(2003)、五箇・小島(2004)、岩田(2024)、自然環境研究センター(編著)(2019)	-	外為法(<i>Colophon</i> 属全種がワシントン条約付属書IIIに掲載) 植物防疫法(クワガタムシ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について http://www.pps.go.jp/rg/tscrh/ (検索結果819件が輸入規制・規制無、うち9件が備考・外来生物法での規制有)	-			
4	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)	定着防止外来種		特定外来生物	特定外来生物のマルバネクワガタ属10種	<i>Neolucanus</i> spp. (<i>Neolucanus angulatus</i> 、 <i>Neolucanus baladeva</i> 、 <i>Neolucanus giganteus</i> 、 <i>Neolucanus katsuraorum</i> 、 <i>Neolucanus maeda</i> 、 <i>Neolucanus maximus</i> 、 <i>Neolucanus perarmatus</i> 、 <i>Neolucanus saundersii</i> 、 <i>Neolucanus tanakai</i> 、 <i>Neolucanus waterhousei</i>)	I	○	-	○	◎	-	-	-	○	○	-	-	○	-	東アジア、東南アジア原産。	-	森林。	かつて、ペットとして生体が流通していたことがあった。 現在は標本が売買されているものの、生体の販売は確認されていない。 現在は、特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	昆虫愛好家からの人気は高く、標本の取引が行われている。 野外への導入・定着の記録は今のところ確認されていない。国内の南西諸島に侵入した場合、在来マルバネクワガタ類と交雑することによって遺伝的かく乱を生じさせることが危惧されている。	①特定外来④各県:長崎	井岡・田中(2018)、自然環境研究センター(編著)(2019)	-	植物防疫法(クワガタムシ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について http://www.pps.go.jp/rg/tscrh/ (検索結果33件が輸入規制・規制無、うち9件が備考・外来生物法での規制有)	-			
5	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	クモテナガコガネ属	<i>Euchirus</i> spp.	I	○	-	◎	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	東南アジア原産。	-	森林。	かつて、ペットとして生体が流通していたことがあった。 現在は標本が売買されているものの、生体の販売は確認されていない。 現在は、特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。	-	昆虫愛好家からの人気は非常に高く、標本の取引が頻繁に行われている。 野外への導入・定着の記録は今のところ確認されていないものの、沖縄本島北部のヤンバルテナガコガネの生息地や、南西諸島のマルバネクワガタ類等の生息地に侵入した場合には、生息場所を巡って競合が生じるおそれがある。	①特定外来、④各県:長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、Catalogue of Life(COL)	-	植物防疫法(コガネムシ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について http://www.pps.go.jp/rg/tscrh/ (輸入規制・規制無、備考:属で非有害と判定、外来生物法での規制有)	-			
6	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ヒメテナガコガネ属	<i>Propomacrus</i> spp.	I	○	-	◎	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	中国、南ヨーロッパ、西アジア原産。	-	森林。	かつて、ペットとして生体が流通していたことがあった。 現在は標本が売買されているものの、生体の販売は確認されていない。 現在は、特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	昆虫愛好家からの人気は非常に高く、標本の取引が頻繁に行われている。 野外への導入・定着の記録は今のところ確認されていないものの、沖縄本島北部のヤンバルテナガコガネの生息地に侵入した場合競合するおそれがある。また、本属に含まれる種は他のテナガコガネ類に比べて高緯度地域でも生息可能のため、九州以北の地域においても樹洞を利用する他の昆虫に影響を与えるおそれがある。	①特定外来、④各県:長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	植物防疫法(コガネムシ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について http://www.pps.go.jp/rg/tscrh/ (輸入規制・規制無、備考:属で非有害と判定、外来生物法での規制有)	-			

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト改定案 <動物(昆虫)>
【国内由来の外来種】

- 対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入)
- ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。
 - ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。
 - ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。
 - ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

- 選定理由
- I. 生態系被害が大きいもの。
 - II. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。
 - III. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。
 - IV. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目立っている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※ 掲載の順番は、分類の並びとし、原則日本昆虫目録に従った。なお、日本昆虫目録に掲載されていないものについては準ずるWebサイト(日本列島昆虫全種目録、Antwiki)を参考とした。

※ 網羅等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2026.3.27時点

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														自然分布	問題となっている地域	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性	生態系被害				分布拡大			特に問題となる被害	逸出・拡散																
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖		気候	重要地域	人体	経済産業	利用												
総合対策外来種(定着)																																	
防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きなもの)																																	
1	国内由来の外来種	防除推進外来種	①②③		沖縄島のヤエヤマドボタル(オオシマドボタル)	<i>Pyrocoelia atripennis</i>	I、II																										
防除検討外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)																																	
2	国内由来の外来種	防除検討外来種			北海道及び沖縄のカブトムシ本土亜種	<i>Trypoxylus dichotomus septentrionalis</i>	I																										
3	国内由来の外来種	防除検討外来種			伊豆諸島などのリュウキュウツツヤハナムグリ	<i>Protaetia pryori</i>	IV																										

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		特に問題となる被害	逸出・拡散																		
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入														
防除検討外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)																																			
11	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			イトグモ	<i>Loxosceles rufescens</i>	III			-	-	-	-	-	○	-	◎	-	-	◎		地中海沿岸地方原産。アメリカ、メキシコ、ペルー、マカオ、セントヘレナ、南アフリカ、インド、中国、韓国、ラオス、タイ、フィリピン、オーストラリア、ハワイに外来分布。	本州、四国、九州、南西諸島。	住宅地。	利用に関する情報は得られなかった。	-	過去には在来種として扱われていたが、近年の研究から外来種であることが明らかとなった。人への咬傷被害も確認されている。	④各県・東京、 ⑥専門家ヒアリング結果	小野(編著)(2009)、新海(編著)(2017)、Taucare et al.(2018)、森戸(2017)、Blick et al.(2025)	-	-	-	-		
12	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			ヤンバルトサカヤスデ	<i>Chamberlinius hualienensis</i>	IV			○	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○		台湾原産と考えられる。	栃木、埼玉、東京、神奈川、静岡県、愛知、三重、奈良、和歌山、徳島、愛媛、高知、宮崎、鹿児島、伊豆諸島(八丈島、青ヶ島)奄美群島、沖縄島。	住宅地、農地、里地・里山的環境。	利用に関する情報は得られなかった。	-	大量発生し不快害虫となる他、防除の際に焼却などの刺激を与えると、シアン化合物などを含む異臭を伴うガスを発生させ、大量に吸い込むと頭痛や下痢、吐き気といった症状が出ることがある。鹿児島県では、異常発生した本種がレール上を覆い、列車がスリップして運転が停止する被害が報告されている。在来種のヤスデ類を排除している可能性が示唆されている。知見の集積が必要。	④各県・茨城、東京、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄	藤山(2009)、石田・藤山(2010)、新島(2002)、江口ほか(2022)、神谷(2023)、千代田・八尾(2024)、自然環境研究センター(編著)(2019)	東京都八丈町:ヤンバルトサカヤスデの防除対策について https://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/jyumin/yasudetaisaku.pdf 【URL取得日:2025年11月27日】 沖縄県:ヤンバルトサカヤスデの多発事例とその対策 https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page/001/006/581/s20_62-72.pdf 【URL取得日:2025年11月27日】 その他、多数の地方公共団体のWebサイト上にて、防除に関する情報が掲載されている。	東京都八丈町:ヤンバルトサカヤスデの防除対策について https://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/jyumin/yasudetaisaku.pdf 【URL取得日:2025年11月27日】 鹿児島県HP:ヤンバルトサカヤスデの防除対策 https://www.pref.kagoshima.jp/ad03/kurashi-kankyo/recycle/ippan/yasude/yasude_taisaku.html 【URL取得日:2025年11月27日】	-	-		

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散															
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候			人体	経済産業	利用	付着混入												
10	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①②③	特定外来生物(条件付)	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	I				-	-	◎	◎	-	○	-	-	-	◎	-	米国南部原産。メキシコ、ドミニカ、ヨーロッパ等に外来分布。	全国。	湿地、水田とその周辺等	ペットとして多数飼養されている。かつては食用ウシガエルの餌として輸入された。 なお、飼養等は規制されない条件付特定外来生物に指定され、輸入及び販売は規制されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	陸水生態系に大きな影響を及ぼしていることが知られている。 侵入した池・湖では水草を切断することで水生植物群落を壊滅させ、そこに生息する小動物と競合又は捕食することで在来生態系に甚大な被害を及ぼしている。 2022年に飼育等は規制されない条件付特定外来生物に指定され、輸入及び販売は規制された。なお、現在でも全国各地で、多数が定着して野外での繁殖も確認されている。	①特定外来、②日本、③GISD、④各県：北海道、青森、福島、茨城、栃木、群馬、千葉、東京、神奈川、石川、長野、岐阜、静岡県、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫県、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、山口、香川、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	農水省：外来生物駆除手法等検討調査業務 https://www.kkj.go.jp/d/?L=ja&A=Z292Ni8YWMZmLWhva3VyaWt1LzlwMjUvMjAyNTAzMDYMDA1ODIiMDEucGRmOGg==【URL取得日：2025年11月28日】 その他、多くの地方公共団体やNPOにより防除が行われている。	環境省：アメリカザリガニ防除マニュアル https://hokkaido.env.go.jp/content/000175750.pdf【URL取得日：2025年11月28日】 環境省：アメリカザリガニ対策の手引き https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/r_amezari_tebiki2.pdf【URL取得日：2025年11月28日】	-	-	
防除検討外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)																																	
11	定着初期／限定分布	防除検討外来種			コウライエビ(タイショウエビ)	<i>Penaeus chinensis</i>	I、III			◎	-	-	◎	◎	◎	-	-	◎	◎	-	渤海、黄海に分布。	産卵場は泥底質の浅海域。	かつて、有明海では放流事業が行われていた。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	渤海・黄海産の本種が輸入・放流されており、有明海(佐賀県)では1996～2006年に本種の放流事業に対して太良町による予算が付いている。在来のクルマエビとの競合や交雑の可能性が高く、在来資源を圧迫・変質させる可能性がある。	⑤検討委員	丸山ほか(1987)、大森(2022)、北田(2016)、池末ほか(1967)、池末(1967)	-	-	-	-		
12	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			チュウゴクスジエビ	<i>Palaemon sinensis</i>	IV			○	○	-	-	-	○	-	-	-	◎	-	中国、ロシア極東(サハリンを含む)等原産。	本州、四国、九州。	ため池等。	釣り餌として利用されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	旧学名： <i>Palaemonetes sinensis</i> 。河川水辺の国勢調査等により、近年、急速な分布域の拡大が確認され、在来スジエビへの影響が懸念される。	④各県：茨城、群馬、東京、岐阜、長崎、⑤検討委員、地方環境事務所、地方公共団体	内田ほか(2021)、今井ほか(2021)、斉藤ほか(2017)	環境省 カワバタモロコの保全の手引き https://www.env.go.jp/content/000134518.pdf【URL取得日：2025年11月28日】 ※捕獲・駆除：外来種対策(アメリカザリガニ、スジエビ類)PDFp.23	-	-	-	-
13	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			チチュウカイミドリガニとヨーロッパミドリガニの雑種	<i>Carcinus aestuarii</i> × <i>Carcinus maenas</i>	IV			-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	○	地中海、カナリア諸島原産。南アフリカに外来分布。	東京湾、駿河湾、浜名湖、三河湾、伊勢湾、大阪湾、徳島県、瀬戸内海東部、中部、洞海湾。	河ロ～内湾の岩礁、潟、塩性湿地。繁殖期は沖合いへ移動。	利用に関する情報は得られなかった。	-	日本に定着しているチチュウカイミドリガニはヨーロッパミドリガニとの雑種であるとの報告がある。在来種タカケアサリガニ <i>Hemigrapsus takanoi</i> と食物および棲息場所をめぐって競合関係にあることが明らかとなった。	②W100：日本④各県：茨城、千葉、東京、静岡県、愛知、京都、兵庫、和歌山、福岡、長崎、沖縄、⑤検討委員	自然環境研究センター(編著)(2019)、土井他(2009)、Doi et al.(2009)、Darling et al.(2008)、岩崎ほか(印刷中)	-	-	-	-	
14	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			フロリダマミズヨコエビ	<i>Orangonyx floridanus</i>	IV			○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	◎	北米原産。	北海道、本州、四国、九州。	小河川から大河川の中流下流域から止水まで幅広い止水環境に生息。	利用に関する情報は得られなかった。	-	侵入後20年程度で日本各地に分布を拡大した。ペットショップで販売されているホテイアオイから検出されている。本種の侵入地で他種のヨコエビが見られなくなる地域が報告されている。知見の集積が必要。	④各県：福島、茨城、千葉、東京、岐阜、長野、岐阜、静岡県、奈良、和歌山、高知、福岡、長崎、沖縄	金田ほか(2007)、倉西ほか(2009)、東城(2009)	-	-	-	-	
15	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>	III			◎	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	太平洋西南部原産とする説があるが詳細不明。世界に広く分布。	全国の沿岸。	内湾の岩礁、港湾。	利用に関する情報は得られなかった。	-	在来フジツボを被覆して内湾の潮間帯の帯状分布を大きく改変する。船舶、発電所、工場等の取水施設や養殖カキに付着し、汚損被害を引き起こす。	④各県：茨城、千葉、東京、静岡県、愛知、京都、和歌山、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	Mori, & Tanaka (1989)、森(2006)、自然環境研究センター(編著)(2019)、山口(2009)	-	-	-	-	
16	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			アメリカフジツボ	<i>Amphibalanus eburneus</i>	IV			○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	北～中米の大西洋沿岸原産。世界中の温暖な沿岸域に外来分布。	本州以南の沿岸。	内湾の潮間帯、浅海の貝類に付着。	利用に関する情報は得られなかった。	-	各地の養殖業の現場において、養殖カキ等水産物や漁具に付着し、汚損・漁労被害を引き起こす。	④各県：茨城、千葉、東京、静岡県、愛知、京都、兵庫、和歌山、高知、福岡、長崎、宮崎、沖縄	山口(1989)	-	-	-	-	
17	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>	IV			○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	北～南米の大西洋沿岸原産。東アジア、ヨーロッパ、北米西部沿岸に外来分布。	本州以南の沿岸。	内湾の潮間帯、浅海の貝類に付着。	利用に関する情報は得られなかった。	-	各地の養殖業の現場において、養殖カキ等水産物や漁具に付着し、汚損・漁労被害を引き起こす。	④各県：茨城、千葉、東京、静岡県、愛知、京都、兵庫、和歌山、高知、福岡、長崎、宮崎、沖縄	山口(1989)	-	-	-	-	
18	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			キタアメリカフジツボ	<i>Balanus glandula</i>	IV			○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	北米の太平洋沿岸原産。南米に外来分布。	北海道、東北沿岸。	潮間帯の上部～下部。	利用に関する情報は得られなかった。	-	潮間帯の中部で濃密に生息することから、そこに付着する在来の固着生物を駆逐することがある。	④各県：北海道、茨城、東京、長崎、沖縄	加戸(2006)、加戸(2017)、Kado & Nanba(2006)	-	-	-	-	
19	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			ナンオウフジツボ	<i>Perforatus perforatus</i>	I、III			◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	イギリス南西部～西アフリカ、地中海原産。	北海道奥尻島～富山県魚津漁港、岩手県宮古湾～宮城県志津川湾清水浜漁港。	潮間帯下部～潮下帯表層部。	利用に関する情報は得られなかった。	-	原産地の水温を考慮すれば、北陸以北の日本海側と福島県以北の東北・北海道太平洋岸に定着する可能性が高い。棲息域は潮間帯下部から潮下帯上部であり、在来フジツボ類・管棲多毛類と付着場所を巡って競合関係にある。サザエ、イワガキにも高密度で付着するため、漁獲物への汚損被害や漁労被害を発生させるおそれがある。マガキ・ホタテ養殖業への汚損被害や漁労被害を発生させる可能性もある。	④各県：福岡、⑤検討委員	加戸(2017)、Kado & Nanba(2016)、岩崎ほか(印刷中)	-	-	-	-	
20	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			ココボーマアカフジツボ	<i>Megabalanus cocoopoma</i>	I、III			◎	-	-	◎	-	○	-	-	-	-	○	メキシコ～エクアドル原産。ブラジル、米国、ヨーロッパの大西洋岸に外来分布。	本州、四国、九州。	潮下帯表層部の岩礁、魚網、ブイ、船舶船体。	利用に関する情報は得られなかった。	-	潮下帯の岩場に固まって生息するほか、漁業用の浮きや航路ブイ、船舶の船体にも付着。大型のフジツボであるため、漁網・漁具や灯浮標等への汚損が著しく、漁労被害が生じている。内湾から外海にまで棲息できる広塩性と連年に及ぶ繁殖期及び幼生の定着期を持つという、在来種のオオアカフジツボやアカフジツボに勝る適応力があるために圏内の広域に分布しており、上記の在来フジツボとの競合の可能性が高い。	④各県：茨城、千葉、東京、愛知、和歌山、高知、⑤検討委員	山口ほか(2009)、山口ほか(2011)、山口(2014)、岩崎ほか(印刷中)	-	-	-	-	

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	経済産業	逸出・拡散														
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候																		
9	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①④	特定外来生物	カワヒバリガイ	Limnoperna fortunei	I,Ⅲ			◎	-	-	○	-	-	◎	-	○	中国、朝鮮半島原産。アラセーチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイに外来分布。	利根川水系、大塩湖(群馬県)、天竜川、宇連川・矢作川(愛知県)、木曾川水系、琵琶湖・淀川水系。	淡水域の岩の裏、水路等。	利用に関する情報は得られなかった。	-	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響を与えている。本種の生息水域における水利用は、分布拡大に直結するため注意が必要。	①特定外来、④各県：茨城、栃木、東京、岐阜、静岡、兵庫県、岡山、長崎、宮崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	農研機構：特定外来生物カワヒバリガイの現状と被害対策 https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000743212.pdf 【URL取得日：2025年11月28日】	農水省：カワヒバリガイ被害対策マニュアル https://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/kanryo_hozen/k_hozen/pdf/kawahibarimanual.pdf 【URL取得日：2025年11月28日】	-	-			
10	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①		ホンピノスガイ	Mercenaria mercenaria	Ⅳ			○	-	-	-	-	○	-	-	○	北米東海岸原産。北米西岸、イギリス、フランス、オランダに外来分布。	東京湾、大阪湾。	内湾の砂泥底。	食用として利用されている。千葉県市川市塩浜地先と船橋市地先では漁業種が設定され食用に漁獲されている。	逸出には十分に注意し、放出しないこと。	東京湾や大阪湾の貧酸素環境でも残存することで在来種を抑えて競合種となる可能性があるほか、他の干潟でもアサリ等二枚貝と競合する可能性があり、放流や海に繋がる場所での蓄養は避けるべき。	④各県：北海道、千葉、東京、愛知、和歌山、高知、長崎、鹿児島、沖縄、⑤検討委員	縫渡・木幡(2005)、木村(2009)、中村ほか(2012)、遠藤・佐々木(2020)、岩崎ほか(印刷中)	-	-	-	-			
11	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①		シナハマグリなど外国産ハマグリ属(在来のハマグリ、チョウセンハマグリ、トドゥマリハマグリ以外のハマグリ属)	Meretrix petechialis Meretrix spp.	I,Ⅲ			-	◎	-	-	-	○	-	-	○	朝鮮半島、中国、台湾、ベトナム原産。	太平洋側は東京湾以西瀬戸内海まで、日本海・東シナ海側は富山県、福岡県、有明海、鹿児島県。	内湾干潟の砂泥底。	種苗放流や蓄養が行われ、食用として利用されている。	畜養池からの逸出を極力防ぎ、放出しないこと。	1970年代以降の漁獲量激減に伴い、中国からシナハマグリが放流され在来種と交雑が生じた。東京湾では台湾からMitwanica(和名なし)が在来種として導入されたと考えられる。在来ハマグリを保全するためには外来ハマグリ野外導入をやめるべき。愛知県では「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」によってシナハマグリ放流は禁止されている。	②W100：日本、④各県：千葉、東京、愛知、京都、和歌山、香川、愛媛、高知、長崎、鹿児島、沖縄、⑤検討委員	Yamakawa & Imai(2012)、Yamakawa & Imai(2013)、Hsiao & Chuang(2023)、日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編著)(2019)、岩崎ほか(印刷中)	-	-	-	-			
防除検討外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)																																	
12	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			シマメノウフネガイ	Crepidula onyx	Ⅳ			○	-	-	-	-	○	-	-	○	太平洋東岸原産。	北海道、本州、四国、九州。	潮間帯～水深30mの海域。大型貝類(サザエ・アワビ等)の貝殻や岩に付着。	利用に関する情報は得られなかった。	-	水産利用種のサザエやアワビに付着し、商品価値の低下等を引き起こし、取り除きのためのコスト増大でも問題視されている。生態系等への影響については知見の集積が必要。	④各県：北海道、茨城、千葉、東京、静岡、愛知、和歌山、香川、愛媛、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	日本生態学会(編)(2002)、山崎ほか(2009)、岩崎ほか(印刷中)	-	-	-	-			
13	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			コモチカワツボ	Potamopyrgus antipodarum	Ⅳ			○	-	-	-	-	○	-	-	○	ニュージーランド原産。アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアに外来分布。	北海道、本州、四国、九州。	主に砂礫質の小河川等の淡水、汽水域からも報告があり、環境適応性は幅広い。	ホテルの餌として利用され、拡散する事例がある。	ホテルの餌やその他の目的で放出しないこと。	無性生殖で増殖し、繁殖力が極めて強く、非常に高密度で生息している地域が報告されている。知見の集積が必要。カワニナの移植による非意図的な導入に留意すべき。	③GISD、④各県：北海道、青森、福島、茨城、千葉、東京、神奈川、長野、岐阜、山梨、愛知、京都、兵庫、和歌山、香川、長崎、鹿児島、沖縄	浦部(2007)、増田ほか(2010)	国土交通省：馬淵川水辺の乗校「コモチカワツボ」駆除大作戦！ https://www.thr.mlit.go.jp/bumon/kisya/kisyah/images/31038.1.pdf 【URL取得日：2026年1月6日】	-	-	-	-		
14	定着初期／限定分布	防除検討外来種			カラムシロ	Nassarius sinarus	I,Ⅲ			◎	-	◎	-	-	○	-	-	◎	-	中国沿岸原産。韓国に分布。	瀬戸内海、有明海。	干潟。	中国では食用として利用されるが、精神障害、呼吸麻痺による死亡例がある。国内では利用に関する情報は得られなかった。	-	アゲマキやアサリの輸入漁業資源に混入して侵入したと考えられている。同所的に生息するウネハナムシロやヒロオビゴフイと競合し、これらの個体群に悪影響を及ぼす可能性がある。カゴ漁などの水産業に大きな被害を与えている他、中国の東シナ海側では食用されることがあるが、精神障害や呼吸麻痺による死亡事例があるため、誤った摂食による人的被害が発生するおそれがある。	④各県：東京、京都、香川、福岡、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		
15	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			ハブタエモノアラガイ	Lymnaea columella	Ⅳ			○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	北米原産。ヨーロッパ、アジア、オーストラリア等に外来分布。	本州、四国。	池沼、水路等の止水か半止水的な環境の淡水。	利用に関する情報は得られなかった。	-	在来モノアラガイとの置き換わりの事例が確認されている。肝蛭等の吸虫類の中間宿主になりうる。知見の集積が必要。観賞用の魚類や水生植物に混入している可能性があるため、飼養又は栽培に使用した水を野外放出しないようにすること。	④各県：北海道、福島、茨城、千葉、東京、岐阜、静岡、愛知、滋賀、京都、愛媛、和歌山、鳥取、山口、香川、高知、福岡、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄	高倉(2008)	植物防疫法(モノアラガイ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-	-	-	-	
16	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			ヒロマキミズマイマイ	Monetus dilatatus	Ⅳ			○	-	-	-	○	○	-	-	-	○	北米原産。ヨーロッパに外来分布。	宮城、神奈川、岐阜、新潟、愛知、石川、滋賀、大阪、兵庫。	河川。	利用に関する情報は得られなかった。	-	河川水辺の国勢調査等により、近年、急速な分布域の拡大が確認され、ハブタエモノアラガイと同様に生態系被害が懸念される。観賞用の魚類や水生植物に混入している可能性があり、飼養又は栽培に使用した水を野外放出しないようにすること。	④各県：愛知、京都、福島、滋賀、静岡、⑤検討委員	河川水辺の国勢調査結果等	植物防疫法(ヒラマキガイ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-	-	-	-	
17	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			オオクビキレガイ	Rumina decollata	Ⅳ			○	-	○	-	-	◎	-	-	○	地中海沿岸地域原産。北米、南米、東アジアに外来分布。	本州(関東以西)、九州。	市街地、農耕地の乾燥した環境でも生息可能。	利用に関する情報は得られなかった。	-	農作物、園芸植物への影響が懸念されている。また、海外では他の陸産貝類を捕食することが知られている。自家繁殖で繁殖可能。知見の集積が必要。農業用や園芸用の資機材・種苗に混入して分布拡大する可能性があり、留意が必要。輸入について植物防疫法上の規制あり。	④各県：千葉、東京、静岡、愛知、滋賀、京都、兵庫、和歌山、山口、福岡、長崎、大分、沖縄	松隈・武田(2009)、梅谷(編)(2012)、Fisher et al(1990)、石田(2020)、愛知県の外支種ブルーデータブックあいち2021(2021)	植物防疫法(アフリカマイマイ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-	-	-	-		
18	定着初期／限定分布	防除検討外来種			マダラコウラナメクジ	Limax maximus	Ⅳ			○	-	○	-	-	○	-	-	○	ヨーロッパ原産。南北アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア等に外来分布。	北海道、本州の一部に導入、定着も確認されている。	都市部、住宅地、農耕地、河川敷等。	利用に関する情報は得られなかった。	-	海外では他種のナメクジに対して高い攻撃性を持つことや、園芸植物や農作物への被害の報告がある。知見の集積が必要。農業用や園芸用の資機材・種苗に混入して分布拡大する可能性があり、留意が必要。輸入について植物防疫法上の規制あり。	④各県：福島、茨城、群馬、東京、長野、滋賀、京都、長崎、沖縄	Rollo(1993)、Baker & McGhie(1994)	植物防疫法(コウラナメクジ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-	-	-	-		

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症		
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散																	
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候			人体	経済産業	利用	付着混入														
19	分布拡大期～まん延期	防除検討 対外来種			コハクガイ	<i>Zonitoides arboreus</i>	Ⅱ			○	-	◎	-	-	○	◎	-	○	-	○		北米原産。世界に広く外来分布。	日本全国。	庭園や畑地等。	利用に関する情報は得られなかった。	-	農作物や家庭菜園の植物の食害や観賞用の花卉類、特に高価なラン類の花芽を食害する種として知られている。 在来産産貝類(野外飼育されている生息域外保全個体)の卵を捕食、高密度になり保全に影響を及ぼす。 農業用や園芸用の資機材・種苗に混入して分布拡大する可能性があり、留意が必要。	④各県：北海道、茨城、千葉、愛知、滋賀、京都、奈良、鳥取、山口、高知、福岡、宮崎、鹿児島、沖縄、⑤地方環境事務所	ブルーデータブックあいち2012(2012)、樋口ほか(2020)	農林水産省：非検疫有害動植物(まん延した場合に有用な植物に損害を与えるおそれがないことが確認されていない有害動植物)から除かれる有害動植物の病害虫リスクアナリシス(PRA)報告書 3) 第3次改正において追加した非検疫有害動植物のPRA報告書 https://www.maff.go.jp/j/syouan/keneki/ki_kaku/pdf/3ji_non_quarantine_pest.pdf【URL取得日：2025年11月28日】			植物防疫法(コハクガイ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動植物) 植物防疫法(植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動植物、二まん延した場合に有用な植物に損害を与えるおそれがないことが確認されていない有害動植物から除かれる有害動植物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について http://www.pps.go.jp/rg/ttrch/(輸入規制・規制無)	-	-
20	分布拡大期～まん延期	防除検討 対外来種			ムラサキガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>	Ⅰ、Ⅲ			◎	◎	-	○	-	○	-	-	◎	○	○		地中海沿岸原産。韓国、オーストラリア、北米、アフリカ等に外来分布。	ほぼ全国の沿岸域。	潮間帯域の岩・人工構造物に付着。	食用として、一部で利用されている。岩手県において漁業種に基づく養殖の実態がある。	逸出には十分に注意し、放出しないこと。	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響、大発生年にはカキ等の養殖に甚大な被害を与えることがあり、国内でも広島等で被害事例がある。 北海道では在来種キタノムラサキガイとの交雑個体がほぼ全域で確認されている。	②W100：日本・IUCN、③GISD、④各県：北海道、茨城、千葉、東京、静岡県、愛知、京都、兵庫、和歌山、鳥取、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	Brannock et al.(2009)、Iwasaki(2019)	-	-	-	-		
21	分布拡大期～まん延期	防除検討 対外来種			ミドリイガイ	<i>Perna viridis</i>	Ⅰ、Ⅲ			◎	-	-	○	-	○	-	-	◎	○	○		インド洋～西太平洋の熱帯域原産。カリブ海、メキシコ湾、オーストラリア沿岸に外来分布。	山形、新潟、関東以西。	潮間帯の岩、人工構造物。	食用とされるが、国内での生産はないと思われる。沖縄島と石垣島では養殖試験で導入されたが中止された。	逸出には十分に注意し、放出しないこと。	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響を与えている他、取水施設に汚損被害を与えている。	③GISD、④各県：東京、静岡、愛知、京都、兵庫県、和歌山、徳島、香川、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	岩崎ほか(2004)、自然環境研究センター(編著)(2019)、岩崎ほか(印刷中)	-	-	-	-		
22	分布拡大期～まん延期	防除検討 対外来種			コウロエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>	Ⅰ、Ⅲ			◎	-	-	○	-	○	-	-	◎	-	○		オーストラリア、ニュージーランド沿岸原産。アジア外海に外来分布。	岩手・秋田以南。	内湾、河口等の潮間帯。	兵庫県尼崎市では人工干潟での水質浄化のために導入・利用された。	逸出には十分に注意し、放出しないこと。	付着基盤を被覆することで在来生物による潮間帯の帯状分布を破壊し、船舶や水利施設、漁具等に汚損被害を与えている。	②W100：日本、④各県：北海道、茨城、千葉、東京、静岡、愛知、京都、兵庫、和歌山、鳥取、徳島、香川、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、沖縄	Iwasaki & Yamamoto(2014)、自然環境研究センター(編著)(2019)、Iwasaki(2024)、岩崎ほか(印刷中)	-	-	-	-		
23	定着初期／限定分布	防除検討 対外来種			ヨーロッパヒラガキ	<i>Ostrea edulis</i>	Ⅰ、Ⅲ			◎	-	-	○	-	○	-	-	○	-	-		ヨーロッパ、北東大西洋、地中海、黒海原産。アメリカに外来分布。	青森、岩手。	沿岸域。	試験的養殖が屋外で行われている。現時点で養殖・流通をめざす動きがある。	逸出には十分に注意し、放出しないこと。	1952年にオランダから輸入されて宮城県等で増殖種の試験研究が開始され、北海道、青森県、岩手県、宮城県では屋外で垂下養殖試験も行われた。しかし、養殖事業化は成功せず、屋外での発見もなかったために定着していないと思われる。2023年4月に岩手県と山田湾での養殖マガキ等に付着・生存していることが確認されたため、当地で定着していることは確実である。養殖マガキや養殖ホタテへの汚損被害を発生させ、岩礁や藻などの根基質ではEcosystem engineerとなって生態系の構造を改変する可能性が高い。	③GISD、⑤検討委員	寺本ほか(2024)、岩崎ほか(印刷中)	-	-	-	-		
24	分布拡大期～まん延期	防除検討 対外来種			ヒレイケチョウガイ	<i>Hyriopsis cumingii</i>	Ⅰ			-	◎	-	-	-	○	-	-	-	○	○		中国原産。	茨城、滋賀。	湖沼、河川等の淡水域。	真珠養殖に利用されている。	逸出には十分に注意し、放出しないこと。	ヒレイケチョウガイ交雑個体(イケチョウガイ(琵琶湖固有種)とヒレイケチョウガイ(中国産)との交雑個体)が真珠養殖に用いられ、遺伝的かく乱が広域に生じている。	④各県：茨城、滋賀	白井ほか(2010)、萩原ほか(2021)	-	-	-	-		
25	分布拡大期～まん延期	防除検討 対外来種			タイワンシジミ	<i>Corbicula fluminea</i>	Ⅰ			○	○	-	-	-	○	-	-	◎	○	○		中国、朝鮮半島、ロシア原産。北米、南米、ヨーロッパ、オーストラリアに外来分布。	本州～九州。	湖沼、水路等の淡水域。	食用として利用されている。	逸出には十分に注意し、放出しないこと。	カネツケンシジミ <i>insularis</i> とされるものを含む。マシジミはタイワンシジミと同系統であることが示唆されている。 在来種のセタシジミとの競合や交雑の恐れが指摘されている。国内では農業水利施設で通水障害を起こした他、海外では通水障害による電力産業への大きな損害を与えている事例もある。食味は在来種のヤマトシジミに比べて劣るとされる。	③GISD、④各県：福島、茨城、千葉、東京、長野、岐阜、静岡県、愛知、京都、兵庫県、和歌山、鳥取、山口、徳島、香川、愛媛、福岡、長崎、宮崎、鹿児島	自然環境研究センター(編著)(2019)、Haubrock et al.(2022)	鹿児島県：タイワンシジミシジミ種群防除マニュアル https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/krash-i-kankyo/gairai/documents/72338_20240510171156-1.pdf【URL取得日：2025年11月28日】	-	-	-	-	
26	定着初期／限定分布	防除検討 対外来種			ウスシジミ	<i>Corbicula nitens</i>	Ⅰ、Ⅲ			○	◎	-	-	-	○	-	-	○	-	-		韓国原産。	利根川河口域。汽水域。	利根川河口域のヤマトシジミ漁場ではタイワンシジミやウスシジミ等の外国産シジミが混在しており、外国産シジミを取り除く選別作業が生じており、ヤマトシジミとの選別過程で取り除かれたウスシジミを含む外来シジミは漁業者によって自家消費される場合がある。	本種と在来種ヤマトシジミを形態で識別するのは難しいため、ウスシジミを含む外国産シジミの導入は厳に慎むべき。また、逸出には十分に注意し、放出しないこと。	増殖事業としてのシジミ放流時における混入が指摘されている。2000年に茨城県北浦の中流域から利根川の河口部で採集されたものが韓国産のウスシジミに形態的・遺伝的に近似しているとしてこの種に同定されており、中国または台湾から持ち込まれたとされる。在来種の汽水性シジミであるヤマトシジミと似た塩分耐性を持っており、ヤマトシジミと同じ2倍体で両性発生をし、両種の交雑試験ではベリジャー幼生まで正常に発生したことから、ヤマトシジミと競合または交雑する可能性が示唆されている。	④各県：茨城、千葉	石橋ほか(2005)、橋本ほか(2003)、横山(2019)	茨城県：茨城県内で外来シジミが繁殖! https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/naisuihi/kawaraban/documents/k176.pdf【URL取得日：2025年11月28日】	-	-	-	-		
27	分布拡大期～まん延期	防除検討 対外来種			イガイダマシ	<i>Mytilopsis sallei</i>	Ⅰ、Ⅲ			◎	-	○	-	○	-	-	◎	-	○		メキシコ湾、カリブ海原産。インド、パナナム、台湾、香港、アジア等々に外来分布。	千葉、東京、静岡県、愛知、富山、大阪、和歌山、岡山、高知、福岡。	河川の下流部等の汽水域。	利用に関する情報は得られなかった。	-	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響を与えている他、船舶や取水施設に甚大な汚損被害を与えている。	④各県：北海道、千葉、東京、静岡県、愛知、京都、和歌山、高知、福岡、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、岩崎ほか(印刷中)	-	-	-	-			

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト改定案 <動物(軟体動物)>
【国内に自然分布域をもつ国外由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入)
① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。
② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。
③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。
④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

選定理由
Ⅰ. 生態系被害が大きいもの。
Ⅱ. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。
Ⅲ. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。
Ⅳ. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※ 掲載の順番は、分類の並びとし、掲載されている階級はBrusson et al. 2023, "Invertebrates 4th ed."に準拠し、掲載されていない階級は、裏行リストを参考に整理した。

2026.3.27時点

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名・流通名)	学名	選定理由	評価項目																原産地・分布	問題となっている地域	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		特に問題となる被害	進出・拡散																		
								生物	導入	競合	交雑	捕食 摂食	生態系改変	繁殖	気候		重要地域	人体	経済産業	利用	付着 混入														
総合対策外来種(定着)																																			
防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きなもの)																																			
1	国内に自然分布域をもつ国外由来の外来種	防除推進外来種	①④		自然分布域外のサキグロタマツメタ	<i>Euspira fortunei</i>	I, III				-	-	◎	-	-	○	-	-	◎	-	◎			東アジア原産。国内では伊勢湾、瀬戸内海、有明海原産。	東北～九州の太平洋岸。	干潟や泥底の浅海。	利用に関する情報は得られなかった。	-	外国産アサリの種苗放流に伴い、各地に侵入したと考えられ、侵入地の二枚貝に甚大な影響を与えている。本種が侵入した潮干狩り場では甚大なアサリの捕食被害が発生し、閉鎖された事例もある。	④各県:東京、静岡、岡山、長崎	大越・大越(編)(2011)、岩崎ほか(印刷中)	宮城県:サキグロタマツメタの駆除方法について https://www.pref.miyagi.jp/documents/17715/71874.pdf 【URL取得日:2025年11月28日】	宮城県:サキグロタマツメタの駆除方法について https://www.pref.miyagi.jp/documents/17715/71874.pdf 【URL取得日:2025年11月28日】	-	-
防除検討外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)																																			
2	国内に自然分布域をもつ国外由来の外来種	防除検討外来種			小笠原諸島のヌノメカワニナ	<i>Melanoides tuberculata</i>	I, II				◎	-	-	-	○	○	◎	-	-	-	-			東～南アジア～北アフリカの熱帯～亜熱帯原産。国内では沖縄原産。愛知、滋賀、和歌山、鹿児島本土、小笠原に外来分布。	小笠原。	淡水、汽水域、水路、水田。	利用に関する情報は得られなかった。	-	小笠原諸島の河川において、固有のオガサワラカワニナとの競合・入れ替わりが確認されている。	④各県:愛知、滋賀、和歌山、鹿児島、⑤地方公共団体	佐竹ほか(2006)、佐々木ほか(2009)、新行内・佐々木(2023)	-	-	-	-

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散														
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入													
12	分布拡大期～まん延期	防除被 對外 来種			マツノザイセンチュウ (松くい虫)	<i>Bursaphelenchus xylophilus</i>	I, III			-	-	◎	-	-	◎	○	-	◎	-	◎	北米原産。東アジア、ポルトガル、スペインに外来分布。	北海道を除く全都府県。	アカマツ、クロマツ、リュウキウマツ等のマツ林。	利用に関する情報は得られなかった。	-	マツノマダラカミキリに運ばれて、マツ類の樹体内に侵入することによりマツ類を枯死させる(松枯れ・松くい虫被害)。 輸入について植物防疫法上の規制あり。また、森林病害虫等防除法に基づき防除を実施。	③GISD、④各県：福島、茨城、群馬、千葉、長野、岐阜、静岡、滋賀、京都、鳥取、香川、高知、福岡、長崎、宮崎、沖縄	日本生態学会(編)(2002)、環境庁(1977)	林野庁研究指導課：森林病害虫等被害対策事業 https://www.rinya.maff.go.jp/j/rinsei/yosan/kesan/attach/pdf/2gaisan-8.pdf 【URL取得日：2025年11月28日】 静岡市：静岡市松くい虫被害対策自主事業計画 https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/5110/000927652.pdf 【URL取得日：2025年11月28日】 その他、複数の地方公共団体にて防除事業を実施している。	森林総研：マツ材線虫病にどう対処するかー防除対策の考え方と実践 https://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/chukiseika/documents/5th-chuukiseika11.pdf 【URL取得日：2025年11月28日】 森林総研：松くい虫被害ピンポイント防除マニュアル https://www.ffpri.affrc.go.jp/research/project/documents/matsukumushi-manual.pdf 【URL取得日：2025年11月28日】 その他に多数のマニュアルがある。	森林病害虫等防除法 (松の枯死の原因となる線虫病として) 植物防疫法(アフェレンコイデス科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-	

候補種の抽出

- ①特定外来生物。(下記②～⑥で抽出された種で未判定外来生物にあたるものはその旨を記した。)
- ②IUCNのワースト100 https://www.iucngisd.org/gisd/100_worst.php
及び日本の侵略的外来種ワースト100: 日本生態学会(2002)外来種ハンドブック. 地人書館.
- ③Global Invasive Species Database 掲載種を追記。
- ④都道府県の外来種リストや条例等に掲載されている種。なお、掲載検討にあたっては2024年5月時点の都道府県リストへの掲載状況を参考とした。
- ⑤環境省の地方環境事務所、都道府県、地方公共団体、検討委員への意向調査による候補種。
- ⑥その他: 過去のリスト作成時の候補種(※)や事務局等の情報収集により、近年問題を及ぼしている/及ぼす可能性が危惧される種。
※「外来種ハンドブック」日本生態学会編(2002)の外来種リスト等を元に、日本に定着している外来種をリスト化した上で追記を行い検討されたもの。

【主な参考文献等】

＜哺乳類＞

阿部永(監) (2008)日本の哺乳類 改訂2版. 東海大学出版, 神奈川. 206pp.

浅田正彦・落合啓二・長谷川雅美 (2000) 房総半島及び伊豆大島におけるキョンの帰化・定着状況. 千葉中央博自然誌研究報告, 6(1): 87-94.

浅川満彦 (2005) 外来種介在により陸上脊椎動物と蠕虫との関係はどうなったのか? : 外来種問題を扱うための宿主-寄生体関係の類型化. 保全生態学研究, 10(2): 173-183.

浅野玄 (2025) 海を渡ったアライグマ 人気者がたどった道. 東京大学出版会. pp170.

Veron, G., M. L. Patou, G. Pothet, D. Simberloff & A. P. Jennings (2007) Systematic status and biogeography of the Javan and small Indian mongooses (Herpestidae, Carnivora). Zoologica Scripta, 36(1):1-10.

Bomford, M. (2003) Risk Assessment for the Import and Keeping of Exotic Vertebrates in Australia. Bureau of Rural Sciences, Canberra.

Brown, K. P. & Sherley, G. H. (2002) The eradication of possums from Kapiti Island, New Zealand. In Turning the tide: the eradication of invasive species: 46-52.

Veitch, C.R. & Clout, M.N.(eds). IUCN SSC Invasive Species Specialist Group. IUCN. Gland. Switzerland and Cambridge. UK.

江口 勇也・佐久間 幹大・遠藤 優・坂西 梓里・鈴木 良実・千々岩 哲・寫本 樹・片平 浩孝(2023)浜松市に定着した*Callosciurus* 属リス類の遺伝的集団構造:ミトコンドリアDNA D-loop領域に基づく追跡調査とフィンレイソンリス由来ハプロタイプの優占.哺乳類科学, 63(1): 53-62.

Fisher, P. & Airey, A.T. (2009) Factors affecting 1080 pellet bait acceptance by house mice (*Mus musculus*). DOC Research & Development Series, 306: 22 p.

Francis, M. C. (2008) A guide to the mammals of southeast Asia. Princeton University Press. : 31-334.

Gosling, L. M. & Baker, S. J. (1987) Planning and monitoring an attempt to eradicate coypus from Britain. Symposia of The Zoological Society of London, 58: 99-113.

Gurnell, J., S. P. Rushton, P. W. W. Lurz, A. W. Sainsbury, P. Nettleton, M. D. F. Shirley, C. Bruemmer & N. Geddes (2006) Squirrel poxvirus: Landscape scale strategies for managing disease threat. Biological Conservation, 131(2): 287-295.

長谷川雅美 (2017) 伊豆諸島におけるイタチ導入: 歴史と事実と教訓. Mikurensis, 6: 56-61.

橋本琢磨 (2011) クマネズミ ー 島嶼からの根絶へー. 日本の外来哺乳類(山田文雄・池田透・小倉剛 編). p351-378. 東京大学出版会, 東京.

橋本琢磨 (2025) 奄美大島から特定外来生物のフイリマングースを根絶ー世界最大規模の根絶劇はどのように成し遂げられたのか? 科学, 95(2): 103-106.

堀繁久 (2004) 奥尻島の歩行性甲虫相とタヌキによる捕食の影響について. 北海道開拓記念館研究紀要, 32:1-20.

Jackson, D. B. & Green, R. E. (2000) The importance of the introduced hedgehog (*Erinaceus europaeus*) as a predator of the eggs of waders (Charadrii) on machair in South Uist, Scotland. Biological Conservation, 93(3): 333-348.

川本芳・萩原光・相澤敬吾 (2004) 房総半島におけるニホンザルとアカゲザルの交雑. 霊長類研究, 20(2): 89-95.

岸本年郎 (2010) 小笠原における昆虫の保全. 日本の昆虫の衰亡と保護. 北隆館, 東京. pp.279-294.

久米学・小野田幸生・根岸淳二郎・佐川志朗・永山滋也・萱場祐一 (2012) 木曽川氾濫原水域における特定外来生物ヌートリア(*Myocastor coypus*) によるイシガイ科二枚貝類の食害. 陸水生物学報, 27: 41-47.

藏本卓哉・池田瞳・鳥居春巳・押田龍夫 (2009) 外来台湾リス類 *Callosciurus* の種同定に関する研究: フィンレイソンリス *C. finlaysonii* は静岡県に生息するのか? 日本哺乳類学会2009年度大会講演要旨.

増田隆一・井上友・江村正一・高田靖司・金子弥生 (2011) ハクビシンの多様性科学. 哺乳類科学, 51: 188-191.

増田隆一 (2011) 日本のハクビシンは台湾からやってきた〜遺伝子から探る起源と多様性. どうぶつと動物園. 63: 26-29.

Matsumoto, Y., Ju, Y., Yamashiro, T. & Yamashiro, A. (2015) Evidence of pre-introduction hybridization of Formosan sika deer (*Cervus nippon taiouanus*) on Okinoshima, Wakayama Prefecture, Japan, based on mitochondrial and nuclear DNA sequences. Conservation Genetics, 16: 497-502.

McClelland, P. J. (2002) Preparation for the eradication of Norway rats (*Rattus norvegicus*) from Campbell Island, New Zealand. In Turning the tide: the eradication of invasive species: 406 - 414. IUCN SSC Invasive Species Specialist Group. IUCN. Gland. Switzerland and Cambridge. UK.

Medina, M. M. & Martin, A., 2009. A new invasive species in the Canary Islands: a naturalized population of ferrets *Mustela furo* in La Palma Biosphere Reserve. Fauna & Flora International, Oryx, 44(1): 41-44.

南佳典・積田有斐・下山彩希・吉川朋子 (2016) 北海道東部釧路川源流域の河畔林内に生息するアメリカミンク *Neovison vison* が及ぼす小型げっ歯類への影響. 自然環境科学研究, 29: 1-10.

宮崎昭・丹治藤治 (2016) シカの飼い方・活かし方. 日本鹿研究 / 全日本鹿協会 編 (7): 51-53.

森生枝 (2002) ヌートリア野生化個体によるドブガイの大量捕食. 岡山県自然保護センター研究報告, (10):63-67.

永田純子・亘悠哉・高木俊人・立澤史郎・兼子伸吾. (2023) 喜界島に定着した国内外来ニホンジカの起源推定. 哺乳類科学, 63: 109-117.

中園和憲・炭山大輔・三谷奈保 (2020) トカラ列島口之島における外来テン(*Martes melampus*)の分布と在来種の捕食. 環境情報科学論文集, 34: 168-173.

日本生態学会(編)(2002)外来種ハンドブック. 地人書館, 東京. 390pp.

Nogueira-Filho, S. L., S. S. Nogueira & J. M. Fragoso (2009) Ecological impacts of feral pigs in the Hawaiian Islands. Biodiversity and Conservation, 18(14): 3677-3683.

白井啓・川本芳 (2011) 台湾ザルとアカゲザル 交雑回避のための根絶計画. 日本の外来哺乳類(山田文雄・池田透・小倉剛 編)p169-202. 東京大学出版会, 東京.

自然環境研究センター(編著)(2008)決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京. 480pp.

田村典子 (2017) 狭山丘陵に生息する特定外来生物キタリスの早期対策の試み. 哺乳類科学, 57(2): 367-377.

田村典子・宮本麻子 (2005) 神奈川県における台湾リスの分布拡大の現状と拡大防止対策について. 神奈川自然史資料, 26:57-60.

Taylor, L.L. & Lehman, S.M. (1997) Predation on an evening bat (*Nycticeius* sp.) by squirrel monkeys (*Saimiri sciureus*) in south Florida. Florida Scientist, 60(2): 112-117 .

鉄谷龍之・西山忠良・高野真矢・石井信夫・安藤元一 (2018) 静岡県伊東市における特定外来生物アムールハリネズミ *Erinaceus amurensis* の食性. 森林野生動物研究会誌, 43: 19-25.

常田邦彦・滝口正明 (2011) ノヤギ ー 日本の状況と島嶼における防除の実際. 日本の外来哺乳類(山田文雄・池田透・小倉剛 編)p317-350. 東京大学出版会, 東京.

Veitch, C. R. (2002) Eradication of Pacific rats (*Rattus exulans*) from Fanal Island, New Zealand. In Turning the tide: the eradication of invasive species: 381-388. Veitch, C.R. & Clout, M.N.(eds). IUCN SSC Invasive Species Specialist Group. IUCN. Gland. Switzerland and Cambridge. UK.

亘悠哉 (2011) 衰退から回復へ: 日本の爬虫類・両生類を救うマングース対策. 爬虫両棲類学会報, 2011(2):137-147.

Watari, Y., Matsuyama, Y., Tokuyoshi, M., Nose, T., Hayama, H., Kawakami, K. & Oka, N. (2025) Unexpectedly Early and Drastic Dietary Shift of Feral Cats to Seabirds: Evidence from Fecal Samples of Cats Captured during the Transition to the Breeding Season of the Streaked Shearwater on Mikura-Shima Island, Japan. Mammal Study, 50(3): 317-327.

Wilson, D. E., R. A. Mittermeier, S. Ruff, A. Martinez-Vilalta & J. D. Hoyo (eds.) (2009) Handbook of the Mammals of the World. Vol.1/ Carnivores. Lynx Edicions, Barcelona. 727pp.

山田文雄 (2017) ウサギ学 隠れることと逃げることの生物学. 東京大学出版会, 東京. pp275.

山田文雄・小倉剛・池田透(編)(2011)日本の外来哺乳類:管理戦略と生態系保全. 東京大学出版会, 東京. 439pp.

安田雅俊 (2017) 九州に定着した特定外来生物クリハラリスの由来と防除. 森林野生動物研究会誌, 4: 49-54.

増田隆一 (2024) ハクビシンの不思議 どこから来て、どこに行くのか. 東京大学出版会, 東京. 123pp.

安田雅俊, 田村典子, 森澤猛, 鳥居春己 (2024) クリハラリス防除マニュアル. 哺乳類科学, 64(1): 89-94.

【分類の並びを準拠した文献】

Wilson, Don E., DeeAnn M. Reeder (ed.) (2005) Mammal Species of the World (Third Edition). A Taxonomic and Geographic Reference. Johns Hopkins University Press. pp.2142.

＜鳥類＞

愛知県環境部自然環境課 (2012) STOP ! 移入種 守ろう! あいちの生態系 ～愛知県移入種対策ハンドブック～. 225pp.

姉崎悟 (2015) 大東諸島北大東島で 2013 年 7 月に確認した鳥類. 山階鳥類学雑誌, 46(2):127-140.

Lever, C. (1987) Naturalized Birds of the World. Longman Scientific & Technical. 615pp.

del Hoyo, J., Elliott, A., & Christie, D. A. (Eds.) (2005) Handbook of the Birds of the World - Volume 10: Cuckoo-shrikes to Thrushes. Lynx Edicions. 812pp.

del Hoyo, J., Elliott, A., & Christie, D. A. (Eds.) (2009) Handbook of the Birds of the World - Volume 14: Bush-shrikes to Old World Sparrows. Lynx Edicions. 893pp.

江口和洋・天野一葉 (2008) ソウシチョウの間接効果によるウグイスの繁殖成功の低下. 日本鳥学会誌, 57(1): 3-10.

Grarock, K., Tidemann, C. R., Wood, J., & Lindenmayer, D. B. (2012) Is it benign or is it a pariah? Empirical evidence for the impact of the Common Myna (*Acridotheres tristis*) on Australian birds. PloS one, 7(7), e40622.

濱田哲暁・佐藤重穂・岡井義明 (2006) 外来種ヒゲガビチョウ *Garrulax cineraceus* の四国における記録と繁殖. 日本鳥学会誌, 55:105-109.

葉山久世・加藤ゆき・篠田授樹・松本令以・久米宗男・石井隆・池内俊雄 (2020) 特定外来生物カナダガンの生態系からの除去の活動記録. BINOS= 日本野鳥の会神奈川支部研究年報, 27: 105-122.

日高敏隆(監)・樋口広芳・森岡弘之・山岸哲 (編) (1997) 日本動物大百科 第4巻 鳥類Ⅱ. 平凡社, 東京. 180pp.

鹿児島県ウェブサイト 鹿児島県侵略的外来種カルテ(キジ) (2017) https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/documents/58074_20170401121841-1.pdf [2026年1月閲覧]

環境省 (2018) 野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル. 環境省, 東京.

加藤ゆき (2010) カナダガン捕獲大作戦. 自然科学のとびら, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 16(2):10–11.

川上和人・叶内拓哉 (2012) 外来鳥ハンドブック. 株式会社 文一総合出版, 東京. 80pp.

金城常雄 (1993) 沖縄本島南部に侵入したシロガシラ *Pycnonotus sinensis* の分布域の拡大と生態的特性. 九州病害虫研究会報, 39:119–123.

岸本寿男 (2001) オウム病 (psittacosis). IDWR, 3(45):12–14.

国立環境研究所ウェブサイト 侵入生物データベース コウライキジ. <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/20030.html> [2026年1月閲覧]

McCarthy, E. M. (2006) Handbook of avian hybrids of the world. Oxford University Press, New York. 190pp.

中村一恵・室伏友三・足立陸子・初瀬川孝夫 (1993) 神奈川県におけるカオグログビチョウの野生化について. 神奈川自然誌資料, (14): 27–31.

日本生態学会 (編) (2002) 外来種ハンドブック. 地人書館, 東京. 390pp.

沖縄県 (2020) 沖縄県外来種対策行動計画に基づくインドクジャク防除計画, 沖縄. 9pp.

沖縄県 (2020) 沖縄県外来種対策行動計画に基づくコウライキジ防除計画, 沖縄. 13pp.

Peacock, D. S., van Rensburg, B. J., & Robertson, M. P. (2007) The distribution and spread of the invasive alien Common Myna, *Acridotheres tristis* L. (Aves: Sturnidae), in southern Africa. South African Journal of Science, 103(11–12): 465–473.

佐藤重穂・濱田哲暁・谷岡仁 (2018) 四国西部におけるサンジャクの野生化. Bird Research, 14: S1–S5.

自然環境研究センター (編著) (2019) 決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京. 480pp.

Sol, D., Santos, D. M., García, J., & Cuadrado, M. (1998) Competition for food in urban pigeons: the cost of being juvenile. Condor, 100: 298–304.

谷岡仁 (2020) 四国におけるハッカチョウ *Acridotheres cristatellus* の分布 (スズメ目ムクドリ科). 四国自然史科学研究, 13: 34–41.

田中聡・嵩原健二 (2003) 先島諸島における野生化したインドクジャクの分布と現状について. 沖縄県立博物館紀要, 29:19–24.

【分類の並びを準拠した文献】

日本鳥学会 (2024) 日本鳥類目録改訂第8版. 日本鳥学会, 東京. 471pp.

財団法人山階鳥類研究所 (1979) ドバト害防除に関する基礎的研究.

※ 学名は「日本鳥類目録 改訂第8版 (2024)」に準拠する。一部掲載の無い家禽については「外来鳥ハンドブック (2012)」に準拠した。

＜爬虫類＞

阿部慎太郎 (2009) 沖縄の外来爬虫・両生類対策の現状. しまてい, 50: 48–53.

有馬進・鈴木章弘・鄭紹輝・奥蘭稔・西村巖 (2008a) ミシシッピーアカミガメのハス食害調査. Coastal Bioenvironment, 8: 133–143.

有馬進・鈴木章弘・鄭紹輝・田中明・奥蘭稔・西村巖 (2008b) ミシシッピーアカミガメの食害調査と駆除. Coastal Bioenvironment, 13:845–856.

有馬進・鈴木章弘・鄭紹輝・奥蘭稔・椿光之助 (2009) ミシシッピーアカミガメの食害調査(Ⅱ)～ハス・スイレンの消滅事例に見る移入動物と食害発生の関係～. Coastal Bioenvironment, 14: 75–79.

有馬進・鄭紹輝・鈴木章弘・奥蘭稔・川崎重治・井上英幸・永原光彦 (2010) ミシシッピーアカミガメから隔離したハス栽培試験(中間報告). Coastal Bioenvironment, 15: 61–66.

Chiba, M., Hirano, T., Yamazaki, D., Ye, B., Ito, S., Kagawa, O., Endo, K., Nishida, S. & Chiba, S. (2022) The mutual history of Schlegel’s Japanese gecko (Reptilia: Squamata: Gekkonidae) and humans inscribed in genes and ancient literature. PNAS nexus, 1(5), pgac245.

Chiba, M., Chiba, S. (2024) Hidden invasiveness of non-native Schlegel’s Japanese gecko (Reptilia: Squamata: Gekkonidae) and three-way competition among natives and non-natives in Japan. Molecular Ecology, e17420.

槐真史・岩下歩叶・川崎守・鉄谷龍之・加藤英明. (2019). 神奈川県厚木市におけるスウィンホーキノボリトカゲ *Japalura swinhonis* の生息状況. 神奈川自然誌資料, 2019(40): 85–87.

疋田努・鈴木大 (2010) 江戸本草書から推定される日本産クサガメの移入. 爬虫両棲類学会報, 33: 569–576.

Huang, S. C., Norval, G. & Tso, I. M. (2008a) Predation by an exotic lizard, *Anolis sagrei*, alters the ant community structure in betelnut palm plantations in southern Taiwan. Ecological Entomology, 33(5): 569–576.

Huang, S. C., Norval, G., Wei, C. S. & Tso, I. M. (2008b) Effects of the brown anole invasion and betelnut palm planting on arthropod diversity in southern Taiwan. Zoological Science, 25(11): 1121–1129.

Hoskin, C. J. (2011) The invasion and potential impact of the Asian House Gecko (*Hemidactylus frenatus*) in Australia. Austral Ecology, 36(3): 240–251.

ISSG-GISD (Invasive Species Specialist Group – Global Invasive Species Database) <https://www.iucngisd.org/gisd/> [2026年1月閲覧]

Jono, T., Kawamura, T. & Koda, R. (2013) Invasion of Yakushima Island, Japan, by the subtropical lizard *Japalura polygonata polygonata* (Squamata:Agamidae). Current Herpetology, 32(2): 142–149.

片岡友美 (2017) 武蔵野台地におけるミシシッピーニオイガメ *Sternotherus odoratus* の採取記録. 爬虫両棲類学会報2017(1): 94. (講演要旨)

加藤英明・細田昭博・大庭俊司・衛藤英男 (2010) 静岡県で記録されたスインホーキノボリトカゲ *Japalura swinhonis* Gunther (Squamata,Agamidae). 日本生物地理学会会報, 29:4–5.

加藤英明・衛藤英男 (2012) 静岡県狩野川水系におけるカミツキガメ *Chelydra serpentina* (Testudines, Chelidridae) の定着. 東海自然誌(しえう岡山県自然史研究報告), 2012(5): 41–44.

加藤英明・大庭峻輔・大庭俊司・衛藤英男・多比良嘉晃 (2013) 静岡県磐田市におけるスインホーキノボリトカゲ *Japalura swinhonis* Gunther (Squamata, Agamidae) の繁殖と食性. 東海自然誌(静岡県自然史研究報告), 2013(6): 35–38.

小林頼太・長谷川雅美 (2005) 千葉県印旛沼流域における外来種ミナミシガメの定着について. 爬虫両棲類学会報, 2005(2): 150–154.

小林頼太 (2007) 日本におけるカミツキガメおよびワニガメの定着危険性—新聞記事を用いた外来ペットの逸出モニタリング—. 爬虫両棲類学会報, 2007(2): 101–110.

Kraus, F. (2009) Alien Reptiles and Amphibians: a Scientific Compendium and Analysis. Springer, Dordrecht. 2007: 101–110.

Kurita, T. (2013) Current status of the introduced common house gecko, *Hemidactylus frenatus* (Squamata: Gekkonidae), on Amamioshima Island of the Ryukyu Archipelago, Japan. Current Herpetology, 32 (2): 50–60.

栗山武夫・岡本卓・長谷川雅美・疋田努・五箇公一 (2009) 伊豆諸島八丈島へのニホントカゲの侵入. 爬虫両棲類学会報, 2009(2): 124–127.

黒木俊郎 (2005) 爬虫類におけるクリプトスポリジウム感染症. クリーパー, 27: 105–109.

Latella, I. M., S. Poe, and J. T. Giermakowski (2011) Traits associated with naturalization in Anolis lizards: comparison of morphological, distributional, anthropogenic, and phylogenetic models. Biological Invasions, 12:53–58.

Lever, C. (2003) Naturalized reptiles and amphibians of the world. Oxford University Press, New York. 11: 47–54.

前之園唯史・戸田守 (2007) 琉球列島における両生類および陸生爬虫類の分布. AKAMATA, 14: 75–80.

Matsuda, Y., Kaburagi, S., Kamezaki, N., Ohta, H., Takahashi, H., Imazu, T., Kagayama, S. & Kawamura, K. (2024) Density-dependent unidirectional hybridization between the Japanese pond turtle, *Mauremys japonica*, and the exotic Reeves’ pond turtle, *Mauremys reevesii*, in Japan, inferred from molecular and morphological analyses.,203(3): zlae070

向井貴彦・田上正隆 (2017) 岐阜県羽島市で捕獲されたスウィンホーキノボリトカゲ. 日本生物地理学会会報= Bulletin of the Biogeographical Society of Japan, 71, 249–251.

日本爬虫両棲類学会 (2009) 南九州で発見されたオキナワキノボリトカゲ外来個体群の対策に関する要望書. https://herpetology.jp/statements/2009japalura_j.php [2026年1月閲覧]

日本生態学会 (編) (2002) 外来種ハンドブック. 地人書館, 東京. 390pp.

小鹿野・小林. 2022. 日本各地で生じるニホンイシガメとクサガメとの交雑に関する文献データを用いた解析, 2022(2):176–187.

Okamoto, T., Kuriyama, T. & Goka, K. (2013) An impact assessment of the alien lizard *Plestiodon japonicus* (Scincidae, Reptilia) on a threatened island population of the native lizard *P. latiscutatus* at an early phase of the biological invasion. Biological Invasions, 2010:41–46.

大河内勇 (2013) 小笠原諸島兄島にグリーンアノールが侵入. AIRIES News, 10: 237–249.

Ota, H. (1999) Introduced Amphibians and Reptiles of the Ryukyu Archipelago, Japan. Pp. 439–452. In: G. Rodda, Y. Sawai, D. Chiszar, and H. Tanaka (eds.), Problem Snake Management: The Habu and the Brown Treesnake. Cornell University Press, Ithaca, New York.

Ota, H., Hoshino, I. & Sueyoshi, T. (2006) Colonization by the Subtropical Lizard, *Japalura polygonata polygonata* (Squamata: Agamidae), in Southeastern Kyushu, Japan. Current Herpetology, 25(1): 29–34.

Ota, H., Toda, M., Masunaga, G., Kikukawa, A. & M. Toda (2004) Feral population of amphibians and reptiles in the Ryukyu Archipelago, Japan. Global Environmental Research, 8(2): 133–143.

太田英利・那須哲夫・末吉豊文・星野一三雄・森田哲夫・岩本俊孝 (2013) 鹿児島県本土部における国内外来種オキナワキノボリトカゲ *Japalura polygonata polygonata* (Hallowell, 1861) (爬虫綱, アガマ科) の生息状況. Nature of Kagoshima, 38: 1–8.

沢田英司 (2012) レンコン田のアカミガメによる被害と対策. p.9–13. In: 片岡友美・若澤英明・小河原孝恵 (編) 第14回日本カメ会議&ニホンイシガメシンポジウム講演要旨集, 2005: 116–119.

Shimizu, Y. (2013) Green anoles have invaded the protected area of the World Natural Heritage of the Ogasawara (Bonin) Islands. DIWPA News Letter, 32: 50–60.

自然環境研究センター (編著) (2019) 決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京. 480pp.

Suzuki, D., Ota, H., Oh, H-S., & Hikida, T. (2011) Origin of Japanese populations of Reeves' pond turtle, *Mauremys reevesii* (Reptilia: Geoemydidae), as inferred by a molecular approach. Chelonian Conservation and Biology, 6: 35–38.

Suzuki, D., Yabe, T. & Hikida, T. (2013) Hybridization between *Mauremys japonica* and *M. reevesii* inferred by nuclear and mitochondrial DNA analyses. Journal of Herpetology, 17: 1013–1020.

高橋洋生(2005)ホオグロヤモリの人為的洋上分散の一例. 爬虫両棲類学会報, 17: 34–48.

寺田考紀(2011)沖縄島に定着した台湾ハブ・サキシマハブ・タイワンスジオの生息状況と対策. 爬虫両棲類学会報, 38: 1–8.

Terrell, S. P., Funk, E. W. & Funk, R. S. (2003) Proliferative enteritis in leopard geckos (*Eublepharis macularius*) associated with Cryptosporidium sp. infection. Journal of Zoo and Wildlife Medicine, 34:69–75.

Toda, M., Takahashi, H., Nakagawa, N. & Sukigara, N. (2010) Ecology and control of the green anole (*Anolis carolinensis*), an invasive alien species on the Ogasawara Islands. p.145–152. In: K. Kawakami and I. Okochi (eds.) Restoring the Oceanic Islands Ecosystem. Springer, New York.

Toda, M., Okada, S., Hikida T.. & Ota, H. (2006) Extensive natural hybridization between two geckos, Gekko tawaensis and G. japonicus (Reptilia:Squamata), throughout their broad sympatric area. Biochem. Genet., 44(1–2): 1–17

辻井聖武・矢部隆・日野輝明(2012)千葉県印旛沼水系における外来種カミツキガメ(*Chelydra serpentina*)の食性. 名城大学農学部学術報告, 48: 13–17.

USGS–NAS(United States Geological Survey – Nonindigenous Aquatic Species) <http://nas.er.usgs.gov/> [2026年1月閲覧]

Yamashiro, S., Toda, M. & Ota, H. (2000) Clonal composition of the parthenogenetic gecko, *Lepidodactylus lugubris*, at the northernmost extremity of its range. Zoological Science, 2009: 124–127.

安川雄一郎(2005)今後日本国内に定着するおそれの高い淡水性カメ類について. 爬虫両棲類学会報, 15: 2029–2037.

安川雄一郎(2012)侵略的外来種としてのミシシippアカミガメ～各国における現状と対策～. p.17–26. In: 片岡友美・若澤英明・小河原孝恵(編)第14回日本カメ会議&ニホンインガメシンポジウム講演要旨集. 48: 13–17.

ホオグロヤモリ(活ヤモリとして)販売例E・S・P <https://megalodon.jp/2025-0828-1005-26/https://www.espweb.jp:443/food/livingfood/> [2026年1月閲覧]

ホオグロヤモリ(エサ用ヤモリとして)販売例CANDLE HP https://megalodon.jp/2025-0828-1405-34/r-candle.jp/products/detail.php?product_id=25 [2026年1月閲覧]

【分類の並びを準拠した文献】

カメ目 : Turtle Taxonomy Working Group [van Dijk, P.P., Iverson, J.B., Rhodin, A.G.J., Shaffer, H.B., and Bour, R.]. 2014. Turtles of the world, 7th edition: annotated checklist of taxonomy, synonymy, distribution with maps, and conservation status. In: Rhodin, A.G.J., Pritchard, P.C.H., van Dijk, P.P., Saumure, R.A., Buhlmann, K.A., Iverson, J.B., and Mittermeier, R.A. (Eds.). Conservation Biology of Freshwater Turtles and Tortoises: A Compilation Project of the IUCN/SSC Tortoise and Freshwater Turtle Specialist Group. Chelonian Research Monographs 5(7):000.329–479, doi:10.3854/crm.5.000.checklist.v7.2014.

有鱗目 : Uetz, P. (editor), The Reptile Database, <http://www.reptile-database.org>, accessed Feb 23, 2015.

Pough, F. H., Andrews, R. M., Crump, M. L., Savitzky, A. H., Wells, K. D., & Brandley, M. C. (2016) Herpetology, Forth Edition. 591pp Sinauer Associates, Inc. Sunderland, MA, USA.

科レベルの配列はPoguh et al.,2016に倣い、それ以下は学名アルファベット順。

<両生類>

Atoobe, T., Osada, Y., Takeda, H., Kuroe, M., & Miyashita, T. (2014) Habitat connectivity and resident shared predators determine the impact of invasive bullfrogs on native frogs in farm ponds. Proceedings of the Royal Society B, 2007:101–110.

荒尾一樹・北野忠(2006)静岡県浜松市で確認されたアフリカツメガエル. 爬虫両棲類学会報, 2006: 17–19.

Beard, K. H., Price, E. A. & Pitt, W. C. (2009) Biology and Impacts of Pacific Island Invasive Species. 5. Eleutherodactylus. coqui, the Coqui Frog (Anura: Leptodactylidae). Pacific Science, 11:47–54.

土永知子・和歌山県立田辺高等学校中学校生物部. 2019: 和歌山県田辺市鳥ノ巣半島のアフリカツメガエル. 南紀生物, 61(2): 81–90.

土井敏夫(2012)ヌマガエル幼体によるドジョウ稚魚への捕食行動. 爬虫両棲類学会報 2012(1):17–19.

福山欣司・後藤康人・植田健仁・戸金大(2010)東京都でのヌマガエルの生息の確認. 爬虫両棲類学報, 14: 75–80.

後藤康人・小野高志(2021)八丈島のアズマヒキガエル駆除記録(2012年1月–2021年3月). 爬虫両棲類学会報 2021(2): 144–150.

八谷和彦・水野寛(2024)北海道深川市におけるアズマヒキガエル駆除活動と大量発生収束. 爬虫両棲類学会報 2024(1): 19–27.

Hirai, T. (2004) Diet composition of introduced bullfrog, *Rana catesbeiana*, in the Mizorogaike Pond of Kyoto, Japan. Ecological Research, 15: 61–66.

長谷川雅美・小賀野大(1998)講演要旨 房総半島で発見されたヌマガエル・その分布範囲と生息状況. 爬虫両棲類学雑誌, 17(4): 193–194.

林光武・赤羽記年・石塚利一・木村有紀(2000)栃木県におけるヌマガエル *Rana limnocharis* の分布確認記録. 栃木県立博物館研究紀要 – 自然 –, 65: 9–12.

ISSG–GISD(Invasive Species Specialist Group – Global Invasive Species Database) <https://www.iucngisd.org/gisd/> [2026年1月閲覧]

IUCN–red list <http://www.iucnredlist.org/> [2026年1月閲覧]

Kidera, N. & Ota, H. (2008a) Can exotic toad toxins kill the native Ryukyu snakes? : Experimental and field observations on the effects of *Bufo marinus* toxins on *Dinodon rufonotatum* wall. Current Herpetology, 27(1): 23–27.

Kidera, N., Tandavanitj, N., Oh, D., Nakanishi, N., Satoh, A., Denda, T., Izawa, M. & Ota, H. (2008b) 2008. Dietary habits of the introduced cane toad *Bufo marinus* (Amphibia: Bufonidae) on Ishigakijima, Southern Ryukyus, Japan. Pacific Science, 66: 255–270.

小林頼太・長谷川雅美(2005)関東平野におけるアフリカツメガエルの確認記録と定着可能性. 爬虫両棲類学報, 2005(2): 169–173.

Kraus, F. (2009) Alien Reptiles and Amphibians: a Scientific Compendium and Analysis. Springer, Dordrecht, 63: 297–316.

Lee, K., Chen, T., Shang, G., Glulow, S., Yang, Y. & Lin, S. (2019) A check list and population trends of invasive amphibians and reptiles in Taiwan. Zookeys 829: 85–130.

Lever, C. (2003) Naturalized reptiles and amphibians of the world. Oxford University Press, New York. http://www.feral.org.au/wp-content/uploads/2010/11/Cane_toad_DAFWA_220410.pdf

前之園唯史・戸田守(2007)琉球列島における両生類および陸生爬虫類の分布. AKAMATA, 62: 423–430.

Massam, M., Kirkpatrick, W. & Page, A. (2010). Assessment and prioritisation of risk for forty introduced animal species. Invasive Animals Cooperative Research Centre, Canberra.

松井正文(2005)DNA解析による外来種チュウゴクオオサンショウウオの生息確認. 河川環境管理財団. 27: 23–27.

松井正文(2009)外来生物クライシス. 小学館. http://www.feral.org.au/wp-content/uploads/2010/10/Xenopus_laevis_VPCendorsed_270410.pdf

三谷奈保・戸田光彦・荻野伊万里・玖須博一・野田一男・松尾公則(2009)対馬におけるヌマガエルの分布拡大および在来カエル類との関係. 長崎県生物学会誌, 66: 17–22.

光岡佳納子・戸田光彦・高橋洋生・谷村就盛・小賀野大・小林頼(2011)講演要旨 利根川下流域における外来生物アフリカツメガエルの生息状況. 爬虫両棲類学報, 2011(1): 50–51.

森口一・林光武・木村有紀・富岡克寛・小林敏男(2004)群馬県堺町と新田町におけるヌマガエルの分布確認. 爬虫両棲類学報, 19: 375–380.

日本爬虫両棲類学会編(2021)新 日本両生爬虫類図鑑. サンライズ出版.

日本生態学会(編)(2002)外来種ハンドブック. 地人書館, 東京. 390pp.

小賀野大・福祉融・木村孝康(2005)印旛沼水系に侵入したヌマガエルの分布範囲と生息状況. 千葉生物誌, 55(1): 1–8.

Olson, C. A., Beard, K. H. & Pitt, W. C. (2012) Biology and Impacts of Pacific Island Invasive Species. 8. Eleutherodactylus. planirostris, the Greenhouse Frog (Anura: Eleutherodactylidae). Pacific Science, 66(3):255–270.

Ota, H., Toda, M., Masunaga, G., Kikukawa, A. & Toda, M. (2004) Feral population of amphibians and reptiles in the Ryukyu Archipelago, Japan. Global Environmental Research, 17:193–194.

自然環境研究センター(編著)(2019)決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京. 480pp.

高倉耕一・土田華鈴・松井正文・富永篤・吉川夏彦・江頭幸士郎・福谷和美・福山伊吹・山本和宏・松原康平・大沼弘一・原壮大朗・西川完途(2025)賀茂川におけるオオサンショウウオ類の個体群サイズ推定. 保全生態学研究, 30 (2) : 139–148.

田場美沙基・下地直子・山里将平・白幡大樹・富永篤(2013)鹿児島県と論島へのシロアゴガエルの侵入と定着. 爬虫両棲類学報, 2013(2):96–97.

上村亮・皆藤琢磨・小野宏治・富永篤(2022)ホンコンシロアゴガエル *Polypedates megacephalus* の沖縄県への侵入事例. AKAMATA 30: 36–41.

宇井大晃・和歌山県立田辺高等学校中学校生物部(2025)和歌山県田辺市鳥ノ巣半島におけるアフリカツメガエルの駆除活動. 南紀生物. 67(1): 84–91.

USGS–NAS(United States Geological Survey – Nonindigenous Aquatic Species) <http://nas.er.usgs.gov/> [2026年1月閲覧]

_(2024)第10回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)

【分類の並びを準拠した文献】

Frost, D.R., T. Grant, J. Faivovich, R. Bain, A. Haas, C. Haddad, R. de Sá, A. Channing, M. Wilkinson, S. Donnellan, C. J. Raxworthy, B. Blotto, P. Moler, R. Drewes, R. Nussbaum, J. D. Lynch, D. Green, & W. C. Wheeler. 2006. The amphibian tree of life. Bulletin of the American Museum of Natural History 297: 1–370.

<魚類>

Allen, G. R., Midgley, S. H. & Allen, M. (2002) Field guide to the freshwater fishes of Australia. Western Australian Museum, Perth. 410pp.

Boschung, H. T. & Mayden, R. L. (2004) Fishes of Alabama Smithsonian Institution Press Washington. 736pp.

Centre of Agriculture and Biosciences International. Invasive Species Compendium. <https://www.cabidigitallibrary.org/product/QI> (CABI) [2026年1月閲覧]

Doi, T., Aoyama, S. & Kinoshita, I. (2004) Ontogeny of the mandarin fish *Siniperca chuatsi* (Perciformes: Sinipercidae) reared in aquarium. *Ichthyological Research*, 51:337–342.

Etnier, D. A. & W.C. starnes (1993) The fishes of Tennessee. The University of Tennessee Press. Knoxville. 696pp.

FishBase. <https://www.fishbase.se/search.php>

Francis, R. A. eds. (2012) A Handbook of Global Freshwater Invasive Species. Earthscan. New York. 484pp.

藤岡康弘 (2013) 琵琶湖固有 (垂) 種ホンモロコおよびニゴロブナ・ゲンゴロウブナ激減の現状と回復への課題. 魚類学雑誌, 60: 57–63.

藤田朝彦 (2025) 石川県で生息が確認された未判定外来生物 *Lepomis gibbosus* パンプキンシードサンフィッシュ (新称). *Ichthy* 57: 44–47.

Global Invasive Species Database. <https://www.iucngisd.org/gisd/>

Goldstein, R.J., R.W. Harper, and R. Edwards (2000) American aquarium fishes. Texas A&M Univ. Press. 448pp.

萩原富司 (2007) 外来種の防除: 初期コントロールを目指してー霞ヶ浦におけるオオタナゴに関する調査ー. 地球・人間環境フォーラム2006年度研究報告資料. <http://www.gef.or.jp/activity/ecosystem/tanago/ootanago2007.pdf>

萩原富司 (2011) 霞ヶ浦における国外外来種オオタナゴ *Acheilognathus macropterus* の繁殖生態と生活史. 魚類学雑誌58(1): 41–48.

北海道ブルーリスト 北海道外来種データベース. <http://bluelist.pref.hokkaido.lg.jp/>

細谷和海 (編著) (2019) 山溪ハンディ図鑑15 増補改訂 日本の淡水魚. 山と溪谷社. 560pp.

古橋龍星・中村潤平・是枝伶旺・米沢俊彦・本村浩之 (2020) 鹿児島県北西部の川内川水系における定着が確認された国内外来魚2種 (ハスとギギ) の標本に基づく記録. *Nature of Kagoshima* 46: 259–265

井原高志・乾隆帝・大畑剛史・鬼倉徳雄 (2011) ダム湖流入河川における国内外来魚ハス *Opsariichthys uncirostris uncirostris* の産卵環境. 日本生物地理学会会報. 66: 41–48.

Invasive Species Compendium <http://www.cabi.org/isc/datasheet/65338>

石川真一・斎藤 晋・峰村 宏・宍田 幸男・西村 尚之 (2013) ブックレット群馬大学11 外来生物の脅威ー群馬県における生息・生態・諸影響と除去方法ー. 上毛新聞社事業局出版部, 群馬. 88pp.

Ishikawa, T. and K. Tachihara (2013) Introduction history of non-native freshwater fish in Okinawa-jima Island: ornamental aquarium fish pose the greatest risk for future invasions. *Ichthyological Research* September 2013 Published online.

伊藤玄・北村淳一・谷口倫太郎・熊谷正裕 (2023) 文献情報に基づく日本産タナゴ亜科魚類における国内外来種の分布状況. 保全生態学研究 28: 125–135

Jang-Liaw NH, Tominaga K, Zhang C, Zhao Y, Nakajima J, Onikura N, Watanabe K (2019) Phylogeography of the Chinese false gudgeon, *Abbottina rivularis*, in East Asia, with special reference to the origin and artificial disturbance of Japanese populations. *Ichthyol Res* 66:460–478

Kakioka, R., T. Kokita, R. Tabata, S. Mori and K. Watanabe (2012) The origins of limnetic forms and cryptic divergence in *Gnathopogon* fishes (Cyprinidae) in Japan. *Environmental Biology of Fishes*, 96, 631–644. doi:10.1007/s10641-012-0054-x

環境省中国四国地方環境事務所 (2024) 岡山県内におけるスイゲンゼニタナゴの危機的状況について (外来タナゴ類の確認について) <https://chushikoku.env.go.jp/procure/alienbl.html> [2026年1月閲覧]

春日清一 (2001) 霞ヶ浦の外来魚による生態系崩壊. 国環研ニュース 20(4):3–4.

川合禎次・川那部浩哉・水野信彦 (編) (1980) 日本の淡水生物ー侵略と攪乱の生態学. 東海大学出版会, 神奈川. 220pp.

Kawamura, K., Nagata, Y., Ohtaka, H., Kanoh Y. & Kitamura, J. (2001) Genetic diversity in the Japanese rosy bitterling, *Rhodeus ocellatus kurumeus* (Cyprinidae). *Ichthyol. Res.*, 48: 369–378.

川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (監修・編) (2001) 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚 (改訂版). 山と溪谷社. 東京. 719pp.

北川忠生 (2017) メダカ改良品種による野生集団の遺伝的攪乱. 2017 年度 市民公開講座「第3の外来魚問題」ー人工改良品種の野外放流をめぐるー 要旨

北原佳郎 (2024) ヒナモロコ属魚類 *Aphyocypris kikuchii* の標準和名. *Ichthy* 48: 28–32.

Kottelat, M. and Freyhof, J. (2007) Handbook of European Freshwater Fishes. Kottelat, Cornol & Freyhof, Berlin, 646 pp.

栗田喜久・乾隆帝・中島淳・鬼倉徳雄 (2011) 福岡県北部の遠賀川水系山田川用水路における魚類の出現パターン. 日本生物地理学会会報. 66, 183–193.

Lever, C. (1996) Naturalized fishes of the world. Academic Press, San Diego. 436pp.

Liu H, Yang, Koji Tominaga, Chungung Zhang, Yahui Zhao, Jun Nakajima, Norio Onikura (2019) Katsutoshi Watanabe 1 Phylogeography of the Chinese false gudgeon, *Abbottina rivularis*, in East Asia, with special reference to the origin and artificial disturbance of Japanese populations. *Ichthyological Research* 66: 460–478.

Matsumoto, S., T. Kon, M. Yamaguchi, H. Takeshima, Y. Yamazaki, T. Mukai, K. Kuriwa, M. Kohda and M. Nishida (2009) Cryptic diversification of the swamp eel *Monopterus albus* in East and Southeast Asia, with special reference to the Ryukyuan populations. *Ichthyological Research* 57(1): 71–77.

松沢陽士・瀬能宏 (2008) 日本の外来魚ガイド. 文一総合出版. 東京. 157pp.

Miller, R. R. (2005) Freshwater fishes of Mexico. The University of Chicago Press. Chicago and London. 652pp.

Miyamoto, K., Fukuda, K. & Michita, Y. (2024) Evaluating the effectiveness of non-native brown trout suppression to improve native white-spotted charr stocking. *Ichthyol Res*, 71: 522–528. <https://doi.org/10.1007/s10228-024-00959-z>

諸澤崇裕・藤岡正博 (2007) 霞ヶ浦における在来4 種と外来3 種のタナゴ類 (*Acheilognathinae*) の生息状況. 魚類学雑誌 54(2): 129–137.

中島淳 (2020) ドジョウの実態とその保全. 農業および園芸 95(2):113–122.

中村亮太・泉北斗 (2022) 千葉県におけるカネヒラの新たな分布記録と繁殖の確認. *Niche Life* 10: 49–53.

中田和義・中岡利泰・五嶋聖治 (2006) 移入種ブラウントラウトが淡水産甲殻類に及ぼす影響: 絶滅危惧種ニホンザリガニへの捕食. 日本水産学会誌 72: 447–449.

日本魚類学会自然保護委員会編 (2013) 見えない脅威「国内外来魚」どう守る地域の生物多様性. 東海大学出版会, 神奈川. 254pp.

西田睦 (2001) モツゴの仲間. in: 松井 (監) 遺伝的多様性とは. 生物多様性センター, 富士吉田. 16–17.

野内孝則・荒山和則・富永敦 (2008) 霞ヶ浦北浦で確認された外来魚の導入経緯. 茨城内水試研報. 41: 47–54.

大浜秀規・加地奈々・青柳敏裕 (2011) 県内におけるヒメドジョウの生息状況. 山梨県水産技術センター事業報告書40: 30–33.

Page, M. & Burr, B. M. (1991) A Field Guide to Freshwater Fishes. North America North of Mexico. Houghton Mifflin Company. New York. 448pp.

Pusey, B., Kennard, M. & Arthington, A. (2004) Freshwater fishes of north-eastern Australia. CSIRO Publishing, Collingwood. 700pp.

Ruzycki, J. R., Beauchamp, D. A. & Yule, D. L. (2003) Effects of introduced lake trout on native cutthroat trout in Yellowstone Lake. *Ecological Applications* 13: 23–37.

Sakai, H, N. Nakashima, T. Uno, M. Yonehana, S. Kitagawa and M. Kuwahara (2011) A Pelagic Cyprinid of Lake Biwa *Gnathopogon caeruleus* and a Brooklet-Dwelling Relative *G. elongatus* formed a Hybrid Swarm in a Dammed Reservoir Lake Ono. *Journal of National Fisheries University*, 60: 43–50.

酒井治己・米花正三 (2012) 山口県小野湖産コイ科魚類モロコ *Gnathopogon* の筋肉タンパク質遺伝子型によって分けられる3 型間に形態的差異はあるか. *Journal of National Fisheries University*, 60: 145–150.

自然環境研究センター (編著) (2019) 決定版 日本の外来生物. 平凡社. 東京. 480pp.

瀬能宏 (2000) 今, 小田原のメダカが危ないー善意? の放流と遺伝子汚染. 自然科学のとびら. 6:14.

嶋津信彦 (2013) 沖縄島における外来魚ソードテールの分布拡大と駆除活動. 沖縄生物学会誌, 109–110.

清水孝昭・高木基裕 (2010a) 愛媛県に侵入したカラドジョウ集団内に見られた起源の異なる2つの遺伝子系統. 魚類学雑誌57(2): 125–134

清水孝昭・高木基裕 (2010b) ミトコンドリアDNA による愛媛県を中心としたドジョウの遺伝的集団構造と攪乱. 魚類学雑誌57(1): 13–26.

侵入生物データベース <http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>

田子泰彦 (2002) 神通川で漁獲されたサクラマス最近の魚体の小型化. 日本水産増殖学会誌, 50(3): 387–391.

高田未来美・立原一憲・西田睦 (2010) 琉球列島におけるフナ分布と生息場所: 在来フナと移殖フナの比較. 魚類学雑誌 57(2): 113–123

鷹見達也・吉原拓志・宮腰靖之・桑原連 (2002) 北海道千歳川支流におけるアメマスから移入種ブラウントラウトへの置き換わり. 日本水産学会誌, 68: 24–28.

谷口倫太郎・川瀬成吾・小山直人・野口亮太・浅野雅人・中田和義 (2025) 兵庫県で採集された日本初記録の外来タナゴ. 日本生態学会第72回全国大会 講演要旨

谷口倫太郎・高橋鉄美・川瀬成吾・佐藤萌柚・野口亮太・柴 杉杉・小山直人・浅野雅人・中田和義 (2025) 外来種 *Rhodeus albomarginatus* タイリクシロフチタナゴ (新称) の日本初記録および再生産. 日本生物地理学会会報. 80: 1–13.

竹花佑介 (2010) メダカ: 人為的な放流による遺伝的攪乱. 魚類学雑誌. 57(1): 76–79.

United States Geological Survey. <https://www.usgs.gov/>

USGS-NAS (United States Geological Survey – Nonindigenous Aquatic Species) <http://nas.er.usgs.gov/> [2026年1月閲覧]

渡辺勝敏・森誠一 (2012) ネコギギ: 積極的保全に向けたアプローチ. 魚類学雑誌, 59: 168–171.

Watanabe, K., Tabata, R., Nakajima, J., Kobayakawa, M., Matsuda, M., Takaku, K., Hosoya, K., Ohara, K., Takagi, M. & Jang-Liaw, N.-H. (2020) Large-scale hybridization of Japanese populations of *Hinamoroko*, *Aphyocypris chinensis*, with a *kikuchii* introduced from Taiwan. *Ichthyol. Res.* 67, 361–374.

Werner, R. G. (2004) Freshwater Fishes of the Northeastern United States. A FIELD GUIDE. Syracuse University Press. Canada. 335pp.

Woodford, D. J., Impson, N. D., Jenny, A. D. & Roger, B. (2005) The predatory impact of invasive alien smallmouth bass, *Micropterus dolomieu* (Teleostei: Centrarchidae), on indigenous fishes in a Cape Floristic Region mountain stream. *African Journal of Aquatic Science*, 30(2): 167–173.

Wydoski, R. S. & Whitney, R. R. (2003) Inland fishes of Washington. Univ. Washington Press. Singapore. 384pp.

山形県内水試 (2010) 研究成果 平成22年度「関東系ヤマメと地場産サクラマスと両者の交雑群の成熟とスモルト」

山梨県水産技術センター (2007) 研究課題: ヤマトイワナ種苗生産試験.

山崎浩二・阿部正之 (2007) 最新図鑑 熱帯魚アトラス. 平凡社. 東京. 559pp.
吉郷英範・岩崎誠 (2004) 沖縄島で繁殖している *Tanichthys albonubes* (硬骨魚類; コイ科). 比婆科学, 214: 25-26.
【分類の並びを準拠した文献】
科(亜科)レベルの配列: Nelson, J. S. 2016. Fishes of the World, 5th ed. John Wiley & Sons, New York, 601pp.
科レベル以下の配列: 細谷和海 (編著) (2019) 山溪ハンディ図鑑15 増補改訂 日本の淡水魚. 山と溪谷社
細谷 (2019) に掲載されていないものは学名のアルファベット順

<昆虫類>

秋田勝己・乙部宏・鈴木知之・中西元男・高桑正敏 (2011) 三重県に定着したフェモラータオオモモフトハムシ. 月刊むし, (485): 36-43.
秋田勝己・乙部宏・高桑正敏 (2010) 三重県のフェモラータオオモモフトハムシの駆除を試みて. 月刊むし, (473): 43-45.
荒谷邦雄 (2003) 外国産クワガタ・カブトの輸入規制緩和による在来個体群への影響. 遺伝, 57(4): 2-9.
荒谷邦雄 (2005) 最近の外国産クワガタムシ、カブトムシ事情. 昆虫と自然, 40(4): 27-32.
荒谷邦雄 (2003) ペットとして輸入される外国産コガネムシ上科甲虫の影響. 森林科学, 38: 21-32.
Catalogue of Life (COL) [2025年1月閲覧]
戎谷秀雄・宮武頼夫 (2011) 三重県におけるフェモラータオオモモフトハムシの2006年の記録. 月刊むし, (488): 41.
藤田宏 (2018) 伊豆諸島神津島にも定着した外来種・リュウキュウツヤハナムグリ. 月刊むし, (574): 9.
五箇公一・小島啓史 (2004) 外来昆虫の引き起こす問題ー外国産クワガタムシの輸入を巡って. 環動昆, 15(2): 137-146.
橋本佳明 (編) (2020) 外来アリのはなし. 朝倉書店, 東京. 187pp.
東正剛・緒方一夫、サンフォード・D・ポーター (2008) ヒアリの生物学: 行動生態と分子基盤. 海游社. 228pp.
堀繁久 (1996) カブトムシ. 東清二 (編著) 沖縄昆虫野外観察図鑑 第2巻甲虫目 [改訂]
細谷忠嗣 (2014) トカラ列島宝島における外来糞虫ヤエヤマニセツツマグソコガネの定着について. Kogane, (16): 95-98.
井岡稔貴・田中良尚 (2018) アマミマルバネクワガタとマキシムスマルバネクワガタ台湾亜種の異種間交雑例. さやばねニューシリーズ= Sayabane NS, (30), 56-58.
ISSG-GISD (Invasive Species Specialist Group – Global Invasive Species Database) <http://www.issg.org/database/welcome/>
岩田隆太郎 (2018) クビアカツヤカミキリ (*Aromia bungii*) の現状: その分類・分布・生理・生態・根絶法. 森林防疫, 67(6), 7-34.
岩田朋文 (2022) 富山県における外国産カブトムシ (アトラスオオカブト属) の野外での発見例3題. 富山市科学博物館研究報告, 46, 67-68.
岩田朋文 (2024) 富山県における外国産クワガタムシ (アルキデスヒラタクワガタ) の野外での発見例. 富山市科学博物館研究報告, 48, 65-66.
環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室 (2013) アルゼンチンアリ防除の手引き (改訂版). 環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室, 東京.
Kanbe, Y., Okada, I., Yoneda, M., Goka, K. & Tsuchida, K. (2008) Interspecific mating of the introduced bumblebee *Bombus terrestris* and the native Japanese bumblebee *Bombus hypocrita sapporoensis* results in inviable hybrids. Naturwissenschaften, 95(10): 1003-1008.
環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編) (2015) レッドデータブック2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 5昆虫類. p434.
苅部治紀・松本浩一・尾園暁 (2008) カンショオサゾウムシによるノヤシ加害についての速報. 小笠原研究年報, (31): 95-99.
苅部治紀・松本浩一・尾園暁 (2009) 小笠原諸島におけるカンショオサゾウムシによるノヤシの被害続報. 小笠原研究年報, (32): 71-78.
苅部治紀・加賀玲子 (2019) 神奈川県におけるムネアカハラビロカマキリの新産地と分布拡大に関する生態的知見. Bull. Kanagawa prefect. Mus. (Nat. Sci.) 48: 75-80.
片野田逸朗・谷口明 (1997) 奄美群島に侵入したタイワンカブトムシの生態と防除. 鹿児島県林試研報, 3: 1-26.
川口エリ子・米森正悟・坂巻祥孝・高木貞夫 (2024) 奄美大島でみられたソテツシロカイガラムシ (新称) (半翅目: マルカイガラムシ科) の同定とソテツの被害発生状況. 樹木医学研究. 28(1): 3-9.
川井信矢 (2000) 日本及び台湾初記録のニセツツマグソコガネ. 鰐角通信, (1): 9-11.
岸本圭子・岸本年郎・酒井香・寺山守・太田祐司・高桑正敏 (2017) 国内外来種を含む訪花性ハナムグリ亜科5種の発生状況ー東京港野鳥公園の事例ー. 保全生態学研究, 22(1): 159-170.
小林裕和・松岡進樹 (2010) アオドウガネとヤマトアオドウガネ. 鰐角通信, (21): 93-96.
小林陽允・寺山守・砂村栄力・江口克之・小栗 恵美子 (2024) 日本における外来種アシジロヒラフシアリの侵略性に関わる生態情報. 衛生動物, 75(3): 163-168.
小濱継雄・嵩原建二 (2002) 沖縄県の外来昆虫. 沖縄県立博物館紀要, 28, 55-92.
国立環境研究所侵入生物データベース [2025年1月閲覧]
近藤健・大林隆司・小野剛・竹内浩二・井川茂・小谷野伸二 (2009) 小笠原諸島父島におけるアメリカシロヒトリの発生消長. 関東東山病害虫研究会報第56集, pp.103-106.
楠井善久 (2005) 沖縄のシロテンハナムグリ属における固有種と外来種の種間交雑について (学会発表).
九州地方環境事務所 (2023) ツマアカスズメバチ防除計画. <https://kyushu.env.go.jp/content/000129566.pdf> [2025年10月閲覧]
Lee, S., Lee, M. H., Choi, W., Jang, H., Kim, J. & Lee, S. (2025) Establishment of *Sagra femorata* (Coleoptera: Chrysomelidae) in South Korea.
楨原 寛 (2002) 外来の森林・木材害虫ー中国産ツヤハダゴマダラカミキリのアメリカへの侵入と日本への波及. 昆虫と自然, 37(3): 20-22.
元陳力昇・森 英章 (2022) 国内外来生物ヤエヤママドボタルの分布拡大によるアマノヤマタカマイマイへの影響および保全に向けた取り組みについて. 日本貝類学会令和4年度大会.
武藤将道・吉井重幸・塘忠顕 (2022) 福島県で最近発見された外来カミキリ *Apriona swainsoni swainsoni* (Hope, 1840) (コウチュウ目・カミキリムシ科・フトカミキリ亜科) の分布, 食害および後食に関する予備的な報告. 昆虫. ニューシリーズ, 25(1): 18-24.
日本生態学会 (編) (2002) 外来種ハンドブック. 地人書館, 東京. 390pp.
日本チョウ類保全協会 (編) (2019) フィールドガイド増補改訂版日本のチョウ. 誠文堂新光社. 東京, 343pp.
日本列島昆虫全種目録 [2025年1月閲覧]
野林千枝 (2004) 沖縄島産シロテンハナムグリの変異. 鰐角通信 (8): 15-20.
織谷幸太・織谷咲良 (2021) 神奈川県川崎市およびその多摩川対岸におけるリュウキュウツヤハナムグリの記録. 月刊むし, (610)
大田真人 (2012) 東京都大田区でリュウキュウツヤハナムグリを採集. 月刊むし, (502): 16.
嶋本習介 (2014) 千葉県でリュウキュウツヤハナムグリを採集. 月刊むし, 516: 46-47.
自然環境研究センター (編著) (2019) 最新 日本の外来生物. 平凡社. 東京, 592pp.
田中宏卓・紙谷聡志 (2025) 奄美大島と沖縄島に侵入したソテツシロカイガラムシは種が異なる?. 日本昆虫学会第85回講演要旨.
田付貞洋 (編) (2014) アルゼンチンアリ 史上最強の侵略的外来種. 東京大学出版会. 331pp.
田付貞洋 (編) アルゼンチンアリー史上最強の侵略的外来種. 東京大学出版会. 東京, 331pp.
寺山守 (2018) アカヒアリ (ヒアリ): 概説と最近の動向. <https://terayamajimdofree.com/> [2025年7月閲覧]
寺山守 (2024) コカミアリ概説. <https://terayamajimdofree.com/> [2025年7月閲覧]
寺山守 (2022) ホクベイヒアリ *Solenopsis xyloni* の国内での発見. 蟻 (43). 34-37.
寺山守 (2018) アルゼンチンアリ概説. <https://terayamajimdofree.com/> [2025年7月閲覧]
辻本悟志 (2023) 外来のカイガラムシ *Aulacaspis yasumatsui* によるソテツの被害と防除. https://churashima.okinawa/sp/userfiles/files/240813_kaigaramusi.pdf [2025年7月閲覧]
辻本悟志・亀山統一・久保駿太郎・山城勝・高山新吾・吉元充・川口エリ子・坂巻祥孝 (2024) ソテツに加害するカイガラムシ *Aulacaspis yasumatsui* の沖縄島への侵入実態とその薬剤防除上の課題. 樹木医学研究. 28(3). 147-151.
Villemant, C., Barbet-Massin, M., Perrard, A., Muller, F., Gargominy, O., Jiguet, F. & Rome, Q. (2011) Predicting the invasion risk by the alien bee-hawking Yellow-legged hornet *Vespa velutina nigrithorax* across Europe and other continents with niche models. Biological Conservation, 144: 2142-2150.
Yamasaki K, K Shütte & T Nawa (2022) New record of Chinese Reddish Mantis, *Hierodula chinensis* Werner, 1929 (Mantodea, Mantidae) from Japan. Check List 18 (1) 147-150.
Yokoyama, J. & M. Inoue (2010) Status of the range expansion of an introduced bumblebee, *Bombus terrestris* (L.), in Japan. Applied Entomology and Zoology, 45(1): 21-27.
要緊急対処特定外来生物 ヒアリに関する情報 (環境省) [2025年7月閲覧]
【分類の並びを準拠した文献】
日本昆虫目録に従った. 日本昆虫目録に掲載されていないものについては準ずるWebサイト (日本列島昆虫全種目録、Antwiki) を参考とした。

<陸生節足動物>

Clark, R. F., Wethern-Kestner, S., Vance, M. V. & Gerkin, R. (1992) Clinical presentation and treatment of black widow spider envenomation: a review of 163 cases. Annals of emergency medicine, 21(7): 782-787.
Dželalija, B. & A. Mediæ (2003) *Latrodectus* Bites in Northern Dalmatia, Croatia: Clinical, Laboratory, Epidemiological, and Therapeutical Aspects. Croatian medical journal, 44(2): 135-138.
江口克之・塚 本将・Francesco Ballarin・沓 掛丈・薄田真由 (2022) 台湾原産の不快感虫であるヤンバルトサカヤスデ *Chamberlinius hualienensis* (オビヤスデ目ヤケヤスデ科) の東京都本土における初確認. 衛生動物, 73(2): 59-61.

藤山静雄(2009)外来種ヤンバルトサカヤスデの日本本土での定着の可能性について. 信州大学環境科学年報, 31: 133–136.
ゴケグモ情報センターHP <http://www.insbase.ac/xoops2/modules/bwiki/> [2026年1月閲覧]

石田剛之・藤山静雄(2010)ヤンバルトサカヤスデ *Chamberlinius hualienensis* Wang の産卵誘起に及ぼす温度と日長の影響(予報). 信州大学環境科学年報, 32: 99–102.

国立保険医療科学院(2016)No.1380 輸入衣服に付着して侵入したサソリによる刺症事例. [2025年1月閲覧]

森戸浩明(2017)イトグモ(*Loxosceles rufescens*)によるイトグモ咬症(loxoscelism)の1例. 日本皮膚科学会雑誌, 127(6): 1339–1344.

新島溪子(2002)ヤンバルトサカヤスデによる列車妨害記録. Edaphologia, 69: 47–49.

小野博嗣(編著)(2009)日本産クモ類. 東海大学出版会, 秦野. 738pp.

自然環境研究センター(編著)(2019)決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京. 480pp.

清水裕行・金沢至・西川喜朗(2014)日本のゴケグモ類5種の分布状況とセアカゴケグモの分散方法に関する考察. 大阪市立自然史博物館研究報告, 68, 41–51.

新海栄一(編著)(2017)ネイチャーガイド, 日本のクモ(増補改訂版). 文一総合出版, 東京. 407pp.

Taucare-Ríos A., Nentwig, W., Bizama, G. & Bustamante, R.O. (2018) Matching global and regional distribution models of the recluse spider *Loxosceles rufescens*: to what extent do these reflect niche conservatism? Medical and Veterinary Entomology, 32(4), 490–496.

【分類の並びを準拠した文献】
日本分類学連合ウェブサイト 日本産生物種数調査 <http://www.ujssb.org/biospnum/search.php>

＜甲殻類＞

Cohen, A.N., Carlton, J.T., Fountain, M. C. (1995) Introduction, dispersal and potential impacts of the green crab *Carcinus maenus* in San Francisco Bay, California. Marine Biology, 122: 225–237.

Darling, J. A. & Tepolt, C. K. (2008) Highly sensitive detection of invasive shore crab (*Carcinus maenas* and *Carcinus aestuarii*) larvae in mixed plankton samples using polymerase chain reaction and restriction fragment length polymorphisms (PCR-RFLP). Aquatic Invasions, 3(2): 141–152.

Dick, Jaimie T. A. & Platvoet, Dirk (2000) Invading predatory crustacean *Dikerogammarus villosus* eliminates both native and exotic species. Proc. R. Soc. Lond. B. 267: 977–983.

Dick, Jaimie T.A., Platvoet, Dirk. & Kelly, David W. (2002) Predatory impact of the freshwater invader *Dikerogammarus villosus* (Crustacea: Amphipoda). Can. J. Fish. Aquat. Sci. 59: 1078–1084.

Dittel, A.I., Epifanio, C.E. (2009) Invasion biology of the Chinese mitten crab *Eriocheir sinensis*: a brief review. Journal of Experimental Marine Biology and Ecology, 374: 79–92.

土井航・渡邊精一・風呂田利夫(2009)大都市近郊の内湾域に定着した外来種のカニたち. 海の外来生物-人間によって攪乱された地球の海. 日本プランクトン学会・日本ベントス学会編, 東海大学出版会: 76–90.

Doi, W., Inuma, Y., Yokota, M. & Watanabe, S. (2009). Comparative feeding behavior of invasive (*Carcinus aestuarii*) and native crabs (*Hemigrapsus takanoi*). Crustacean Research, 38: 1–11.

Grosholz, E.D. (2005) Recent biological invasion may hasten invasional meltdown by accelerating historical introduction. PNAS (Proceedings of the National Academy of Science of the United States of America), 102: 1088–1091.

星野 亨・群馬県立尾瀬高等学校理科部・大高 明史・スミス ロビン J. (2023) 群馬県菅沼におけるウチダザリガニ *Pacifastacus leniusculus* と共生ヒルミズおよび貝形虫の新記録. 群馬県立自然史博物館研究報告, 27: 99–106.

池末弥(1967)コウライエビの増養殖に関する研究-I. 水産増殖, 15(2): 1–5.

池末弥・木村重人・山下康夫(1967)コウライエビの増養殖に関する研究-III. 水産増殖, 15(2): 33–42.

今井正・小笠原長護・斉藤英俊(2021)豊田市と大府市における淡水エビの外来種チュウゴクスジエビの記録. 矢作川研究, (25): 15–19.

岩崎敬二・逸見泰久・木村妙子・佐藤慎一・中山聖子・風呂田利夫・阿部博和・大谷道夫・柏尾 翔・加戸隆介・小玉将史・斉藤英俊・土井 航・西川輝昭・平野弥生・山口寿之・良永知義(印刷中). 日本の海産外来種: 2002–2003年と2022–2023年のアンケートの結果から. 日本ベントス学会誌, 80(1).

加戸隆介(2006)キタアメリカフジツボ-北米からきて北日本の潮間帯を席卷した新しい移入種-. In: 日本付着学会編 フジツボ類の最新学 知られざる固着性甲殻類と人とのかわり: 80–92.

加戸隆介(2017)北日本に侵入・定着した新しい移入フジツボ 2 種の特徴と分布拡大. マリンエンジニアリング, 52(1): 3–8.

Kado, R. & Nanba, N. (2006) Balanus glandula: a new alien barnacle from the west coast of North America, established on the northeast coast of Japan. Assessment and control of biological invasion risks: 210–211.

Kado, R., & Nanba, N. (2016) Normality of succession of an intertidal community after the great east Japan earthquake. In Ecological Impacts of Tsunamis on Coastal Ecosystems: Lessons from the Great East Japan Earthquake. Springer, Tokyo, 2016: 11–24.

Kakui, K. & Komai, T. (2022) First record of *Scutariella japonica* (Platyhelminthes: Rhabdocoela) from Hokkaido, Japan, and notes on its host shrimp Neocaridina sp. aff. davidi (Decapoda: Caridea: Atyidae). Aquatic Animals, 2022: AA2022–1.

環境省(2020). 特定外来生物等の選定作業が必要と考えられる外来生物及び輸入届出が出された未判定外来生物に係る情報及び評価(案)(昆虫等陸生節足動物、無脊椎動物、植物) https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/data/sentei/12/03_zentai_12_siryos3.pdf

金田彰二・倉西良一・石綿進一・東城幸治・清水高男・平良裕之・佐竹潔(2007)日本における外来種フロリダマミズヨコエビ(*Crangonyx floridanus* Bousfield)の分布の現状. 陸水学雑誌, 68(3): 449–460.

北田修一(2016)種苗放流の効果と野生集団への影響. 日本水産学会誌, 82(3): 241–250.

Kobayashi, S. (2012). Molting growth patterns of the Japanese mitten crab *Eriocheir japonica* (De Haan) under laboratory-reared conditions. Journal of Crustacean Biology, 32(5): 753–761.

小松浩典(2023)自然教育園に侵入した外来種シナヌマエビ種群 *Neocaridina* spp. Reports of the Institute for Nature Study, 55: 11–14.

倉西良一(2009)多摩川水系に侵入した外来動物「フロリダマミズヨコエビ」の分布・拡散の現状と生態系への影響予測: 2008年. とうきゅう環境浄化財団. 96pp.

丸山為蔵・藤井一則・木島利通・前田弘也(1987)外国産新魚種の導入経過 水産庁研究部資源課・水産庁養殖研究所. 157pp.

Mori, K & Tanaka, M. (1989) Intertidal community structure and environmental conditions of exposed and sheltered rocky shores in Amakusa, Japan. Publications from the Amakusa Marine Biological Laboratory, Kyushu University, 10: 41–64.

森敬介(2006)内湾護岸壁におけるフジツボ類の空間競争. 『フジツボ類の最新学』(日本付着生物学会編). 恒星社厚生閣, 東京. 112–128.

西野麻知子・丹羽信彰(2004)新たに琵琶湖へ侵入したシナヌマエビ?(予報). オウミア.

Noordhuis, R., van Schie, J. & Jaarsma, N. (2009) Colonization patterns and impacts of the invasive amphipods *Chelicorophium curvispinum* and *Dikerogammarus villosus* in the IJsselmeer area. The Netherlands. Biological Invasions, 11(9): 2067–2084.

大森正之(2022)諫早湾干拓による漁業資源の劣化から再生へ. 明大商学論叢, 104(2): 17–32.

大貫貴清・鈴木伸洋・秋山信彦(2010)静岡県浜松市の溜池で新たに発見された移入種 *Palaemonetes sinensis* の雌の生殖周期. 水産増殖, 58(4): 509–516.

斉藤英俊・鬼村直生・米谷公宏・清水識裕・小林薫平・児玉敦也・河合幸一郎(2017)外来釣り餌動物チュウゴクスジエビ *Palaemon sinensis* の出現状況. 広島大学総合博物館研究報告, (9): 33–39.

自然環境研究センター(編著)(2019)最新 日本の外来生物 平凡社, 東京. 592pp.

東城幸治(2009)外来種フロリダマミズヨコエビと在来ヨコエビ種間の個体群ダイナミクス追求、ならびに外来種の分布拡大防止策検討. 河川整備基金助成事業. 69pp.

Trussell, G. C. (2000) Phenotypic clines, plasticity, and morphological trade-offs in an intertidal snail. Evolution, 54: 151–166.

内田大貴・山川宇宙・碧木健人・皆川優作・神田雅治(2021)埼玉県で確認された外来種チュウゴクスジエビ *Palaemon sinensis*. 埼玉県立自然の博物館研究報告, 15: 33–36.

Vogt, G., Falckenhayn, C., Schrimpf, A., Schmid, K., Hanna, K., Panteleit, J., Helm, M., Schulz, R., & Lyko, F. (2015) The marbled crayfish as a paradigm for saltational speciation by autopolyploidy and parthenogenesis in animals. Biology open, 4(11): 1583–1594.

山口寿之(2009)新たな外来フジツボ 最新情報 海の外来生物, 日本プランクトン学会・日本ベントス学会編, 東海大学出版会, 神奈川: 49–71,

山口寿之(1989)外国から日本に移住したフジツボ類, 特に地理的分布および生態の変化. 神奈川自然誌資料, 10:17–32.

Yamaguchi, T., Prabowo, R. E., Ohshiro, Y., Shimono, T., Jones, D., Kawai, H., Otani, M., Oshino, A., Inagawa, S., Akaya, T. & Tamura, I. (2009). The introduction to Japan of the Titan barnacle, Megabalanus coccopoma (Darwin, 1854) (Cirripedia: Balanomorphs) and the role of shipping in its translocation. Biofouling, 25: 325–333.

山口寿之・大城祐・稲川奨(2011)外来種ココポーマアカフジツボの越境と遺伝的特性. 遺伝: 生物の科学, 65(1): 90–97.

山口寿之(2014)外来種ココポーマアカフジツボの国内分布. Sessile Organisms, 31(2): 15–23.

【分類の並びを準拠した文献】
掲載されている階級はBrusca et al. 2023. “Invertebrates 4th ed.”に準拠し、掲載されていない階級は、現行リストを参考に整理

＜軟体動物＞

愛知県環境局 環境政策部自然環境課 野生生物・鳥獣グループ(2021)愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち2021 <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/gairai-download.html>

愛知県環境局 環境政策部自然環境課 野生生物・鳥獣グループ (2012) 愛知県移入種対策ハンドブック-ブルーデータブックあいち2012
https://kankyojoho.pref.aichi.jp/Download/Download/08_shiryolist.pdf

Barker, G. M. & McGhie, R. A. (1984) The biology of introduced slugs (Pulmonata) in New Zealand. 1. Introduction and notes on introduction and notes on *Limax maximus* The New Zealand Entomologist 8:106-111.

Brannock, P.M., Wetthey, D.S. & Hilbish, T. J. (2009) Extensive hybridization with minimal introgression in *Mytilus galloprovincialis* and *M. trossulus* in Hokkaido, Japan. Marine Ecology Progress Series, 383: 161-171.

遠藤雅実・佐々木淳 (2020) ホンビノスガイの貧酸素環境耐性およびへい死量推定に関する検討. 土木学会論文集 B2 (海岸工学), 76(2): 1_1057-1_1062.

Fisher, Theodore W., Orth, Robert E., Swanson, Stuart C. (1980) Snail against snail. California Agriculture, Nov-Dec. pp.18-21.

福田宏 (2003) 西日本における貝類の移入. 日本ベントス学会自然環境保全委員会, 企画シンポジウム「移入海産ベントスの生息状況と環境的課題」報告. 日本ベントス学会誌, 58: 99-100.

福田宏 (2004) 外来種と同定の問題. 日本ベントス学会誌, 59: 68-73.

福岡県 環境部 自然環境課 野生生物係. (2018). 福岡県侵略的外来種リスト2018 第2章 福岡県侵略的外来種リスト選定種の解説.
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/39348.pdf>

萩原富司・白井亮久・諸澤崇裕・熊谷正裕・荒井聡 (2021) 霞ヶ浦におけるイケチョウガイ属 *Sinohyriopsis* spp. の定着. 伊豆沼・内沼研究報告, 15: 139-149.

Haubrock, P. J., Cuthbert, R.N., Ricciardi, A., Diagne, C. & Courchamp, F. (2022) Economic costs of invasive bivalves in freshwater ecosystems. Diversity and Distributions 28:1010-1021

樋口広芳・長谷川雅美・上條隆志・岩崎由美・菊池健・森由香 (2020) 伊豆諸島八丈小島におけるノヤギ駆除後の島嶼生態系回復状況と復元に向けた基礎調査—伊豆諸島自然史研究会—. 自然保護助成基金助成成果報告書, 29: 94-102.

平野尚浩・田谷昌仁・伊藤 舜・工藤広大・和田慎一郎 (2023) 外来陸産貝類アジアベッコウは陸産貝類の生体を捕食する. 日本貝類学会令和5年度大会.

樋渡武彦・木幡邦男 (2005) 東京湾に移入した外来大型二枚貝ホンビノスガイについて. 水環境学会誌, 28(10): 8-21.

北海道 環境生活部自然環境局 自然環境課(生物多様性). (2025年3月26日更新). 北海道ブルーリスト2010 北海道外来種データベース
https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/alien/bluelist/bluelist_top.html

Hsiao & Chuang (2023) Meretrix taiwanica (Bivalvia: Veneridae), a previously misidentified new species in Taiwan. Molluscan Research, 43(1): 12-21.

石田惣 (2020) 市民科学による大阪府のオオクビキレガイの生息調査, 並びに分布の現況. Venus (Journal of the Malacological Society of Japan), 78(3-4), 105-118.

岩崎敬二 (2019) Distribution of native Mytilus trossulus and non-native M. galloprovincialis (Mytilidae: Bivalvia) along the coast of Hokkaido Island, Japan. 奈良大学紀要, (47): 37-54.

Iwasaki, K. (2024) Negative Impacts on Native Intertidal Zonation by the Non-Indigenous Mytilid Mussel Xenostrobus securis. 奈良大学紀要, (52): 51-69.

Iwasaki, K., & Yamamoto, H. (2014). Recruitment and population structure of the non-indigenous brackish-water mytilid Xenostrobus securis (Lamarck, 1819) in the Kino River, Japan. Aquatic Invasions, 9(4): 479-487.

岩崎敬二・木村妙子・木下今日子・山口寿之・西川輝昭・西栄二郎・山西良平・林 育夫・大越健嗣・小菅丈治・鈴木孝男・逸見泰久・風呂田利夫・向井 宏 (2004). 日本における海産生物の人為的移入と分散: 日本ベントス学会自然環境保全委員会によるアンケート調査の結果から. 日本ベントス学会誌, 59: 22-44.

岩崎敬二・木下今日子 (2004) 日本に人為的に移入された非在来海産ベントスの分布拡大について. 日本プランクトン学会報, 51(2): 132-144.

岩崎敬二・逸見泰久・木村妙子・佐藤慎一・中山聖子・風呂田利夫・阿部博和・大谷道夫・柏尾 翔・加戸隆介・小玉将史・斉藤英俊・土井 航・西川輝昭・平野弥生・山口寿之・良永知義(印刷中). 日本の海産外来種: 2002-2003年と2022-2023年のアンケートの結果から. 日本ベントス学会誌, 80(1).

国土交通省 河川局 環境課 (2024) 令和4年度河川水辺の国勢調査結果の概要[河川版](生物調査編) II. 調査項目別調査結果の概要 2. 底生動物調査結果の概要. 環境省 参考資料2 リスト案についての各学会からの意見<動物(その他無脊椎動物)>. 63pp.

Kimura, K. (2015). Interference effect of the alien land snail Macrochlamys sp. on the native land snail Bekkochlamys perfragilis. Research Bulletin of Environmental Education Center, Miyagi University of Education, 17: 59-61.

木村妙子 2009. 海の外来貝類の現状と研究のススメ. 日本プランクトン学会・日本ベントス学会(編), 海の外来生物. 東海大学出版会, 秦野市. pp. 33-48.

近藤健・五十嵐清晃(営農研修所) (2021) 野菜, 果樹, 花卉・切葉類の生産性向上～外来カタツムリ「アジアベッコウ」の農作物に対する食性調査及び農薬による防除効果の検討～, 亜熱帯における農業技術の普及及び経営指導, 1 野菜, 果樹, 花卉, 切葉類の生産向上 (6)

京都府 総合政策環境部 自然環境保全課 (2024) 京都府外来種データブック(2020) その他無脊椎動物(貝類・海産生物以外).
<https://www.pref.kyoto.jp/gairai/databook2020.html>

増田ほか (2010) 兵庫県初記録の外来淡水腹足類コモチカワツボ (ミズツボ). 兵庫陸水生物, 61: 149-153.

Matsukuma, A., and S. Takeda (2009) An invasive snail Rumina decollata (Linnaeus, 1758) in Japan, with records of quarantine by the Plant Protection Station, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries, Japan during 1997-2007. Bulletin of the Kyushu University Museum 7: 35-85.

Matsukura, Keiichiro., Mitsuru Okuda and Yakashi Wada (2008) Genetic divergence of the genus Pomacea (Gastropoda: Ampullariidae) distributed in Japan, and a simple molecular method to distinguish P. canaliculata and P. insularum. Applied entomology and zoology, 43 (4): 535-540.

中村泰男・金谷弦・小泉知義・牧秀明 (2012) 大井人工干潟(京浜運河・東京湾) 周辺の環境変動と二枚貝の生残: とくに溶存酸素濃度と底泥硫化物に着目して. 水環境学会誌, 35(8): 127-134.

根本隆夫・杉浦仁治・古丸明 (2003) 利根川・霞ヶ浦北浦における外来シジミの分布について. 茨城内水面水産試験場調査研究報告, 38: 32-41.

日本生態学会 (編) (2002) 外来種ハンドブック. 地人書館. 東京. 390pp.

大越健嗣・大越和加(編) (2011) 海のブラックバス サキグロタマツメタ 恒星社厚生閣, 東京. 244pp.

大越健嗣 (2004) 輸入アサリに混入して移入する生物—食害生物サキグロタマツメタと非意図的移入種. 日本ベントス学会誌, 59, 74-82.

Rollo, D.C. (1983) Consequences of competition on the reproduction and mortality of three species of terrestrial slugs. Researches on Population Ecology 25: 20-43.

佐々木哲朗・佐竹潔・土屋光太郎 (2009) 小笠原諸島における外来種ヌメカワニナと固有種オガサワラカワニナの分布, 特に河川改修工事が与える影響について. 陸水学雑誌, 70(1): 31-38.

白井亮久・近藤高貴・梶田忠 (2010) 分子データから示された琵琶湖固有の絶滅危惧種イケチョウガイの移入種ヒレイケチョウガイによる遺伝的攪乱. Venus (Journal of the Malacological Society of Japan), 68(3-4): 151-163.

高倉耕一 (2008) 大阪およびその周辺地域に優占する外来巻貝ハブタエモノアラガイ *Lymnaea columella* (Say) とその自家受精による繁殖能力. 大阪市立環科研報報告 平成19年度 第70集: pp.43-51.

寺本沙也加・阿部陽・小林俊将 (2024) 東北太平洋沿岸におけるヨーロッパヒラガキ (軟体動物門: 二枚貝綱: イタボガキ科) の移入と定着状況について. Venus (Journal of the Malacological Society of Japan), 82(1-4): 133-151.

梅谷献二(編) (2012) 原色図鑑 外来害虫と移入天敵. 全国農村教育協会. 404pp.

浦部美佐子 (2007) 本邦におけるコモチカワツボの現状と課題. 陸水学雑誌, 68: 491-496.

Yamakawa, A.Y. & Imai, H. (2012) Hybridization between *Meretrix lusoria* and the alien congeneric species *M. petechialis* in Japan as demonstrated using DNA markers. Aquatic Invasions, 7: 327-336.

Yamakawa & Imai (2013) PCR-RFLP typing reveals a new invasion of Taiwanese Meretrix (Bivalvia: Veneridae) to Japan, Aquatic Invasions (2013) Volume 8, Issue 4: 407-415.

山崎友資・川南拓丸・岸本喜樹・澤野直紀・五嶋聖治 (2009) 北海道南部に置ける外来種シマメノウフネガイの抱卵と漁業被害. ちりぼたん, 39:156-161.

横山寿 (2019a) 外来シジミ類の分類と生態- I 日本と世界における侵入・拡散. 陸水学雑誌, 80(3): 125-144.

横山寿 (2019b) 外来シジミ類の分類と生態- II 生物学の特徴と生態系への影響. 陸水学雑誌, 80(3): 145-163.

【分類の並びを準拠した文献】
掲載されている階級はBrusca et al. 2023: “Invertebrates 4th ed.”に準拠し、掲載されていない階級は、現行リストを参考に整理

＜その他無脊椎＞

Benítez-Álvarez, L., Leria, L., Sluys, R., Leal-Zanchet, A. M., & Riutort, M. (2023) Niche modelling and molecular phylogenetics unravel the colonisation biology of three species of the freshwater planarian genus Girardia (Platyhelminthes, Tricladida). Hydrobiologia, 850(14): 3125-3142.

福岡県 環境部 自然環境課 野生生物係 (2018) 福岡県侵略的外来種リスト2018 第2章 福岡県侵略的外来種リスト選定種の解説.
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/39348.pdf>

Hookabe, N., Hiruta, F S., Yabuki, A., Yoshino, H., Hisasue, Y., Sawada, N., Ueshima, R. & Kajihara, H. (2025) Unrecognized species-level diversity of terrestrial nemerteans in the UNESCO world heritage Ogasawara Islands revealed by mitogenomics. , BMC Ecology and Evolution, 25, 135: 1-16.

ISSG-GISD (Invasive Species Specialist Group - Global Invasive Species Database) <https://www.iucngisd.org/gisd/>

Ivanov, V. P., Kamakin, A. M., Ushivtzev, V. B., Shiganova, T., Zhukova, O., Aladin, N., Wilson, S. I., Harbison, G. R., & Dumont, H. (2000) Invasion of the Caspian Sea by the comb jellyfish *Mnemiopsis leidyi* (Ctenophora). Biological Invasions, 2: 255-258.

Iwai, N., S. Sugiura, Chiba, S. (2010) Predation impacts of the invasive flatworm *Platydemus manokwari* on eggs and hatchlings of land snails. Journal of Molluscan Studies, 76(3): 275-278.

岩崎敬二・逸見泰久・木村妙子・佐藤慎一・中山聖子・風呂田利夫・阿部博和・大谷道夫・柏尾 翔・加戸隆介・小玉将史・斉藤英俊・土井 航・西川輝昭・平野弥生・山口寿之・良永知義(印刷中). 日本の海産外来種:2002-2003年と2022-2023年のアンケートの結果から. 日本ベントス学会誌, 80(1).

Jones, H. D., & Sterrer, W.O.L.F.G.A.N.G. (2005). Terrestrial planarians (Platyhelminthes, with three new species) and nemertines of Bermuda. Zootaxa, 1001(1): 31-58.

金森誠・馬場勝寿・長谷川夏樹・西川輝昭(2012) 外来種ヨーロッパザラボヤ *Ascidella aspersa* (Müller, 1776) の生物学的特徴と簡易識別および同定について(技術報告). 北水試研報, 81: 151-156.

環境庁(1977) 松くい虫防除特別措置に関する調査研究 昭和52年3月 自然環境保全のための調査研究.

川勝正治・西野麻知子・大高明史. (2007). プラナリア類の外来種. 陸水学雑誌, 68(3), 461-469.

川勝正治・鶴田大三郎・木村知之・茅根重夫・村山 均・山本清彦 (2008) 日本の平地水域のプラナリア類-在来種と外来種の手引き. <http://www.riverwin.jp/pl/flatland/Flatland%20FPs%202008%20Shibuki-%20tsubo%20in%20Jap.pdf>

京都府 総合政策環境部 自然環境保全課 (2002) 京都府レッドデータブック2002 甲殻類およびその他の淡水産無脊椎動物. <https://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb2002/bio/crustacea.html>

京都府 総合政策環境部 自然環境保全課 (2024) 京都府外来種データブック(2020) その他無脊椎動物(貝類、海産生物以外). <https://www.pref.kyoto.jp/gairai/databook2020.html>

宮下実・原田愛美・野口真実 (2014) <調査報告> オオマリコケムシの和歌山県における初確認と紀の川市・岩出市の文布状況. 近畿大学先端技術総合研究所紀要, 19: 1-11.

大林隆司 (2021) オガサワラリクヒモムシが父島でカマドコオロギを捕食. 小笠原研究年報, (44): 51-53.

Schwindt, E., Iribarne, O. O., & Isla, F. I. (2004) Physical effects of an invading reef-building polychaete on an Argentinean estuarine environment. Estuarine, Coastal and Shelf Science, 59(1): 109-120.

Shinobe, S., Uchida, S., Mori, H., Okochi, I., & Chiba, S. (2017) Declining soil Crustacea in a World Heritage Site caused by land nemertean. Scientific Reports, 7(1): 12400.

SHOJI, K. & KARUBE, H. (2023). Predation by terrestrial flatworm platydemus sp.(Tricladida: Continenticola: Geoplanidae: Rhynchodeminae) on an adult of Rhinocypha ogasawarensis (Odonata: Zygoptera: Chlorocyphidae). Tombo: Acta odonatologica Japonica, 66: 60-62.

Sluys, R., Kawakatsu, M., & Yamamoto, K. (2010). Exotic freshwater planarians currently known from Japan. Belgian Journal of Zoology, 140(Suppl.), 103-109.

Sugiura, S., Okochi, I., & Tamada, H. (2006). High predation pressure by an introduced flatworm on land snails on the oceanic Ogasawara Islands 1. Biotropica, 38(5), 700-703.

YOSHINO, H. (2024) Current distribution and field observations of the invasive land nemertean, Geonemertes sp., and some isopods in the Bonin (Ogasawara) Islands. 小笠原研究, (51): 45-56.

【分類の並びを準拠した文献】

掲載されている階級はBrusca et al. 2023: "Invertebrates 4th ed."に準拠し、掲載されていない階級は、現行リストやその他文献を参考に整理